IG KOGYO

専門業者様向け

アイジールーフ
施工説明書 改修用

◆スーパーガルテクトフッ素
◆スーパーガルテクト
◆スーパーガルテクトC

2025年6月版

施工説明書のご使用にあたって

●施工説明書は、アイジールーフを安全に正しく施工をしていただくための重要な情報を記載しています。

●施工説明書に記載の基本事項をご理解の上、実際の現場に即した、安全で確実な設計と施工を行っていただきますようお願い致します。

●アイジールーフの保証には、施工説明書に記載された方法に従って取り扱いいただくことが必要です。

●施工説明書に記載している設計基準・施工基準を満たさない納まりや施工方法は、弊社では責任を負いかねますので、元請様や工事店様のご判断とご責任の上で行っていただくようお願い致します。それらの納まりや施工方法については、弊社は免責とさせていただきます。

●施工説明書に掲載している納まりや施工方法は、アイジールーフの機能や性能を確保するための代表的な例です。

●施工説明書は、掲載していない納まりや施工方法を制限するものではありませんが、アイジールーフの機能や性能を確保できる方法を選定してください。

●施工説明書内で示す寸法値は、設計値です。施工においては、納まりの状況により前後することがあります。

●元請様と弊社が協議し、別に定めた施工説明書がある場合は、本施工説明書の定める限りではありません。

●施工説明書は、最新の見聞、検証により予告なく記載仕様の一部を改訂する場合があります。最新の施工説明書を参照ください。

目　　次

1 取り扱い時のお願い …… 1

2 アイジールーフ適用地域一覧 …… 4

3 本体・部材規格 …… 5
- 3－1. 本体断面形状図 …… 5
- 3－2. 本体規格 …… 5
- 3－3. 物性表 …… 5
- 3－4. 部材一覧 …… 6

4 施工に必要な工具 …… 8

5 施工前の確認事項 …… 9
- 5－1. 改修物件の調査・確認 …… 9
- 5－2. 工法の選定 …… 10

6 下葺き材・留め具の選定 …… 12
- 6－1. たる木留めの場合（標準施工）… 12
- 6－2. 野地板留めの場合 …… 13
- 6－3. 部材の留め付け …… 13

7 直張工法 …… 14
- 7－1. 施工の手順 …… 14
- 7－2. 下地の調整 …… 15
- 7－3. 本体の施工とポイント …… 17
- 7－4. 各部の納まり …… 18
  - A. 軒先部 …… 19
  - B. ケラバ部 …… 23
  - C. 棟部 …… 37
  - D. 隅棟部 …… 40
  - E. 谷部 …… 49
  - F. 壁との取り合い部 …… 53
  - G. 換気棟の納まり …… 58
  - H. 雪止めの納まり …… 66

8 合板下地工法（カバー） …… 67
- 8－1. 施工の手順 …… 67
- 8－2. 下地の調整 …… 68
- 8－3. 本体の施工とポイント …… 70
- 8－4. 各部の納まり …… 71
  - 軒先部 …… 71
  - ケラバ部 …… 71
  - 棟部 …… 72
  - 隅棟部 …… 73
  - 谷部 …… 73
  - 換気棟の納まり …… 74
  - 壁との取り合い部 …… 75

9 合板下地工法（葺き替え） …… 76

10 参考資料 …… 77
- 10－1. 積算方法 …… 77
- 10－2. 改修物件調査チェックシート … 79
- 10－3. 瑕疵担保保険申請時のご注意 … 80

11 免責事項 …… 80

1 取り扱い時のお願い

アイジールーフは屋根材です。屋根以外の部位に使用しないでください。

⚠ 警告：死亡または重傷を負う可能性が想定される場合の表示です。

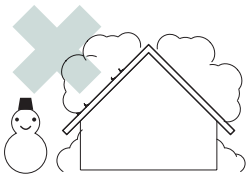
1. 強風・雨天・降雪時の高所作業は中止してください。
   風にあおられる、雨や雪ですべるなど、転倒が原因で落下事故の可能性があります。
2. 高所作業は関係法規に従ってください。事故の可能性があります。
3. アイジールーフは、電線に接触すると感電する可能性があります。電線に触れないように注意してください。
   併せて事前に電力会社に依頼するなど、感電防止処置を講じてください。
4. 雪止めを足場にしたり、物を置いたりするなど、雪止め以外の用途には使用しないでください。破損し落下するおそれがあります。
5. 既存の屋根用スレートの解体、破砕などを行う場合は、石綿障害予防規則に従って作業を行ってください。
   著しい健康障害を招く可能性があります。

⚠ 注意：取り扱いをあやまると障害を負う危険や物的損害などの可能性が想定される場合の表示です。

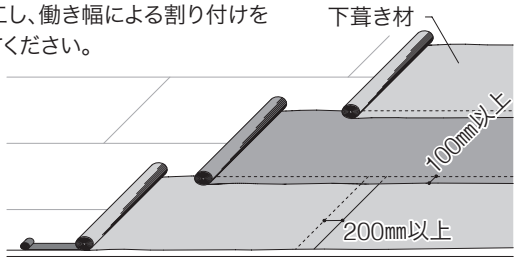
● 設計・計画上の注意

アイジールーフは木造下地専用です。

アイジールーフは一般地域（最深積雪量の平均値がおおむね30cm以下の地域）で使用してください。すが漏れのおそれがある積雪量の多い地域、製品保証の適用地域外となる沖縄県等は施工不可としています。（P4参照）



防水のため、必ず下地に下葺き材を施工し、働き幅による割り付けを行ってください。

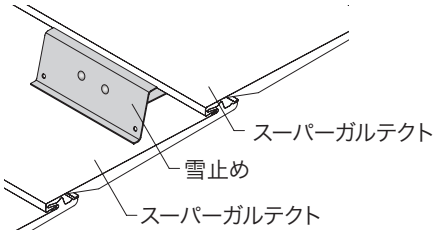


アイジールーフは2.5寸以上の勾配で使用してください。
2.5寸未満の勾配では漏水のおそれがありますので使用できません。

・スーパーガルテクトの勾配と流れ長さの制限

勾配	流れ長さ
2.5～3.5寸未満	7m以下
3.5寸以上	20m以下

落雪による事故を防止するため雪止めを使用してください。



新築と改修（合板下地工法）の3.5寸勾配未満の物件では、本体の横ジョイント部全てにジョイント下地を施工してください。（P11、P70参照）

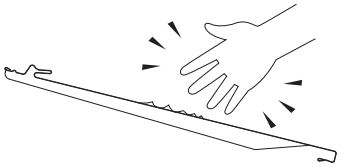
異種金属との取り合いには注意してください。銅などの異種金属からの雨水が接触すると電食が起こる場合があります。

建築基準法及び関係法規に適合した設計を行ってください。

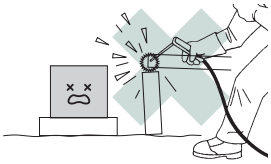
● 安全作業上の注意

取り扱いの際は、ゴム付き手袋や保護メガネなどの適切な保護具を着用してください。
けがをするおそれがあります。

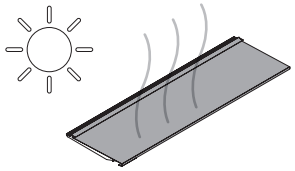
現場加工時、鋼板の切断面に生じたバリは取り除いてください。
けがをするおそれがあります。



溶接の炎、火花などが当たると商品を傷めたり、火災のおそれがありますので、養生するなど特に注意してください。



日射が強いときは、表面鋼板の温度が高くなり、やけどのおそれがありますので注意してください。

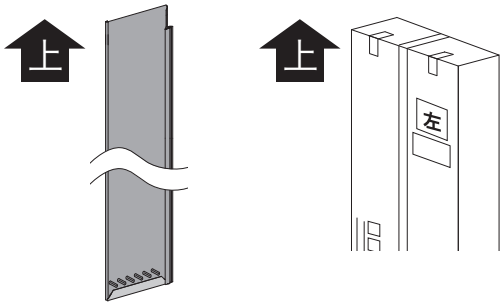


アイジールーフを安全に使用・取り扱いをするために、安全データシート（SDS）を事前に確認してください。SDSは、弊社ホームページに掲載しております。

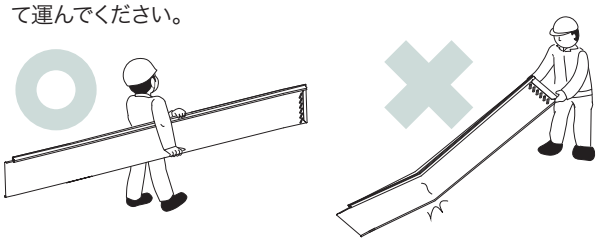
電動工具など、工具を使用する際は、各工具の取扱説明書に従って正しく使用してください。

● 運搬・保管上の注意

商品を一時的に保管する場合は、次のことに注意してください。
・荷上げの際の落下事故には十分に注意してください。
・保管する重量に見合った滑落防止策を講じてください。
・本体を立てかける場合は、端部が破損するおそれがありますので、本体の左側（断熱材がない方の端部）を上にしてください。

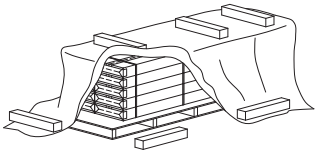


1ケースあるいは開梱した商品を手で持つ際には、小端立てにして運んでください。

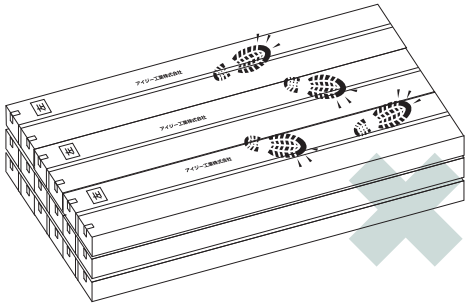


商品は、雨水、湿気などの影響を受けない風通しのよい屋内の平らな場所に、できるだけ横置きに保管してください。

屋外に保管する際は、パレットあるいはりん木の上に合板を重ねた水平面に置き、さらに防水シートなどで覆ってください。また防水シートが風などで飛ばないようにしてください。

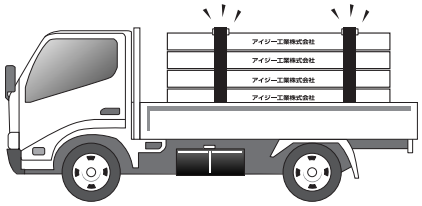


商品が破損するおそれがありますので、次のような行為は避けてください。
・商品を放り投げる、または落とすこと。
・商品の片方をりん木やトラックのあおりなどに載せて斜めに置き、保管や運搬をすること。
・商品をりん木やフォークリフトのつめに直に置き、2点支えにすること。
・商品より小さなパレットなどを使用すること（パレットの角で商品が破損するおそれがあります）。
・商品の上に人が乗る、または重量物を載せること。



車両による運搬時には、荷台に突起物や濡れ、汚れがないことを確認した上で、平積みにしてください。

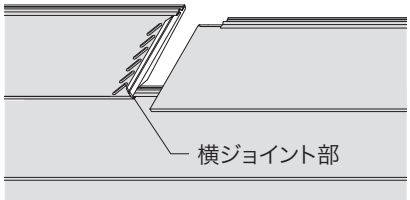
ロープの締め付けが強すぎると商品の破損につながるおそれがあります。過度の締め付けを避けるとともに角部には当て板をしてください。



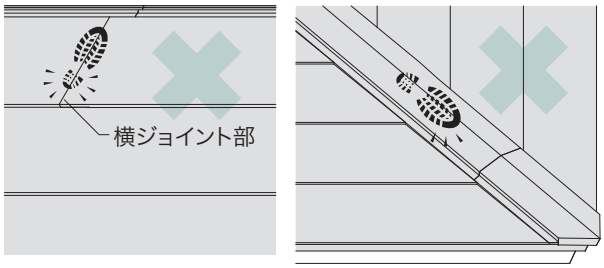
● 施工上の注意

施工は必ず左から右へ行ってください。指定の張り方向以外での使用は、雨漏れの原因となります。

横継ぎは必ず横ジョイント部で行ってください。ジョイント下地を使用する場合は、本体横ジョイント部の下に置き、下段にひっかけて施工してください。（P17、P70参照）



変形するおそれがありますので、横ジョイント部や部材の上には、乗ったり重量物を置いたりしないでください。



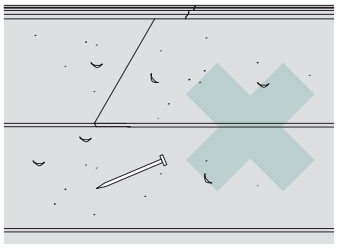
下葺き材の施工後に、たる木の位置が確認できるように墨出しを行ってください。

くぎ打ち部や下葺き材に、打ち損じなどの穴ができた場合は、シーリング材や防水テープで防水処理をしてください。

商品を施工する前に働き幅で墨出しを行い、その墨に合わせて施工してください。

商品の塗装が傷みますので、表面材に切断時の切粉、火花などを当てないでください。

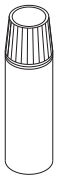
1 取り扱い時のお願い

切粉や切り屑、くぎなどは、放置するともらいさびや汚れの原因となりますので、完全に取り除いてください。 	すりキズ防止のために、商品の表面を直に地面に置く、金属製足場板など硬いもので擦るなどの行為は避けてください。
	表面材にキズが付いた場合には、純正のタッチアップペイントで補修してください。タッチアップペイントは、ごく狭い範囲の軽微なすりキズのみに使用してください。詳しくは次項「●補修上の注意」を参照してください。
	上階の屋根からの樋は必ず軒先まで通し、下階の屋根面へは排水しないでください。
モルタルなどが付着した場合は、速やかに除去してください。	包装材・残材などは産業廃棄物として処分してください。

● 補修上の注意

■タッチアップペイント（純正品）による補修について

タッチアップペイントは、ごく狭い範囲の軽微なキズの補修に使用します。
本体や部材の変形を伴うキズや広範囲にわたる塗装には使用しないでください。

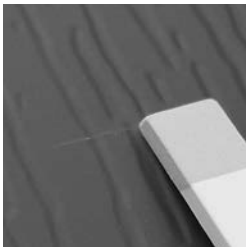


⑴　補修手順

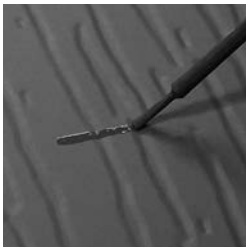
①補修箇所に汚れ、ほこり、水分などがある場合は、布などで拭き取ってください。
②スーパーガルテクトフッ素（遮熱性フッ素樹脂塗装品）にタッチアップペイントを使用する場合は、密着性を高めるために砂消しゴムなどで補修する箇所の目荒しを行ってください。
③タッチアップペイントは使用前に容器を振り十分に攪拌してください。容器を振る目安は、カタカタという音が聞こえてから30秒以上です。
④商品の端材や目立たない箇所で試し塗りを行い、色調を確認してください。
⑤補修する箇所にタッチアップペイントを薄く重ね塗りしてください。補修箇所は塗料の性質上、色調に差異が生じる場合がありますので、できるだけ丁寧な取り扱いをお願いします。

補修例（スーパーガルテクトフッ素 SFブラック）

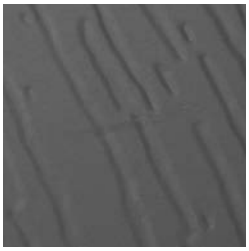
補修箇所の目荒らし



タッチアップペイントによる補修



補修箇所の仕上がり



⑵　注意事項

・タッチアップペイントは常乾タイプの塗料で、本体、部材と塗料タイプが異なります。このため、色調や艶などに差異が発生し補修箇所が目立つことがあります。
・ちぢみ塗装品（スーパーガルテクト、スーパーガルテクトC）は表面意匠の特性より、補修後も同じような意匠を再現することはできません。あらかじめご了承ください。
・塗装場所の気温が著しく低い場合（5℃以下）や、雨や露などにより被塗面が濡れる場合、換気が十分でなく結露が考えられる場合は、補修を避けてください。
・補修した部分に水が関与すると白化や、艶の低下の原因になりますので、作業の際は以下の注意事項をご確認ください。
　①塗装後、降雨、積雪、結露が予想される場合や高湿度時の塗装は避けてください。
　②気温が低くなると乾燥が極端にしにくくなります。夕方までに表面が乾くように作業時間を調整してください。急ぎ作業の際は、ドライヤーなどで補修部分を完全に乾燥させてください。

■アルミライナー紙の補修について

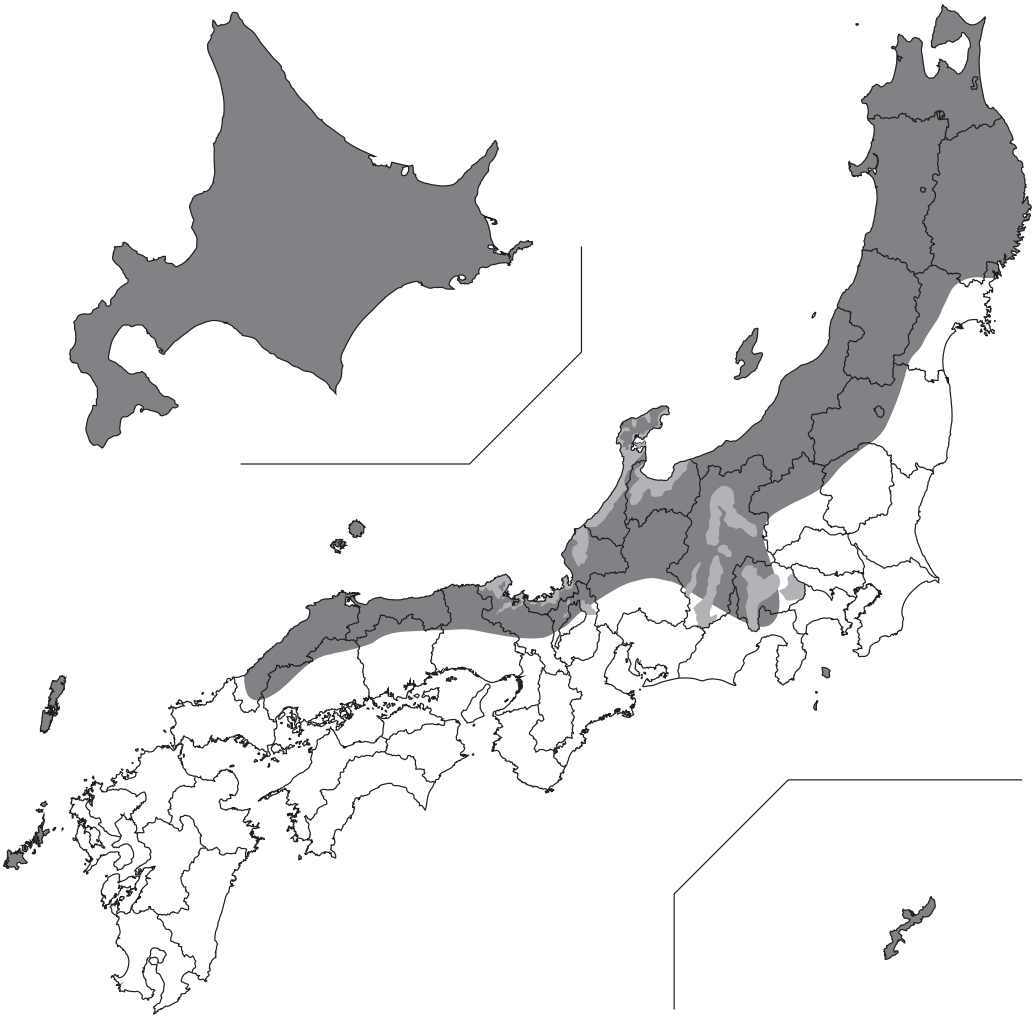
・尖った物などでアルミライナー紙が損傷した場合は、必要に応じて市販のアルミテープなどで補修してください。

● その他

・日射による熱の影響で、朝・夕の温度変化時に、表面鋼板の伸縮により、かん合などから音が発生する場合があります。
・小屋裏にテレビアンテナを設置している場合、金属屋根の施工でテレビの「映像が乱れる」「映らない」といった受信障害が出る可能性があります。テレビの受信状況の確認やテレビアンテナの対策作業を行ってください。

2 アイジールーフ適用地域一覧

スーパーガルテクトは、最深積雪量の平均値がおおむね30cm以下の一般地域で使用可能です。
すが漏れのおそれがある積雪量の多い地域、製品保証の適用地域外となる沖縄県等は施工不可としています。
準一般地域では別途施工基準を設けておりますので、詳しくは最寄りの営業所へお問い合わせください。



この全国積雪分布図は、気象庁編集による一般財団法人気象業務支援センターが発行した「メッシュ気候値2000」をもとにアイジー工業㈱が独自に作成したものです。

適用区分	施工可否
一 般 地 域	標準仕様にて施工可
準 一 般 地 域	積雪地区対応仕様にて施工可※
施工不可地域	おおむね30cmを超える積雪地域、沖縄県及び離島は施工不可※

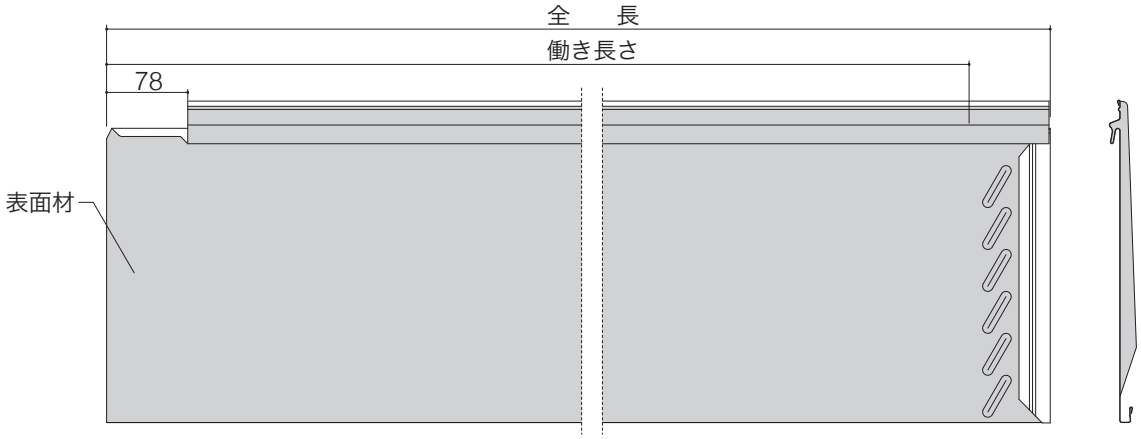
※　詳細は最寄りの営業所へお問い合わせください

3 本体・部材規格

3−1. 本体断面形状図

単位：㎜

スーパーガルテクトフッ素・スーパーガルテクト・スーパーガルテクトC



3−2. 本体規格

商品名	働き長さ	全長	入り数面積	入り数	働き幅	総幅	厚さ	重量
スーパーガルテクトフッ素 スーパーガルテクト	2,960㎜	3,038㎜	4.71m²	6枚	265㎜	310㎜	最大16㎜	5.0kg/m²
スーパーガルテクトC	1,820㎜	1,898㎜	2.90m²					

商品名	表面材
スーパーガルテクトフッ素	エンボス加工遮熱性フッ素樹脂塗装超高耐久ガルバ（t=0.35）
スーパーガルテクト	エンボス加工遮熱性ポリエステル樹脂塗装超高耐久ガルバ（t=0.35）
スーパーガルテクトC	

超高耐久ガルバは、2%マグネシウム−55%アルミニウム−亜鉛合金めっき鋼板です。

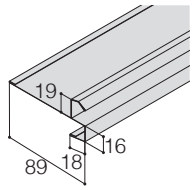
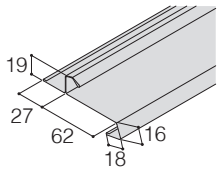
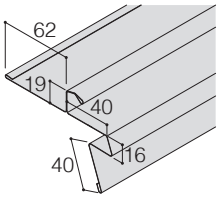
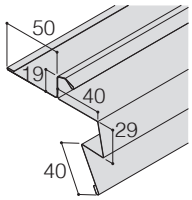
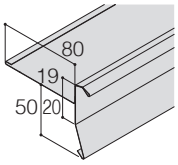
3−3. 物性表

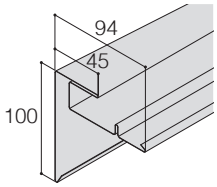
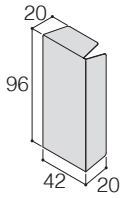
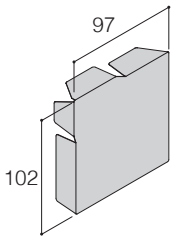
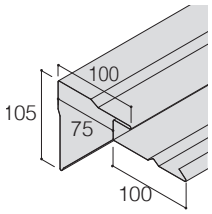
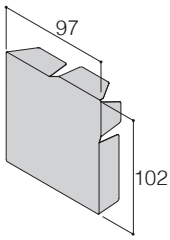
項目	性能値	試験方法	試験体仕様
しん材熱伝導率	0.033W／mK（0.029kcal／mh℃）	JIS A 1412-2	
熱貫流率	1.19W／m²K（1.03kcal／m²h℃）	JIS A 1420	下地条件：アスファルトルーフィング940 住宅屋根用化粧スレート アスファルトルーフィング940 構造用合板12㎜、たる木（間隔：455㎜）
水密性	平均圧力 750Pa（76kgf/m²）	JIS A 1414	下地条件：アスファルトルーフィング940 構造用合板12㎜ たる木（間隔：455㎜）
耐風圧性	正圧　：4,000Pa（407kgf/m²）以上 負圧※1：5,500Pa（560kgf/m²）	空気圧による 等分布荷重	本体留め具※2：ルーフ用ビス4×55 下地条件※3　：構造用合板12㎜ たる木（間隔：455㎜）
加工性	2T（塗膜剥離しないこと）	-	
耐食性	1,000時間	JIS Z 2371 塩水噴霧試験	

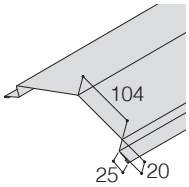
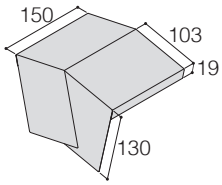
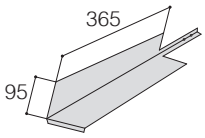
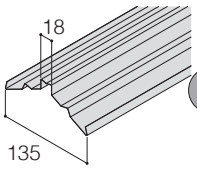
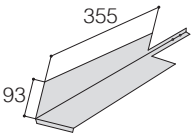
・上記物性データは性能参考値です。環境によって異なった数値になる場合があります。
※1　耐風圧データの負圧の数値は破壊値です。設計に際しては、十分な安全率を見込んでください。
※2　くぎでの性能値は、別途お問い合わせください。
※3　防水のため、下葺き材を施工してください。

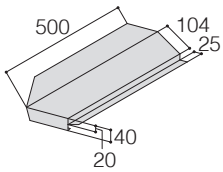
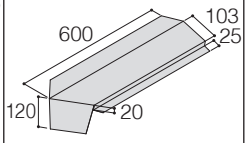
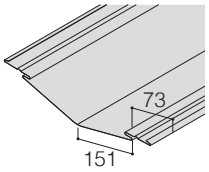
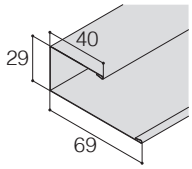
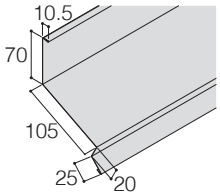
3−4. 部材一覧

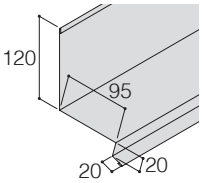
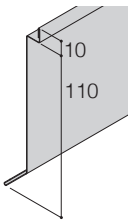
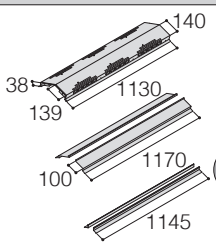
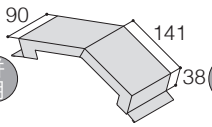
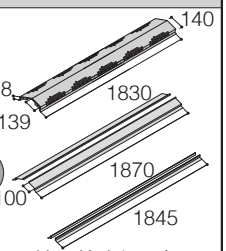
単位：mm

商品名	改修用唐草D	改修用唐草SB	改修用一体唐草16	改修用一体唐草29	唐草G50
商品図					
	L=2,727	L=2,727	L=2,727	L=2,727	L=2,727
梱包単位	5本／包	5本／包	5本／包	5本／包	5本／包

商品名	ケラバ水切	ケラバ水切エンド	ケラバ水切100エンド(左)	改修用ケラバ水切100	ケラバ水切100エンド(右)
商品図					
	L=2,727			L=2,727	
梱包単位	5本／包	50個／箱	30個／箱	5本／包	30個／箱

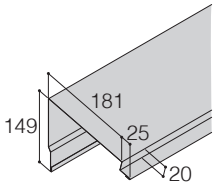
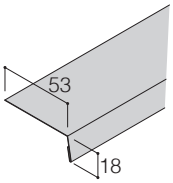
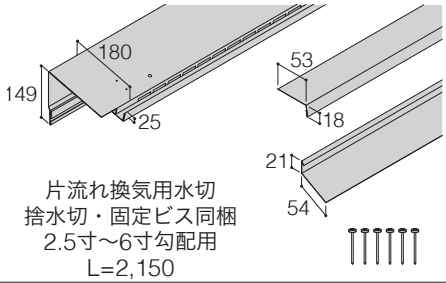
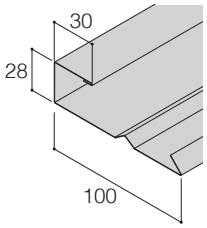
商品名	棟・隅棟包みD	棟巴	差し棟キャップD3寸	差し棟下地N	差し棟キャップD5寸
商品図			 併用	 併用	
	L=2,727	スーパーガルテクト・ スーパーガルテクトCのみ	2.5寸～4.5寸勾配用	L=2,727	5寸～6寸勾配用
梱包単位	5本／包	15個／箱	20個／箱	5本／包	20個／箱

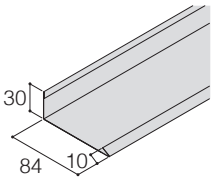
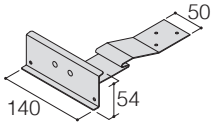
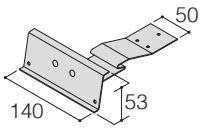
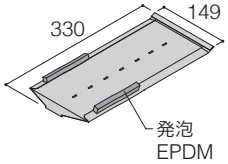
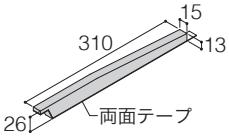
商品名	剣先	剣先120	谷樋 D(Ⅱ)	改修用谷止縁	改修用壁押えD(Ⅱ)
商品図					
	2.5寸～4.5寸勾配用		L=2,727	L=2,727	L=2,727
梱包単位	5本／箱	5本／箱	1本／包	4本／包	5本／包

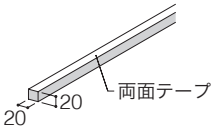
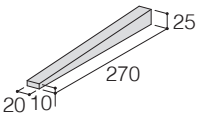
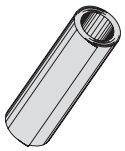
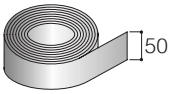
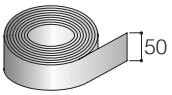
商品名	壁押えD(Ⅱ)	改修用壁押えカバー	換気棟	換気棟用エンドキャップ	換気棟L
商品図			 併用	 併用	
	L=2,727	L=2,727	下地・捨水切同梱 2.5寸～10寸勾配用	2.5寸～10寸勾配用	下地・捨水切同梱 2.5寸～10寸勾配用
梱包単位	5本／包	5本／包	1セット／箱	2個／箱	1セット／箱

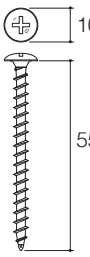
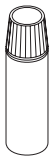
3 本体・部材規格

単位：㎜

商品名	片流れ用棟包み(注1)	片流れ換気用水切(注1)	片流れ用換気棟	C型捨板
商品図	 2.5寸～6寸勾配用 L=2,150	 L=2,150	 片流れ換気用水切 捨水切・固定ビス同梱 2.5寸～6寸勾配用 L=2,150	 L=2,727
梱包単位	5本／包	5本／包	1セット／箱	4本／包

商品名	L型捨板	雪止めGT(Ⅲ)ハネタイプ	雪止めGT(Ⅳ)ハネタイプ	ジョイント下地(注2)	ケラバ面戸
商品図	 L=2,727	 材質：ステンレス(アクリル塗装)	 材質：ステンレス(アクリル塗装)		 材質：発泡EPDM
梱包単位	5本／包	50個／箱	50個／箱	30個／箱	100個／箱

商品名	平型面戸	段付面戸D	10Mコイルロ	防水テープ	防水テープD
商品図	 材質：発泡EPDM L=2,000	 材質：発泡EPDM	 W=914　L=10m	 材質：ブチルゴム系粘着材 両面接着タイプ L=20m	 材質：ブチルゴム系粘着材 片面接着タイプ L=20m
梱包単位	50本／箱	50個／箱	1本／箱	ー	ー

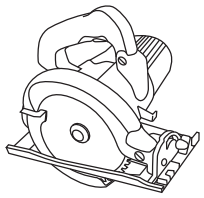
商品名	ルーフ用ビス 4×55	タッチアップペイント	エコシーリング	エコシーリングホルダー
商品図	 材質：ステンレス(ディスゴ処理)	 内容量=15ml	 別売りホルダーが無いと 使用できません。 材質：変成シリコーン 内容量=320ml	
梱包単位	300本／箱	ー	10本／箱	2本／箱

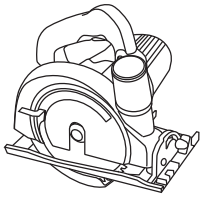
・スーパーガルテクトフッ素用部材の材質は遮熱性フッ素樹脂塗装超高耐久ガルバ（t=0.35 ㎜）です。
・スーパーガルテクト、スーパーガルテクトC用部材の材質は遮熱性ポリエステル樹脂塗装超高耐久ガルバ（t=0.35 ㎜）です。
・超高耐久ガルバは、2%マグネシウム－55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板です。
・タッチアップペイントと商品は塗料タイプが異なりますので、色や艶などに多少の差異が発生する場合があります。あらかじめご了承ください。
・スーパーガルテクトフッ素にタッチアップペイントを使用する場合は目荒らしが必要です。

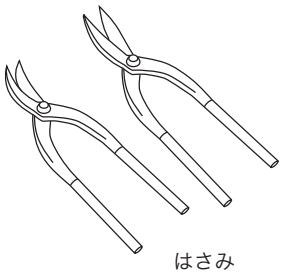
（注１）片流れ用換気棟と片流れ用棟包みをつないで施工する場合は、片流れ用棟包みと片流れ換気棟用水切を併用して施工してください。
（注２）合板下地工法で施工する3.5寸未満の勾配の屋根では、本体の横ジョイント部全てにジョイント下地を施工してください。

4 施工に必要な工具

切断工具類


電動丸のこ

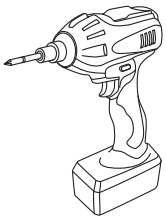

防塵丸のこ


はさみ

折り曲げ工具類

つかみ

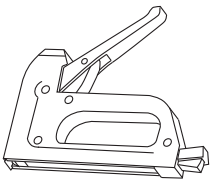
取り付け工具類

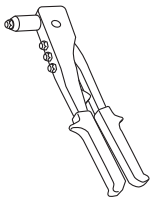

インパクトドライバー

釘抜き

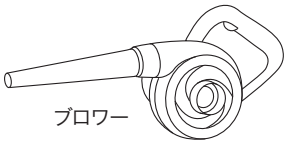
釘しめ

ハンマー

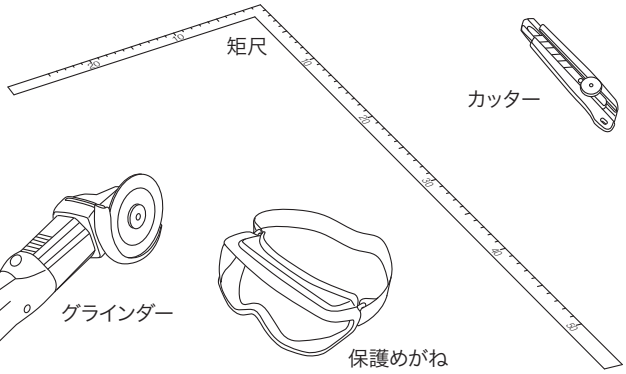

タッカー


リベッター

その他の工具類

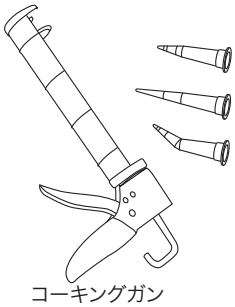

ブロワー

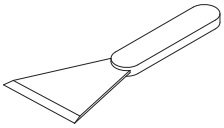
はけ

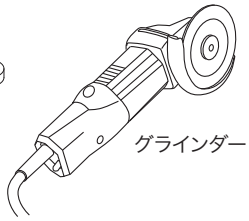


矩尺

カッター

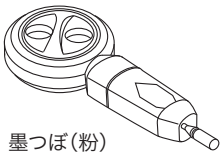

コーキングガン

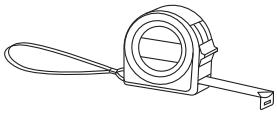

スクレーパー


グラインダー

保護めがね

水糸


墨つぼ（粉）


スケール

⚠切断工具、穴あけ工具、ブロワーなどを使用する場合は必要に応じて保護眼鏡などの保護具を使用してください。

・上記の工具は代表的な工具であり、施工状況に合わせて他の工具が必要になる場合があります。
・屋根の上では、丸のこを使用しないでください。やむを得ず使用する場合は、近隣への飛散を防止し、屋根についた切粉は完全に取り除いてください。
・エアネイラーを使用する場合は、アイジールーフのしん材のつぶれやくぎの頭抜けがないように事前に圧力調整を行い、打ち込み深さを確認してから施工してください。

5 施工前の確認事項

5－1. 改修物件の調査・確認

改修物件の事前調査・確認、及びお客様との打ち合わせは、確実で効率のよい加工をする上で大切なことですので十分に行ってください。

既存の屋根用スレートの解体、破砕などを行う場合は、石綿障害予防規則に従って作業を行ってください。なお、関係法規や工事の届け出、廃棄物の処理方法などにつきまして不明な場合は、所轄する労働基準監督署や自治体の担当窓口へ相談してください。

既存屋根

改修対象の既存屋根材を確認してください。
既存屋根材：住宅屋根化粧スレート／アスファルトシングル／鉄板平葺き／和瓦など

下地の確認

屋根の破損状況、反り、腐朽などを確認し、下地のくぎの保持力を確認してください。小屋裏より雨漏りの有無や腐朽の程度を確認してください。反りや腐朽のひどい場合は施工できません。漏水を確認した場合は、対策を講じてください。
屋根面を歩行した場合の浮き沈み、あるいは、屋根面の波打ちなどの不具合がないことを確認してください。

勾配と流れ長さ

施工可能な勾配と流れ長さの制限があります。
勾配と流れ長さを測定し、下表の数値以内であることを確認してください。

勾配	流れ長さの制限
2.5 寸～3.5 寸未満	7m以下
3.5 寸以上	20m以下

雨どい

取り替えることをお勧めします。

施工範囲および障害物の確認

バルコニー、テレビアンテナ、エアーコンディショナー、太陽熱温水器まわりの施工箇所を確認してください。場合により、別途工事が必要となります。

留め付け方

本体の留め付けは、たる木留めを推奨します。たる木の位置を確認してください。
やむを得ずたる木に留め付けられない場合は、野地板留めでの施工を選択してください。
ただし、野地板留めには条件があります。詳しくは P13「6 下葺き材・留め具の選定 6-2. 野地板留めの場合」を参照してください。

下葺き材の選定

屋根の勾配、工法や留め付け方法により、対応できる下葺き材が異なります。
施工する工法と、留め具を確認してください。

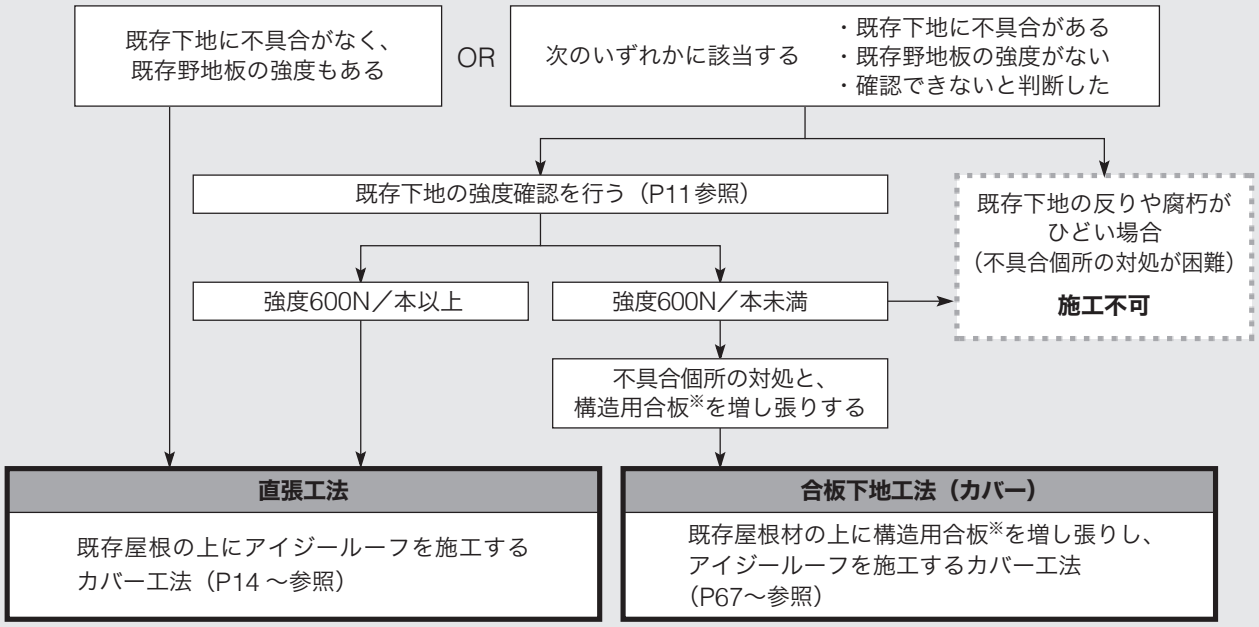
5−2. 工法の選定

・P79「⑩参考資料　10-2.改修物件調査チェックシート」を併せて確認してください。

●既存屋根材を取り外さない場合

既存屋根材：住宅屋根化粧スレート、アスファルトシングル、鉄板平葺きなど

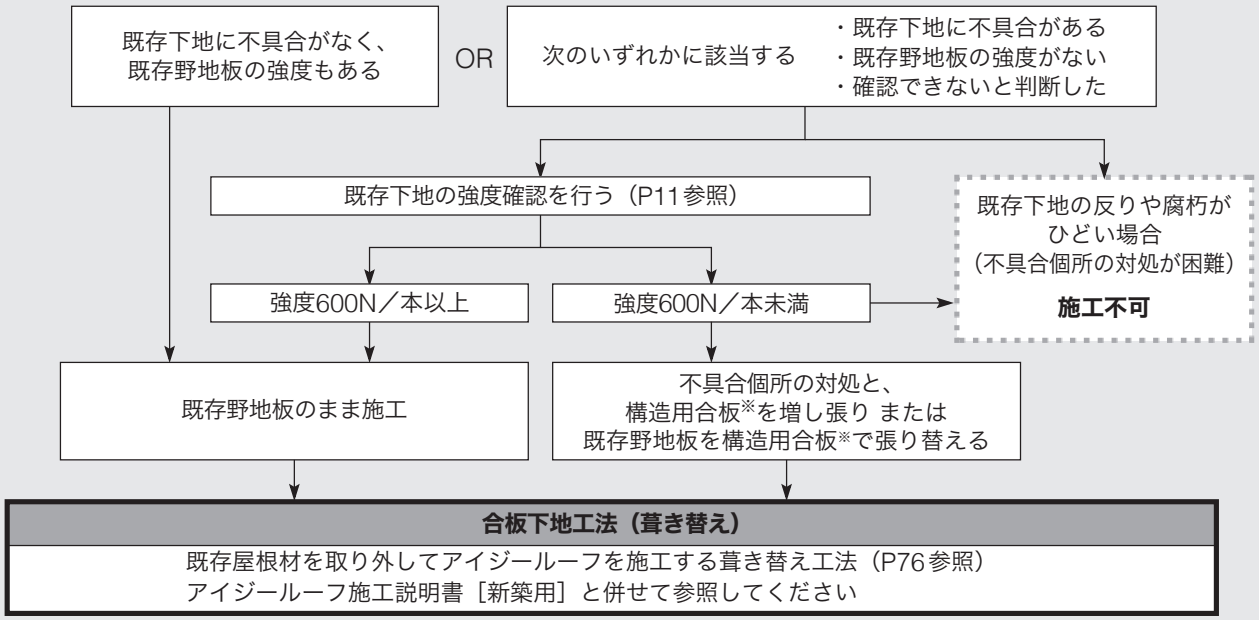
既存下地（たる木や母屋など）、既存野地板の確認を行い、以下に従って施工可能な工法を選定してください



●既存屋根材を取り外す場合

既存屋根材：和瓦などの凹凸が大きい屋根材や劣化がひどく補修が難しい屋根材

既存下地（たる木や母屋など）、既存野地板の確認を行い、以下の方法に従って施工してください



※　構造用合板　特類2級（厚さ12㎜）
新規合板が既存下地に適正に留め付けられることを前提とします。既存下地に不具合がある場合、不具合の対処を行ってから選定した工法で施工してください。

●下地強度の測定試験方法（推奨）

1. 測定試験方法
1）測定箇所
・水が集まりやすい軒先部、ケラバ部、主棟部、隅棟部、谷部（ある場合）また、施工する上で既存下地の劣化が不安な箇所を選定し、実施してください。

2）留め具
・既存屋根材が化粧スレート、アスファルトシングルの場合、くぎまたはビスを選定し、使用してください。
施工時に使用する留め具を用いて試験を行ってください。また、既存屋根材が瓦等の場合、合板下地工法（葺き替え）に該当します。その場合、新築用の施工説明書をご参照ください。

3）保持力試験機

保持力試験機（例）
サンコーテクノ株式会社「テクノテスターKT-6」
・基本的な試験機の使用方法については、メーカーの取扱説明書に従ってください。
・施工時に使用予定の留め具を保持力試験で使用してください。

4）試験手順（保持力試験機仕様の場合）
①保持力測定箇所の既存屋根材に、使用する留め具より一回り大きな下穴をあける。
注意：下穴が既存下地に到達しないようにしてください。
②既存下地に留め具を留め付ける。
③保持力試験機を使用し、測定する。

5）必要保持力
600N／本以上
注意：十分な安全率を見込んだ数値になっています。
・600N／本に満たない場合は、既存下地の不具合個所の対処、構造用合板の増し張りまたは張り替えを行ってください。
・不具合個所の対処が困難な場合は施工不可となります。
・P10の工法の選定方法を併せてご確認ください。

2. 測定試験後の既存屋根材の対処
・試験により既存屋根材にあいた穴、測定作業中に割れ、欠けなどが発生した場合は、シーリング処理など十分な補修を行ってください。また、測定試験後に屋根の施工を行わない場合は、下葺き材を含め試験箇所の補修を再度行ってください。

●ジョイント下地の施工について

・合板下地工法で施工する3.5寸未満の勾配の屋根では、本体の横ジョイント部すべてにジョイント下地を施工してください。
・ジョイント下地の施工手順は、P70「8合板下地工法（カバー） 8-3.本体の施工とポイント」を参照してください。

	勾配	流れ長さの制限	ジョイント下地
直張工法	2.5 寸～ 3.5 寸未満	7m以下	不要
	3.5 寸以上	20m以下	
合板下地工法（カバー） 合板下地工法（葺き替え）	2.5 寸～ 3.5 寸未満	7m以下	ジョイント下地を施工
	3.5 寸以上	20m以下	不要

6 下葺き材・留め具の選定

単位：㎜

6−1. たる木留めの場合（標準施工）

・本体の留め付けは、たる木留めを推奨します。
・対象工法や勾配により、指定の下葺き材の施工が必要です。
・下の表を参照して選択してください。

●工法と勾配による下葺き材の選定

	勾配	流れ長さの制限	下葺き材
直張工法	2.5寸～3.5寸未満	7m以下	粘着層付き改質アスファルトルーフィング※1
	3.5寸以上	20m以下	アスファルトルーフィング940以上
合板下地工法（カバー） 合板下地工法（葺き替え）	2.5寸～3.5寸未満	7m以下	粘着層付き改質アスファルトルーフィング※1
	3.5寸以上	20m以下	改質アスファルトルーフィング※2

※1　指定下葺き材①もご使用いただけます（P13参照）
※2　指定下葺き材②もご使用いただけます（P13参照）

●留め具

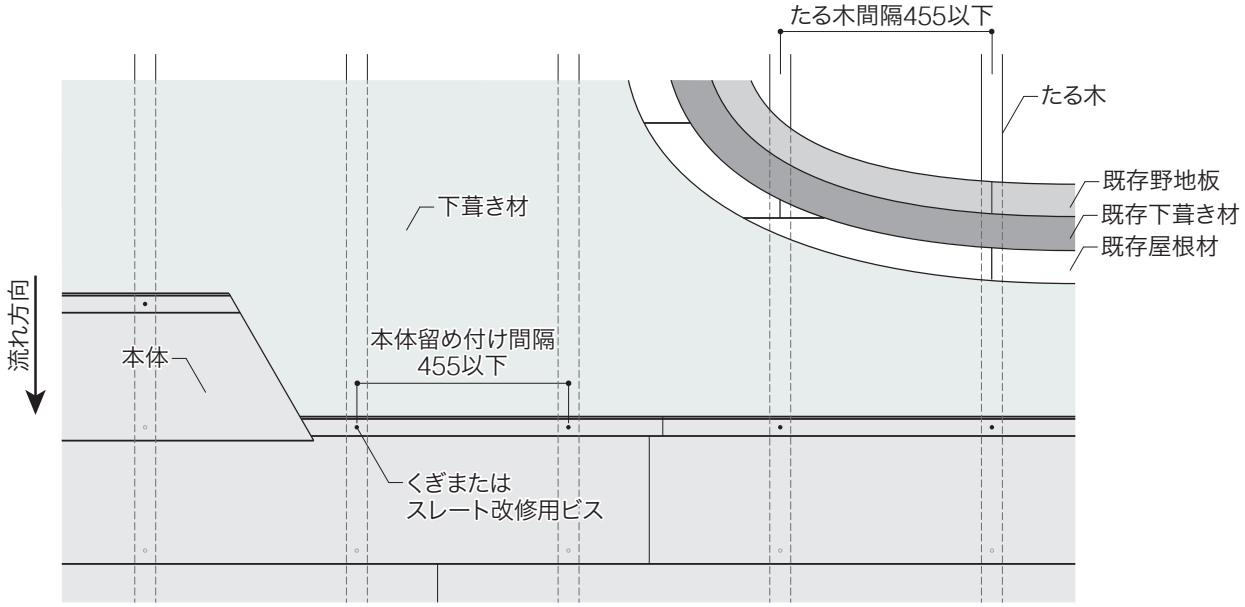
工法により留め具の長さが異なりますので、下の表を参照して選定してください。
番線タイプのくぎは、施工後に番線が飛散しキズやさびの原因にもなりますので使用しないでください。

工法	名称	材質	サイズ
直張工法	くぎ	ステンレスまたは鉄（亜鉛めっき）	長さ65㎜以上
	スレート改修用ビス	鉄（亜鉛めっき）	長さ50㎜以上
	ルーフ用ビス4×55	ステンレス（ディスゴ処理）	長さ55㎜
合板下地工法（カバー）	くぎ	ステンレスまたは鉄（亜鉛めっき）	長さ75㎜以上
	スレート改修用ビス	鉄（亜鉛めっき）	長さ65㎜以上
合板下地工法（葺き替え）	くぎ	ステンレスまたは鉄（亜鉛めっき）	長さ50㎜以上
	木ビス	鉄（亜鉛めっき）	長さ50㎜以上
	ルーフ用ビス4×55	ステンレス（ディスゴ処理）	長さ55㎜

・くぎを使用する場合は、スクリュー釘またはリング釘を使用してください。

●たる木留めの施工位置（直張工法の場合）

指定の長さの留め具を使用し、たる木に本体を留め付けてください。



単位：㎜

6ー2. 野地板留めの場合

・やむを得ずたる木に留め付けられない場合は、野地板留めでの施工を選定してください。
・野地板留めは、指定下葺き材と指定ビスでの施工が必須となります。
・屋根の勾配により下葺き材の種類が異なります。指定下葺き材の表を確認し、選定してください。

●工法と勾配による指定下葺き材の選定

	勾配	流れ長さの制限	下葺き材の指定カテゴリー
直張工法	2.5寸～3.5寸未満	7m以下	指定下葺き材①
	3.5寸以上	20m以下	指定下葺き材①②
合板下地工法（カバー） 合板下地工法（葺き替え）	2.5寸～3.5寸未満	7m以下	指定下葺き材①
	3.5寸以上	20m以下	指定下葺き材①②

●指定下葺き材のメーカー名と商品名

指定カテゴリー	メーカー名	商品名	仕様
指定下葺き材①	田島ルーフィング株式会社	タディスセルフカバー	粘着層付き改質アスファルトルーフィング
		タディスセルフ	
	ガムスター株式会社	SEタックⅡ	
	日新工業株式会社	カスタムライト	
	七王工業株式会社	エコタック	
指定下葺き材②	田島ルーフィング株式会社	ニューライナールーフ	改質アスファルトルーフィング
		タディスホワイト	
	常裕パルプ工業株式会社	サンライト G	
	七王工業株式会社	モラサン2号	
	田島ルーフィング株式会社	Pカラー EX+	改質アスファルトルーフィング (ARK-04s規格適合品※)
	ガムスター株式会社	ニュースタンダード	
	日新工業株式会社	カッパ 23	
	静岡瀝青工業株式会社	雅	

※　2025年JWMA規格品ARK-04sに準拠しています

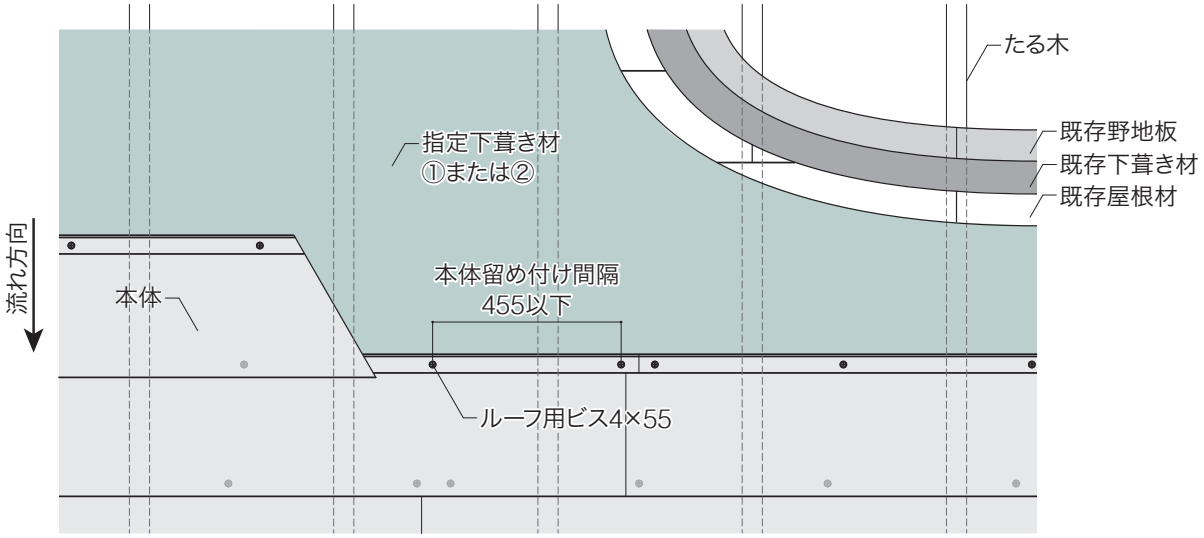
●留め具

当社指定ビスを使用してください。現場調達品は使用できません。

名称	材質	サイズ
ルーフ用ビス4×55	ステンレス（ディスゴ処理）	長さ55㎜

●野地板留めの施工位置（直張工法の場合）

野地板に本体を留め付けてください。必ず指定の下葺き材とルーフ用ビス4×55を施工してください。



6ー3. 部材の留め付け

推奨や指定が無い場合は、本体の留め付けと同様の釘またはビスを用い、留め付ける材料や下地に応じて適切なサイズのものを使用して455㎜以下の間隔で留め付けてください。

7 直張工法

7ー1. 施工の手順

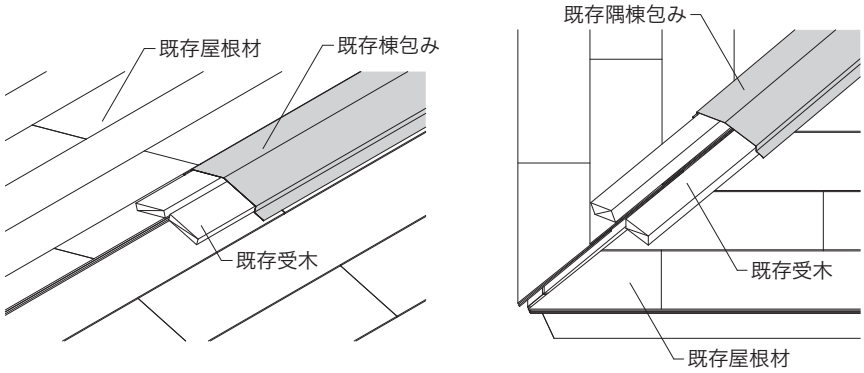
① 施工前の確認事項	・事前に既存屋根材や既存下地等が、直張工法での施工が可能な状態なのか確認を行ってください。確認する内容は、P9～「5 施工前の確認事項」を参照してください。併せてP79「10-2.改修物件調査チェックシート」を確認してください。
② 既存部材の取り外しと加工	・既存棟包み、既存隅棟包みを取り外してください。 ・既存ケラバ水切を加工してください（改修用ケラバ水切100を使用する場合は不要）。 ・既存雨押えを加工してください。
③ 改修用唐草の取り付け	・改修用唐草を水平に施工するために、墨出しを行ってください。本体の仕上がりに影響します。 ・改修用唐草（改修用唐草D、改修用唐草SB、改修用一体唐草16、改修用一体唐草29）を取り付けてください。
④ 下葺き材の施工	・下葺き材は、全面に施工してください。 ・留め具と勾配によって使用する下葺き材が異なります。詳しくは、P12～「6 下葺き材・留め具の選定」を参照してください。
⑤ ケラバの施工	・ケラバ水切または改修用ケラバ水切100を取り付けてください。
⑥ 墨出し	・たる木の位置が確認できるように墨出しを行ってください。 ・本体の働き幅で墨出しを行ってください。
⑦ 先付け部材の取り付け	・各部位の納め方に応じた、C型捨板や差し棟下地N、谷樋D（Ⅱ）などの先付け部材を取り付けてください。
⑧ 本体の取り付け	・各部位の納め方に応じて本体を切断、加工し取り付けてください。 ・切断時に出るバリや切り粉は、さびや汚れの原因になりますので、必ず除去してください。 ・本体の施工方法はP17「7-3.本体の施工とポイント」を参照してください。
⑨ 後付け部材の取り付け	・各部位の納め方に応じた、棟・隅棟包みDや壁押え部材などの後付け部材を取り付けてください。
⑩ クリーニング・補修	・表面材をクリーニングする場合は、から拭きか、水または中性洗剤で洗浄してください。酸性やアルカリ性の洗剤は塗膜を傷め変色、腐食を招くおそれがあります。洗浄する際は、温水（ぬるま湯程度）を使用すると汚れが落ちやすい傾向があります。中性洗剤で洗浄した後は、水でよく洗い流してください。 ・洗浄用具としては、硬いブラシ、研磨性のあるスポンジなどは使用しないでください。表面材にキズが付き腐食を招くおそれがあります。 ・補修については、P1～「1 取り扱い時のお願い」を確認し、適切に行ってください。

・納まりの詳細は、P18～「7-4.各部の納まり（直張工法）」を確認し、適切に行ってください。
・本体及び部材の留め付け間隔は455㎜以下としてください。

7ー2. 下地の調整

●既存棟包み、既存隅棟包みの取り外し

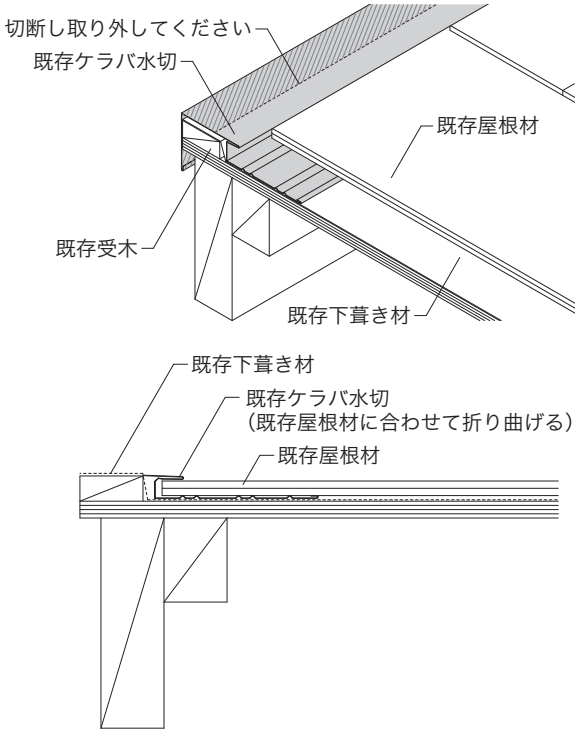
・既存の棟包み、隅棟包み、受木をすべて取り外してください。



●既存ケラバ水切の加工

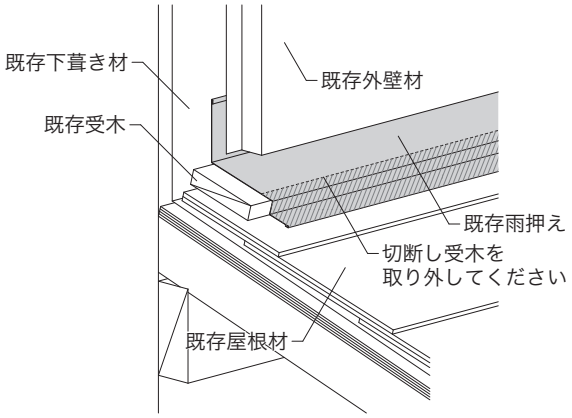
・ケラバ水切を使用する場合
既存ケラバ水切は、切断し取り外してください。既存ケラバ水切の残った部分は、既存屋根材に合わせて折り曲げてください。
やむを得ず既存ケラバ水切を切断できない場合は、次の点を留意し施工してください。
ケラバ部と本体の高さの違いにより、かん合がしにくくなる場合があります。

・改修用ケラバ水切100を使用する場合
見つけ幅が100㎜あるため、既存ケラバ水切の切断と取り外しの必要がなくなりそのまま上からかぶせることができます。
軒先部の既存ケラバ水切は、改修用唐草を取り付けるため、切断してください。



●既存雨押えの加工

・既存雨押えの不要な部分を切断し、既存雨押えの受木を取り外してください。

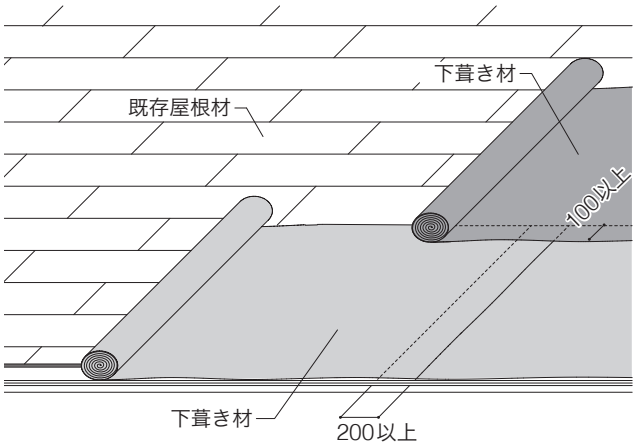


単位：㎜

●下葺き材の施工

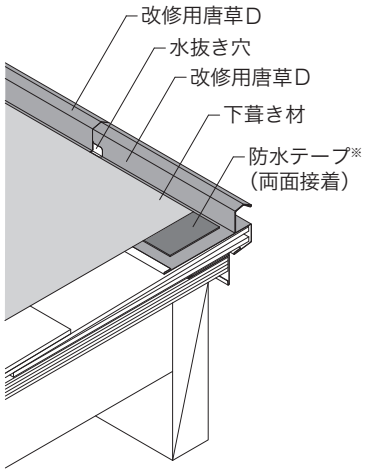
勾配と工法、留め具により下葺き材の種類が異なります。
詳細は、P12〜「6下葺き材・留め具の選定」を参照してください。

一般部



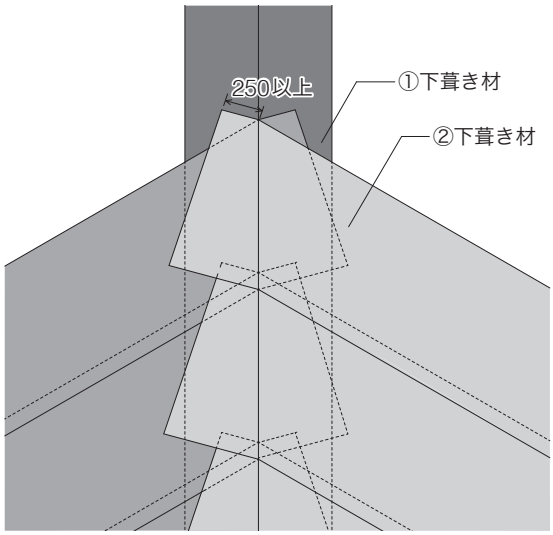
・流れ方向100㎜以上、水平方向200㎜以上重ねてください。

軒先部



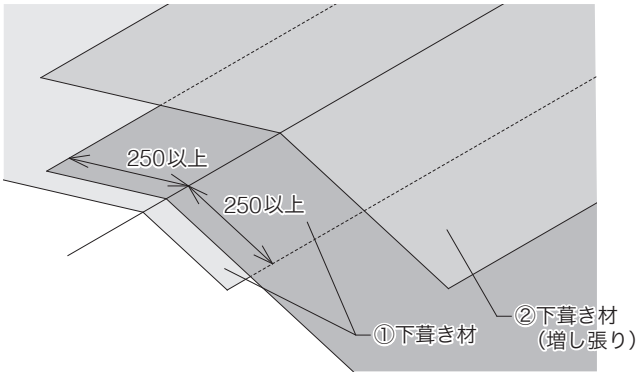
・唐草部材と下葺き材は、防水テープで密着してください。
・唐草部材のつなぎ部にある水抜き穴を、下葺き材でふさがないように注意してください。
・下葺き材を施工した後に、唐草部材を施工する場合は、唐草部材を留め付けるくぎ頭にシーリング材を施工してください。
※　粘着層付き改質アスファルトルーフィングの場合は無し。

谷部



①谷の中心に合わせて施工してください。
②谷を越えて、片側250㎜以上ずつ重ねてください。

棟部



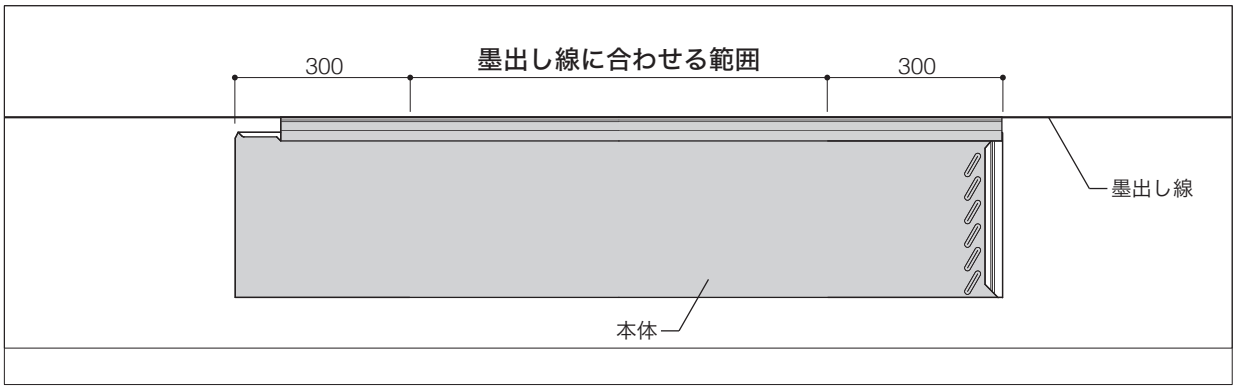
①棟を越えて、片側250㎜以上重ねて施工してください。
②棟の頂点に合わせ増し張りを行ってください。

単位：㎜

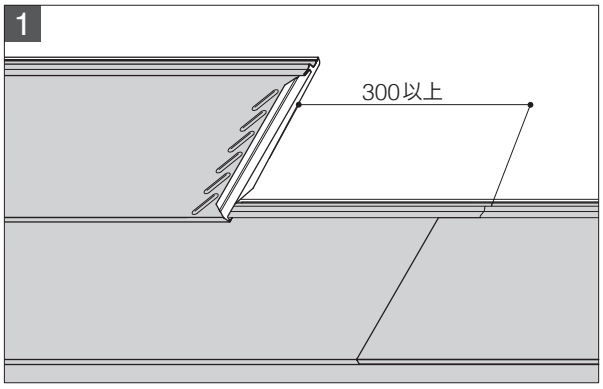
7ー3. 本体の施工とポイント

●墨出し線への合わせ方

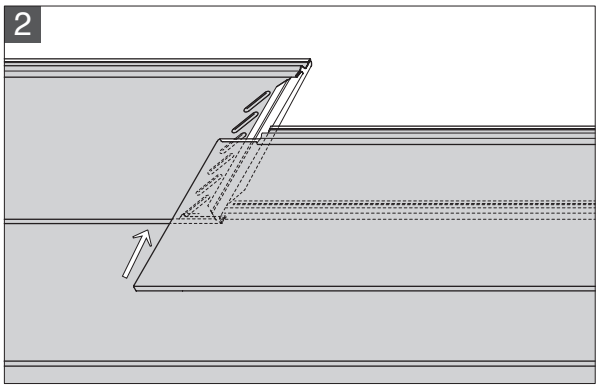
・本体を施工する前に、改修用唐草が墨出し線に合わせて施工されている事を確認してください。
・本体は、左右両端の300㎜程度を除いた範囲を墨出し線に合わせて施工してください。



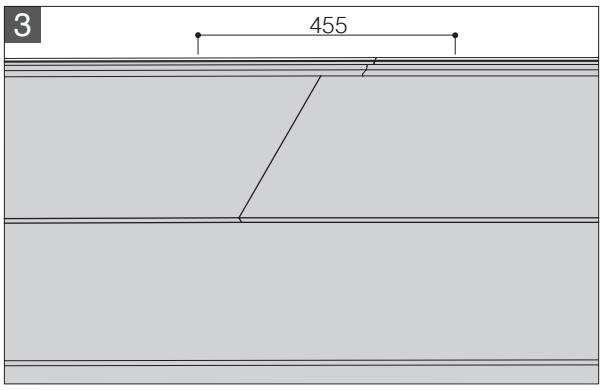
●本体の施工



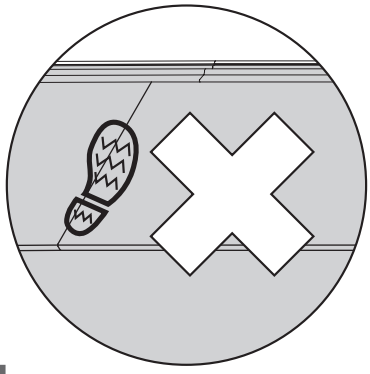
・施工は必ず左から右へ行ってください。
　横継ぎは必ず横ジョイント部で行ってください。
・本体の横ジョイント部は上下で重ならないように300㎜以上離して割り付けてください。



・横ジョイントは、上図のようにはめ込んでください。
・横ジョイントでは、表面鋼板の重なり代を確保するために、左右で数㎜程度の段差が発生します。無理に押し込むと本体が歪むおそれがあります。墨出し線に合わせて施工されていることを確認してください。



・本体は、455㎜間隔以下でたる木に留め付けてください。
　留め付け方の詳細は、P12～「6 下葺き材・留め具の選定」を参照してください。

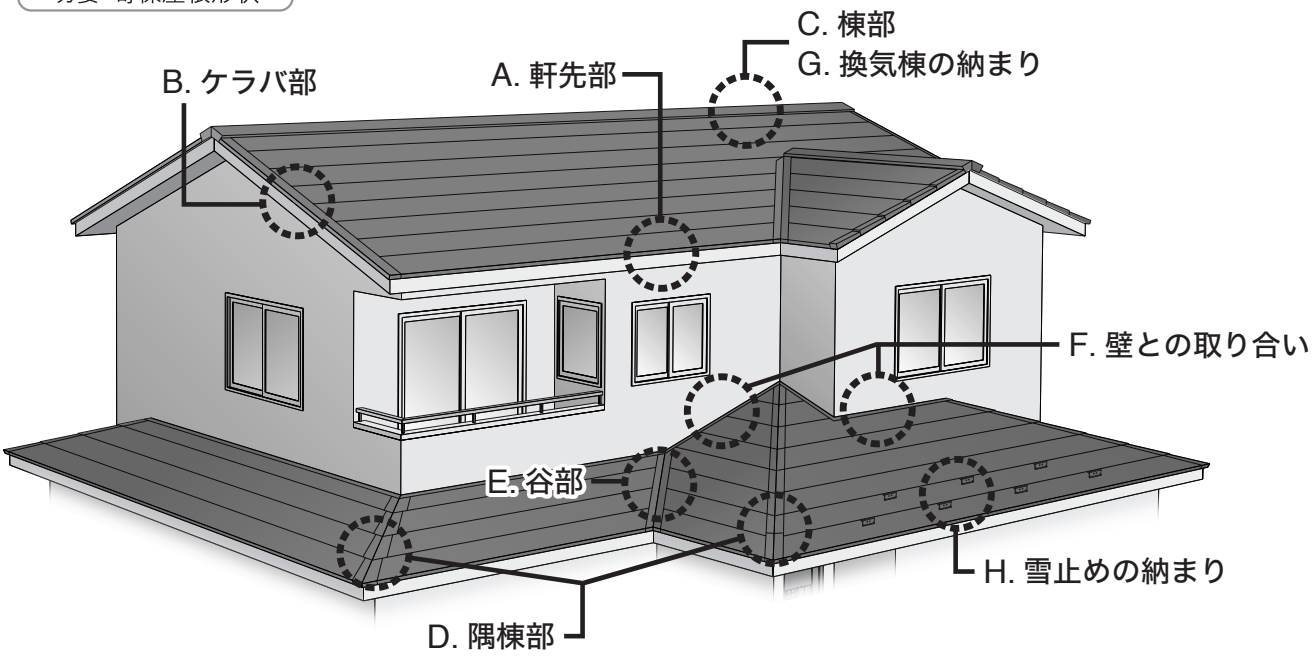


注意

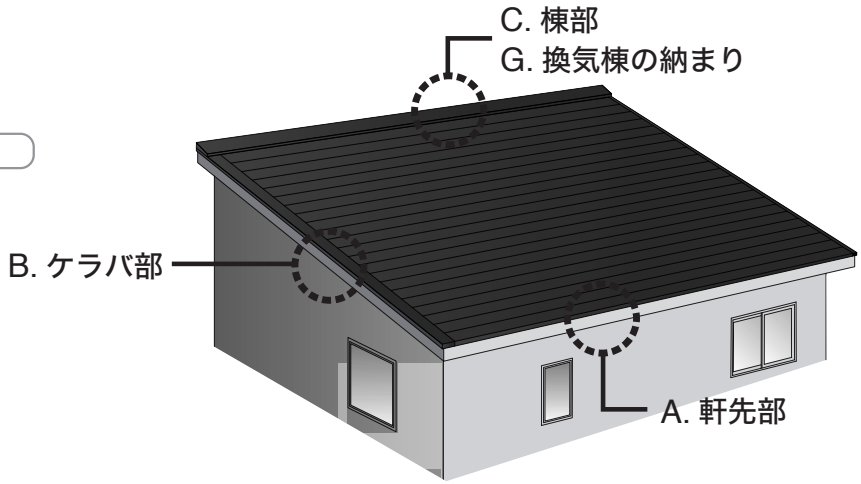
横ジョイント部は、変形のおそれがありますので、上に乗ったり重量物を置いたりしないでください。

7ー4. 各部の納まり

切妻・寄棟屋根形状



片流れ屋根形状

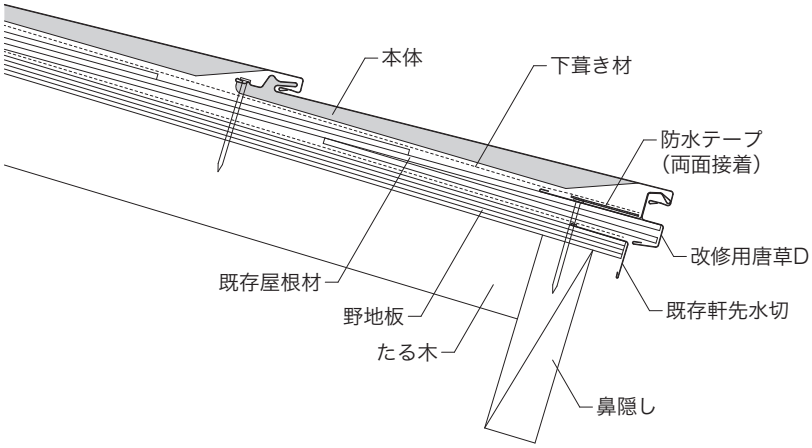


A. 軒先部 ・・・・・・・・ P19〜
B. ケラバ部 ・・・・・・・ P23〜
C. 棟部 ・・・・・・・・・ P37〜
D. 隅棟部 ・・・・・・・・ P40〜
E. 谷部 ・・・・・・・・・ P49〜
F. 壁との取り合い部 ・・・ P53〜
G. 換気棟の納まり ・・・ P58〜
H. 雪止めの納まり ・・・・ P66

単位：㎜

A. 軒先部　A-1. 改修用唐草D

納まり図



軒先の位置	変わらない
雨　ど　い	取り替えや位置調整が必要
既存軒先水切	隠れない

施工手順

①改修用唐草Dを取り付ける

・既存屋根材の先端に引っかけ、墨出しに合わせて施工してください。唐草部材の施工位置により、本体を施工した際の仕上がりに影響します。

②防水テープを貼る

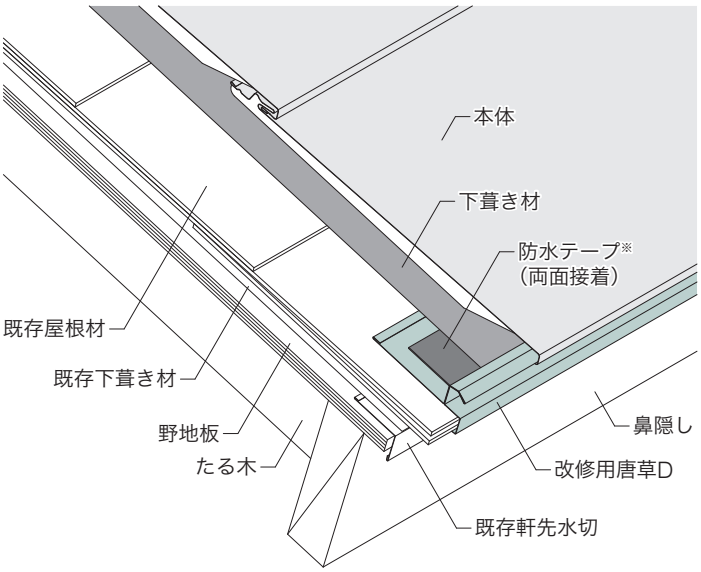
・両面接着のものを使用してください。

※　粘着層付き改質アスファルトルーフィングを使用する場合は不要です。

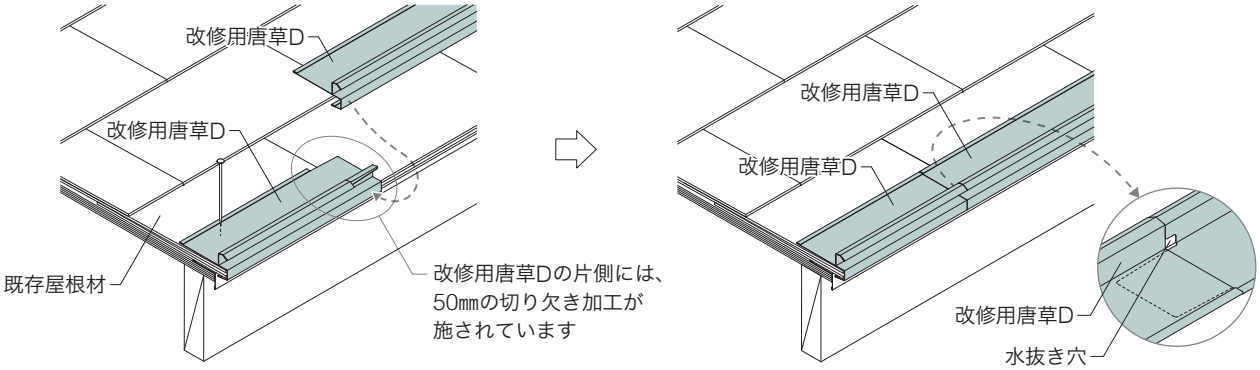
③下葺き材を施工する

④本体を取り付ける

・本体の施工方法は、P17「7-3.本体の施工とポイント」を参照してください。



改修用唐草Dのつなぎ方

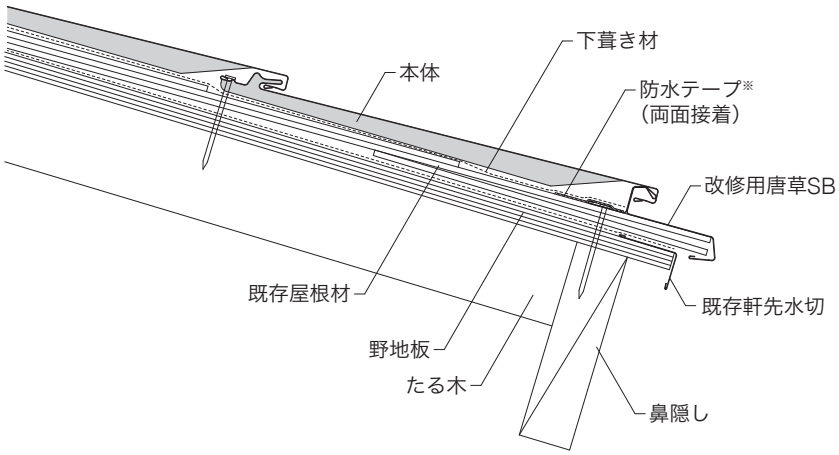


⚠ つなぎ部に水抜き穴ができます。
下葺き材でふさがないよう注意してください。

単位：㎜

A. 軒先部　A-2. 改修用唐草SB

納まり図



軒先の位置	変わる
雨　ど　い	取り替えや位置調整不要
既存軒先水切	隠れない

施工手順

①改修用唐草SBを取り付ける

・既存屋根材の先端に引っかけ、墨出しに合わせて施工してください。唐草部材の施工位置により、本体を施工した際の仕上がりに影響します。

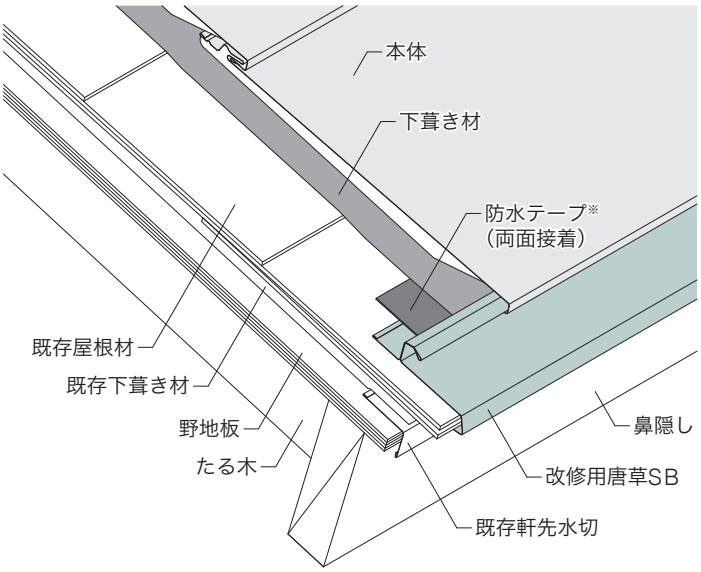
②防水テープを貼る

・両面接着のものを使用してください。
※　粘着層付き改質アスファルトルーフィングを使用する場合は不要です。

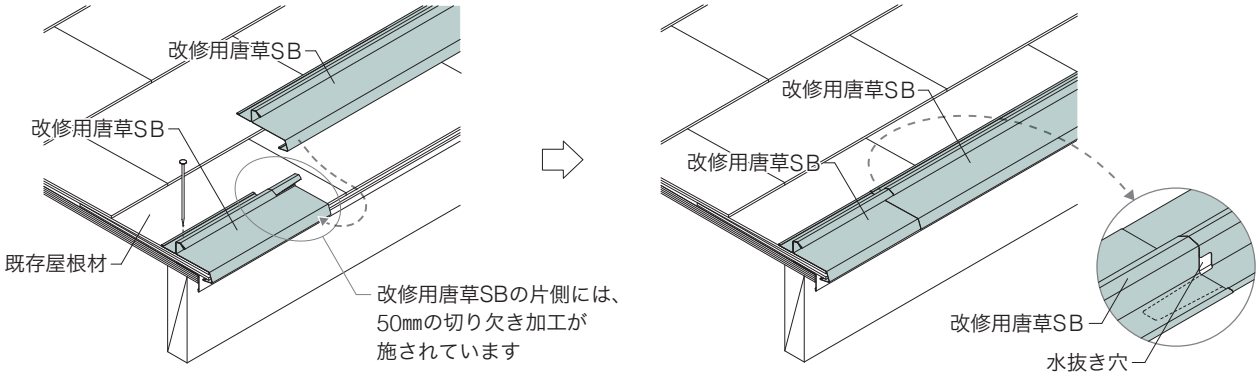
③下葺き材を施工する

④本体を取り付ける

・本体の施工方法は、P17「7-3.本体の施工とポイント」を参照してください。



改修用唐草SBのつなぎ方

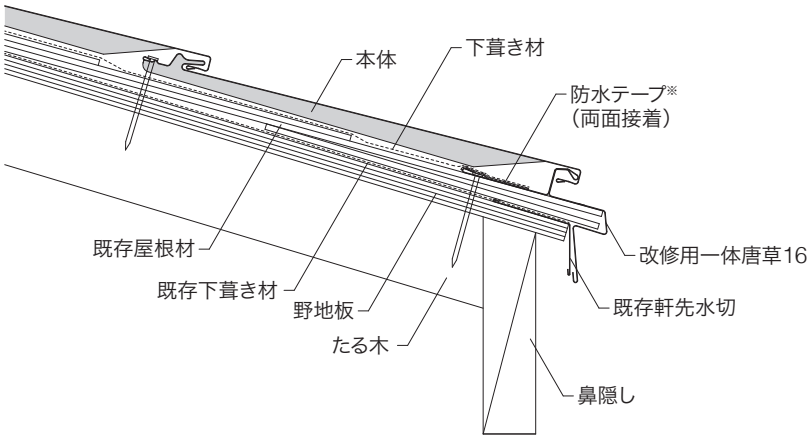


⚠ つなぎ部に水抜き穴ができます。
下葺き材でふさがないよう注意してください。

単位：㎜

A. 軒先部　A-3. 改修用一体唐草16

納まり図



軒先の位置	変わる
雨　ど　い	取り替えや位置調整不要
既存軒先水切	隠れる

施工手順

①改修用一体唐草16を取り付ける

・既存屋根材の先端に引っかけ、墨出しに合わせて施工してください。唐草部材の施工位置により、本体を施工した際の仕上がりに影響します。

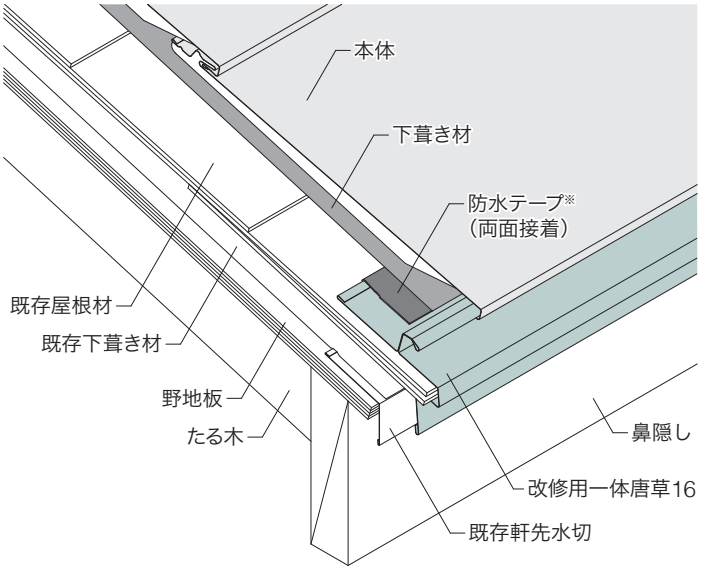
②防水テープを貼る

・両面接着のものを使用してください。
※　粘着層付き改質アスファルトルーフィングを使用する場合は不要です。

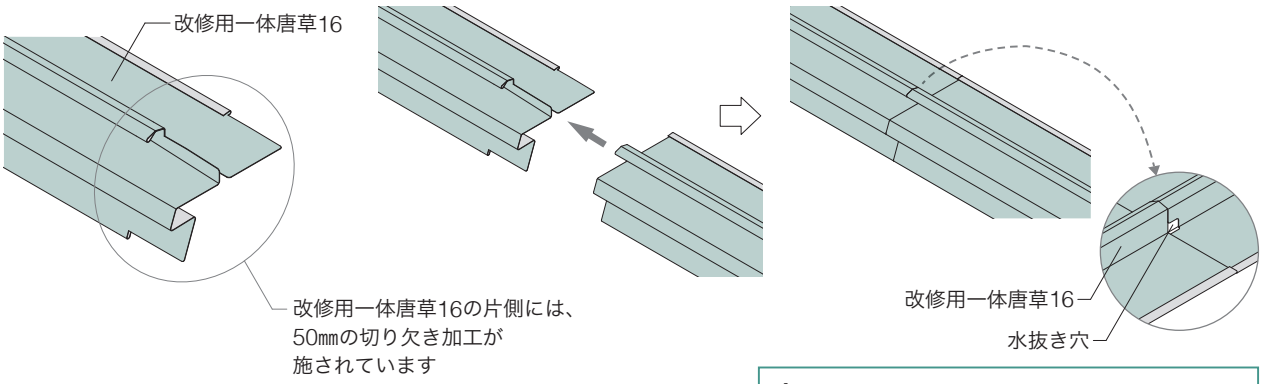
③下葺き材を施工する

④本体を取り付ける

・本体の施工方法は、P17「7-3.本体の施工とポイント」を参照してください。



改修用一体唐草16のつなぎ方

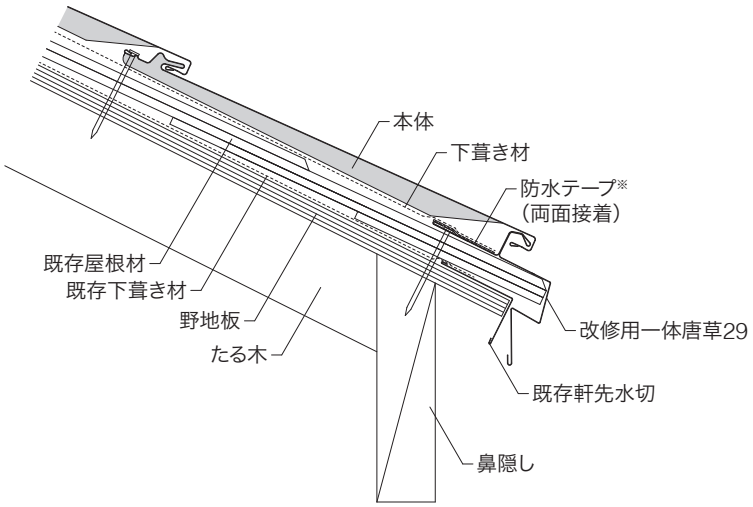


⚠ つなぎ部に水抜き穴ができます。
下葺き材でふさがないよう注意してください。

単位：㎜

A. 軒先部　A-4. 改修用一体唐草29

納まり図



軒先の位置	変わる
雨　ど　い	取り替えや位置調整不要
既存軒先水切	隠れる

・厚みのある住宅屋根用スレートの場合や、合板を増し張りする場合にご使用いただけます。

施工手順

①改修用一体唐草29を取り付ける

・既存屋根材の先端に引っかけ、墨出しに合わせて施工してください。唐草部材の施工位置により、本体を施工した際の仕上がりに影響します。

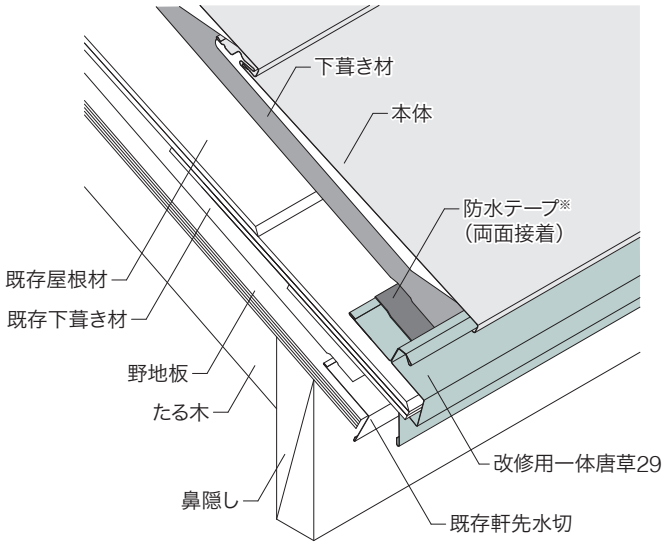
②防水テープを貼る

・両面接着のものを使用してください。
※　粘着層付き改質アスファルトルーフィングを使用する場合は不要です。

③下葺き材を施工する

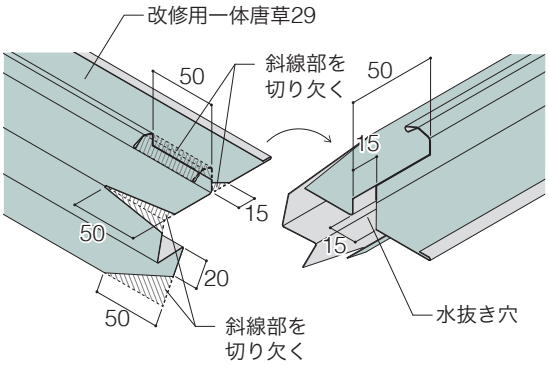
④本体を取り付ける

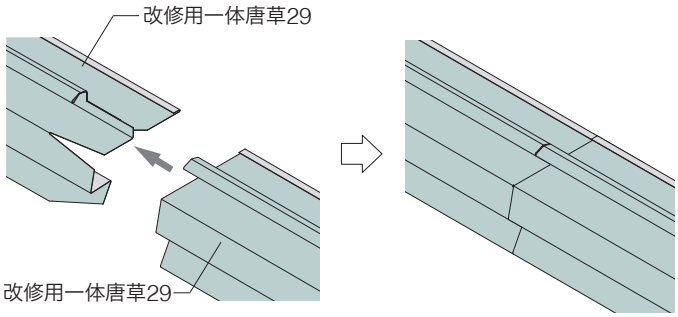
・本体の施工方法は、P17「7-3.本体の施工とポイント」を参照してください。



改修用一体唐草29のつなぎ方

・改修用一体唐草29同士をつなぐ際は、図を参考に片側に50㎜の切り欠き加工をしてから施工してください。

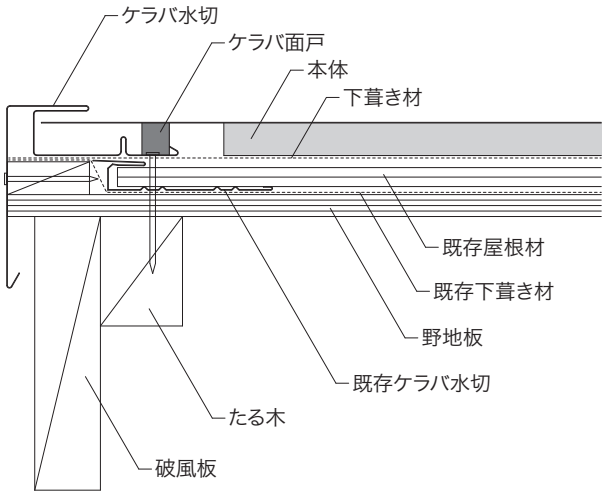




単位：㎜

B. ケラバ部　B-1. ケラバ水切　●ケラバ面戸を併用して納める場合[推奨]

納まり図

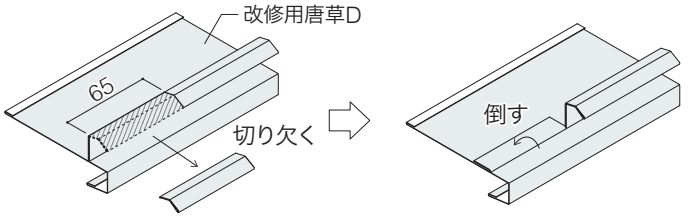


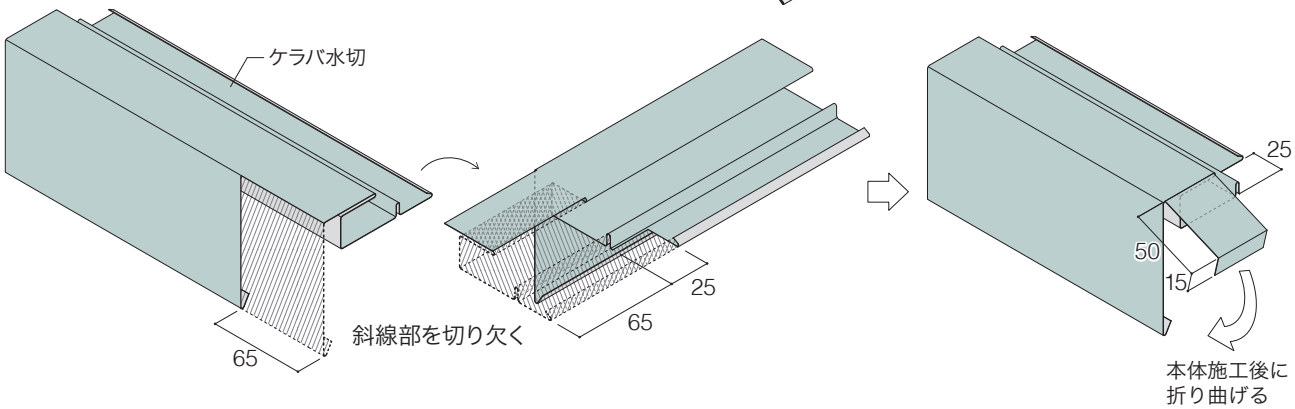
・ケラバ水切を使用する場合の、より防水性を高めるための推奨の納まりです。

施工手順　改修用唐草 D を使用した場合の図です。他の唐草部材との取り合いは P27～を参照してください。

①部材の加工

・改修用唐草Dとケラバ水切の取り合いは、図のように加工してください。
・ケラバ水切同士をつなぐ場合は、P30を参照してください。
・ケラバ水切の軒先側端部は、本体施工後に折り曲げてください。





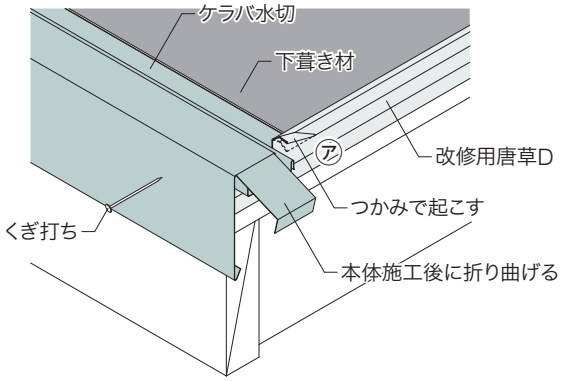
②改修用唐草Dを取り付ける

・下葺き材を重ねる部分には、防水テープを貼ってください（P19参照）。

③下葺き材を施工する

④ケラバ水切を取り付ける

・ケラバ水切を取り付けた後に改修用唐草Dの引っ掛け部（右図㋐）をつかみで起こしてください。



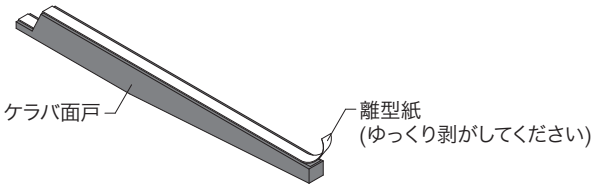
単位：㎜

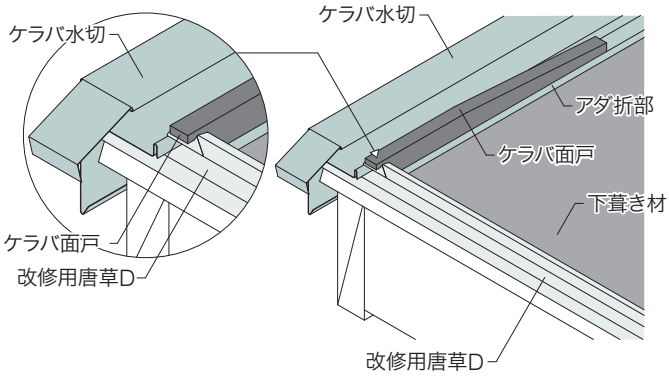
B. ケラバ部　B-1. ケラバ水切　●ケラバ面戸を併用して納める場合[推奨]

⑤ケラバ面戸を貼り付ける

・ケラバ面戸は、改修用唐草Dの引っ掛け部から貼りはじめ、ケラバ水切のアダ折りに沿って貼り付けてください。引っ掛け部にも隙間がないように密着させてください。
・他の改修用唐草を使用する場合も同様に貼り付けてください。

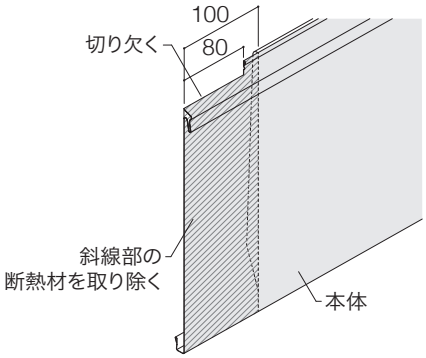
・ケラバ面戸は、離型紙が出ている側からゆっくり剥がして使用してください。





⑥本体を加工する

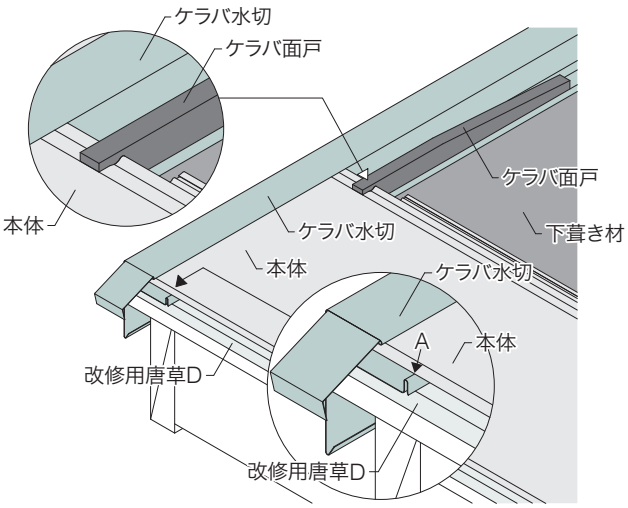
・切断部から断熱材を100㎜程度取り除き、くぎ打ち部を80㎜程度切り欠いてください。



⑦本体を取り付ける

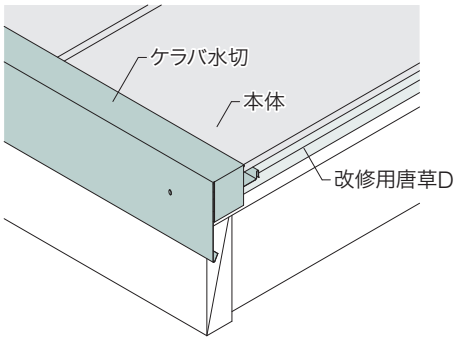
・本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草Dに引っ掛けて、ケラバ水切のAの部分（右図参照）に必ずのせてください。
・ケラバ面戸は、本体かん合部から貼りはじめ、ケラバ水切のアダ折りに沿って貼り付けてください。本体かん合部にも隙間がないように密着させてください。

・二段目以降も同様に、ケラバ面戸を施工してから本体を施工してください。



⑧ケラバ水切の軒先側端部を折り曲げる

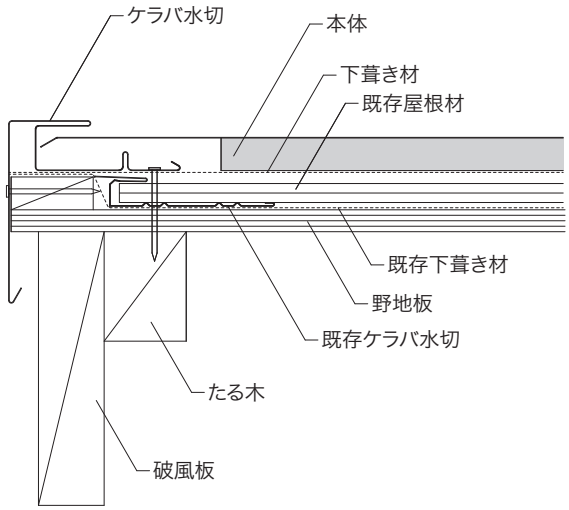
・ケラバ水切エンドを併用すると軒先の加工が不要になり、施工性が向上します（P29参照）。



単位：㎜

B. ケラバ部　B-1. ケラバ水切　●ケラバ水切のみで納める場合

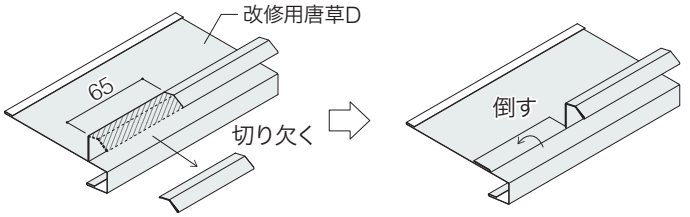
納まり図

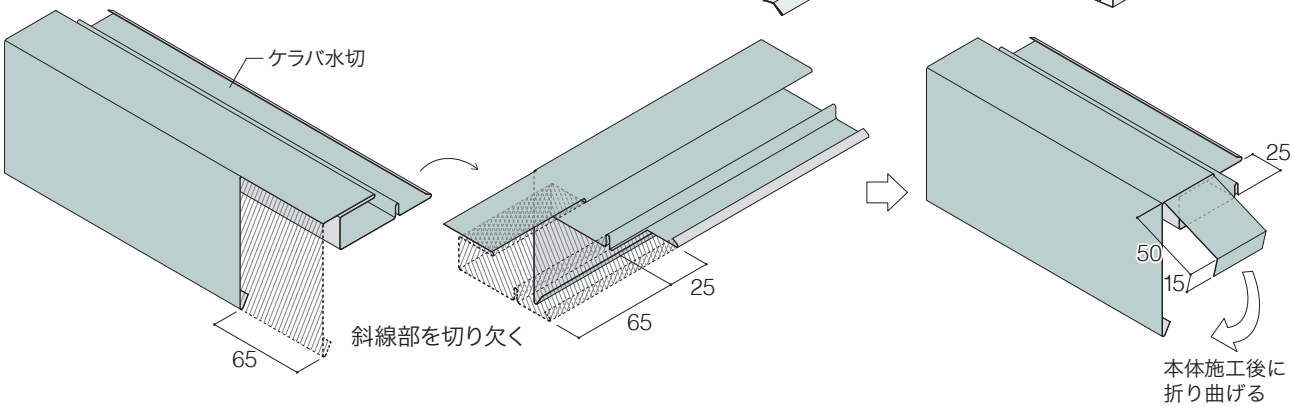


施工手順　改修用唐草 D を使用した場合の図です。他の唐草部材との取り合いは P27 ～を参照してください。

①部材の加工

・改修用唐草Dとケラバ水切の取り合いは、図のように加工してください。
・ケラバ水切同士をつなぐ場合は、P30を参照してください。
・ケラバ水切の軒先側端部は、本体施工後に折り曲げてください。





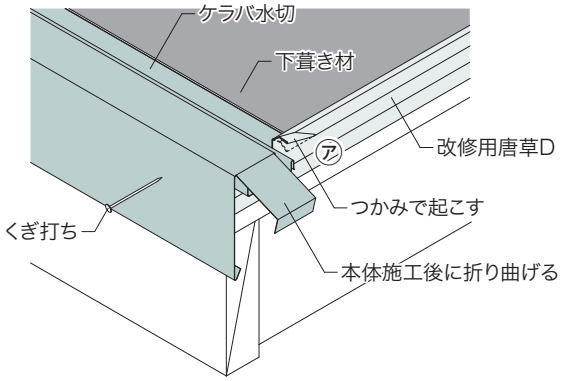
②改修用唐草Dを取り付ける

・下葺き材を重ねる部分には、防水テープを貼ってください（P19参照）。

③下葺き材を施工する

④ケラバ水切を取り付ける

・ケラバ水切を取り付けた後に改修用唐草Dの引っ掛け部（右図㋐）をつかみで起こしてください。

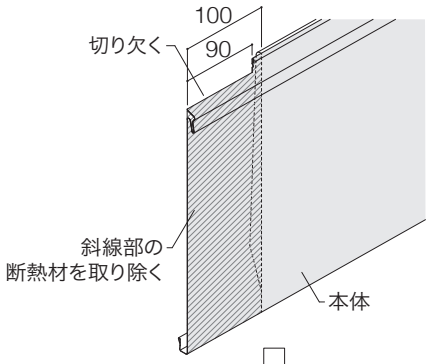


単位：㎜

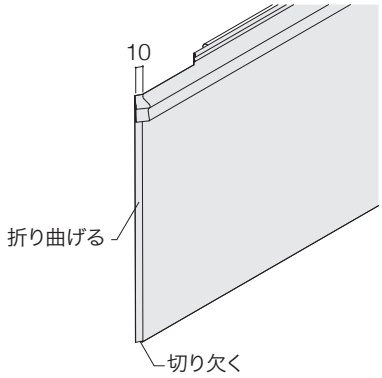
B. ケラバ部　B-1. ケラバ水切　●ケラバ水切のみで納める場合

⑤本体を加工する

・切断部から断熱材を100㎜程度取り除き、くぎ打ち部を90㎜程度切り欠いてください。

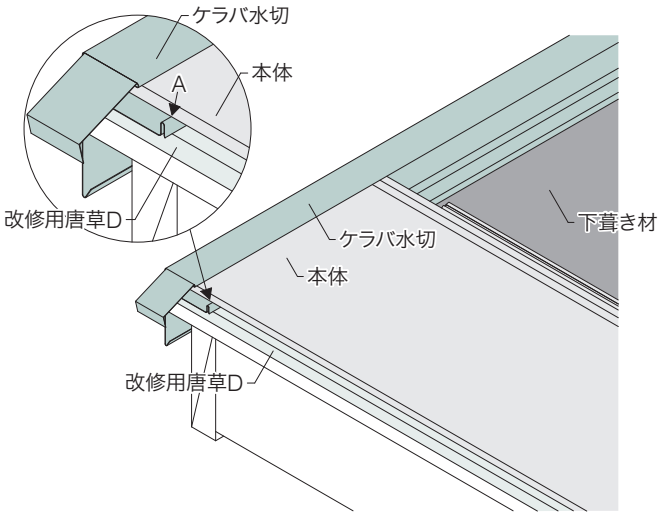


・本体の端部は10㎜程度折り曲げてください。



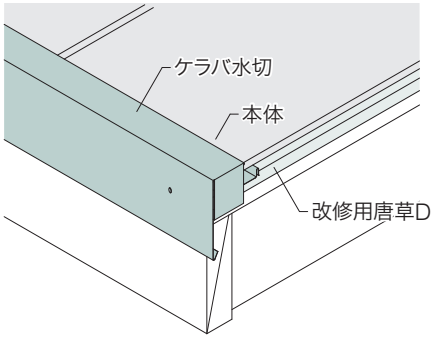
⑥本体を取り付ける

・本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草Dに引っ掛けて、ケラバ水切のAの部分（右図参照）に必ずのせてください。



⑦ケラバ水切の軒先側端部を折り曲げる

・ケラバ水切エンドを併用すると軒先の加工が不要になり、施工性が向上します（P29参照）。



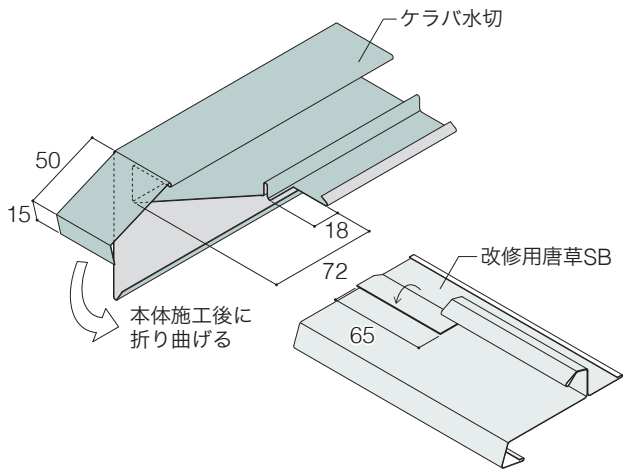
単位：㎜

B．ケラバ部　B-1. ケラバ水切　●改修用唐草SBとの取り合い

施工手順

①部材の加工

・改修用唐草SBとケラバ水切の取り合いは、右図のように加工してください。
・ケラバ水切同士をつなぐ場合は、P30を参照してください。
・ケラバ水切の軒先側端部は、本体施工後に折り曲げてください。



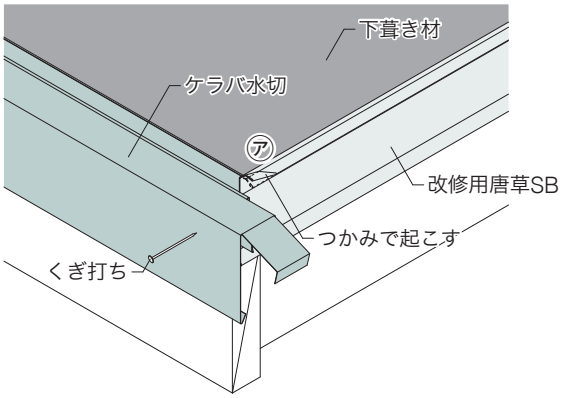
②改修用唐草SBを取り付ける

・下葺き材を重ねる部分には、防水テープを貼ってください（P20参照）。

③下葺き材を施工する

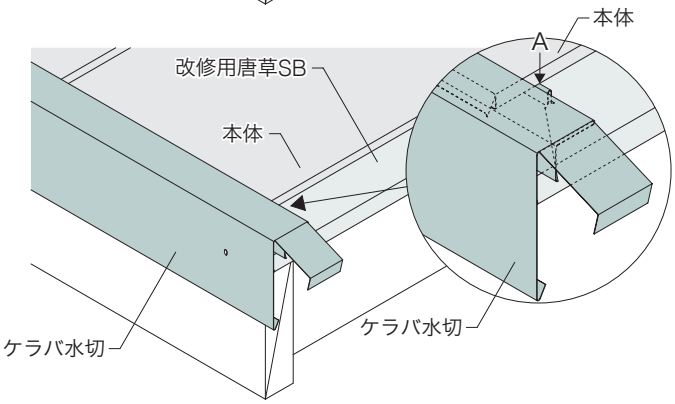
④ケラバ水切を取り付ける

・ケラバ水切を取り付けた後に改修用唐草SBの引っ掛け部（右図㋐）をつかみで起こしてください。



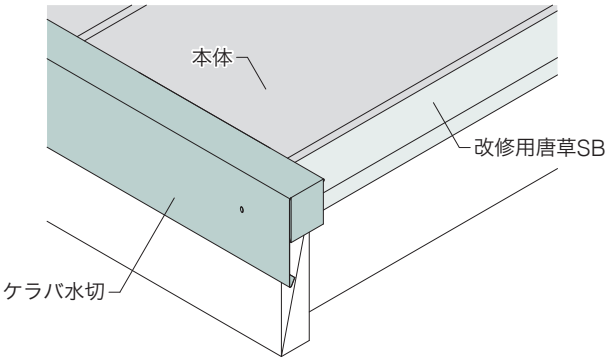
⑤本体を加工し、取り付ける

・本体の加工方法やケラバ面戸の取り付け方については、以下のページを参照してください。
　ケラバ水切とケラバ面戸を併用する場合：P24
　ケラバ水切のみで納める場合：P26
・本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草SBに引っ掛けて、ケラバ水切のAの部分（右図参照）に必ずのせてください。



⑥ケラバ水切の軒先側端部を折り曲げる

・ケラバ水切エンドを併用すると軒先の加工が不要になり、施工性が向上します（P29参照）。



単位：㎜

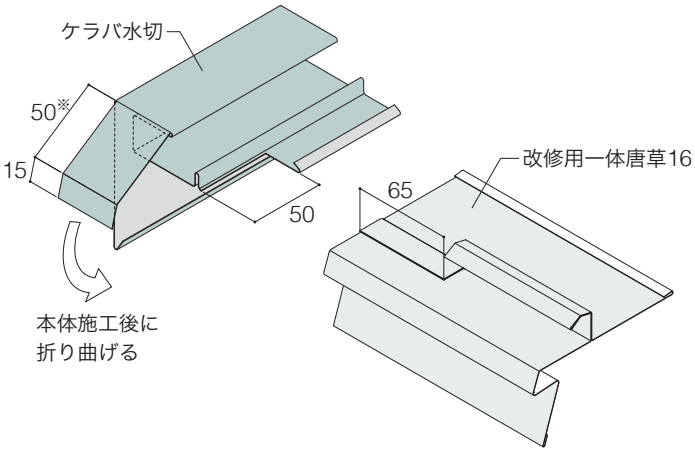
B．ケラバ部　B-1. ケラバ水切　●改修用一体唐草16／改修用一体唐草29との取り合い

施工手順　図は、改修用一体唐草 16 で記載しています。

①部材の加工

・改修用一体唐草16（改修用一体唐草29）とケラバ水切の取り合いは、右図のように加工してください。
・ケラバ水切同士をつなぐ場合は、P30を参照してください。
・ケラバ水切の軒先側端部は、本体施工後に折り曲げてください。

※ 改修用一体唐草29の場合は、63㎜にしてください。



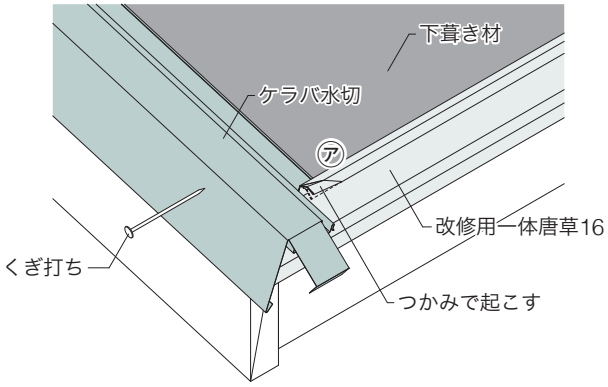
②改修用一体唐草16を取り付ける

・下葺き材を重ねる部分には、防水テープを貼ってください（P21、22参照）。

③下葺き材を敷く

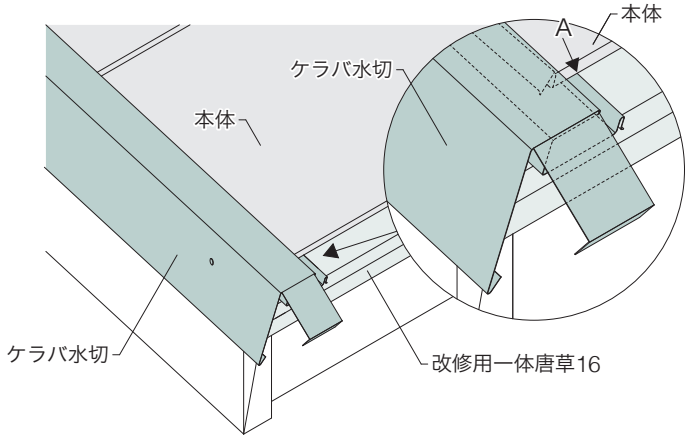
④ケラバ水切を取り付ける

・ケラバ水切を取り付けた後に改修用一体唐草16（改修用一体唐草29）の引っ掛け部（右図㋐）をつかみで起こしてください。



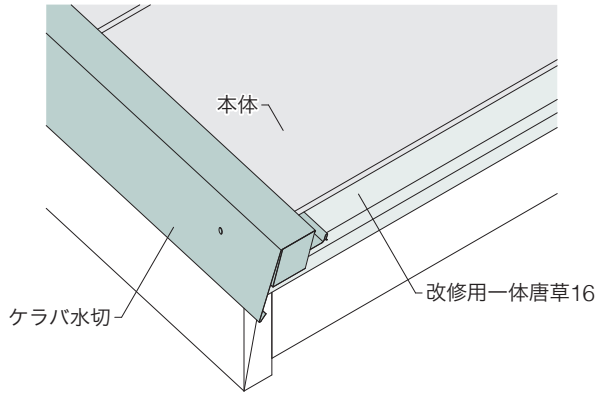
⑤本体を加工し、取り付ける

・本体の加工方法やケラバ面戸の取り付け方については、以下のページを参照してください。
　ケラバ水切とケラバ面戸を併用する場合：P24
　ケラバ水切のみで納める場合：P26
・本体の一段目の下ハゼは、改修用一体唐草16（改修用一体唐草29）に引っ掛けて、ケラバ水切のAの部分（右図参照）に必ずのせてください。



⑥ケラバ水切の軒先側端部を折り曲げる

・ケラバ水切エンドを併用すると軒先の加工が不要になり、施工性が向上します（P29参照）。



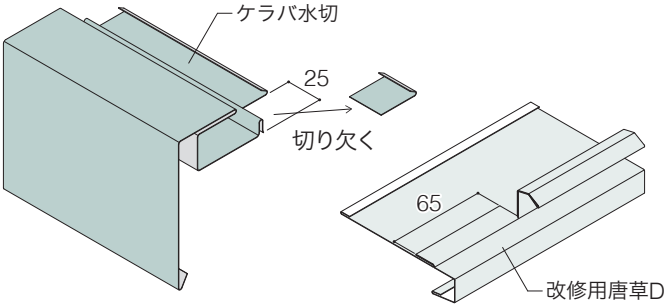
単位：㎜

B. ケラバ部　B-1. ケラバ水切　●ケラバ水切エンドの取り付け方

施工手順　改修用唐草 D を使用した場合の図です。

①部材の加工

・改修用唐草Dとケラバ水切の取り合いは、右図のように加工してください。



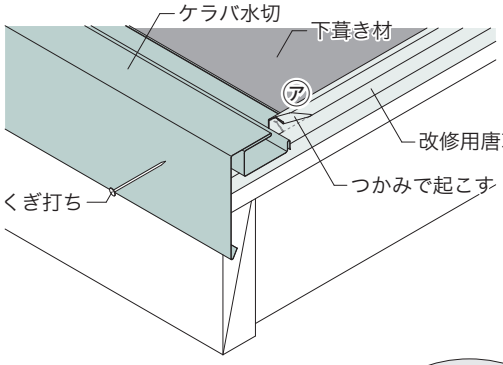
②改修用唐草Dを取り付ける

・下葺き材を重ねる部分には、防水テープを貼ってください（P19参照）。

③下葺き材を施工する

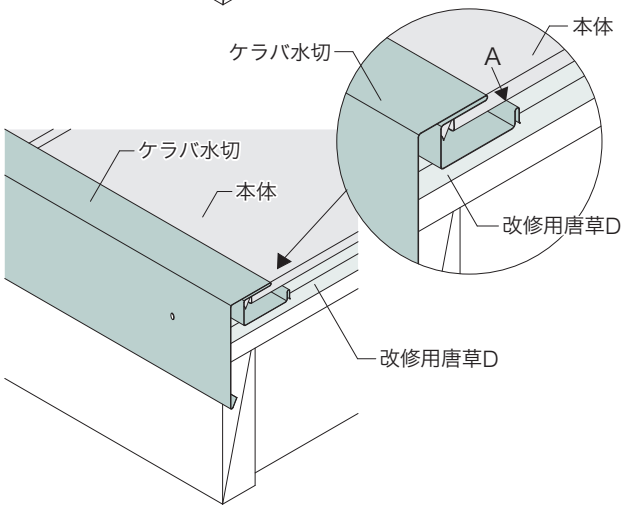
④ケラバ水切を取り付ける

・ケラバ水切を取り付けた後に改修用唐草Dの引っ掛け部（右図㋐）をつかみで起こしてください。



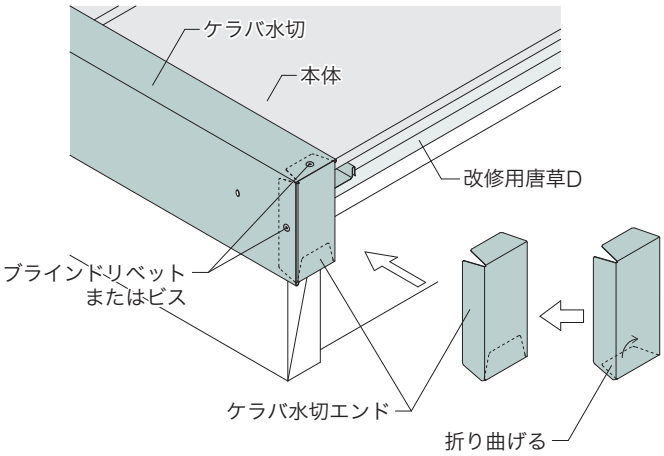
⑤本体を加工し、取り付ける

・本体の加工方法やケラバ面戸の取り付け方については、以下のページを参照してください。
　ケラバ水切とケラバ面戸を併用する場合：P24
　ケラバ水切のみで納める場合：P26
・本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草Dに引っ掛けて、ケラバ水切のAの部分（右図参照）に必ずのせてください。



⑥ケラバ水切エンドを取り付ける

・ケラバ水切エンドの下部を、ケラバ水切の方向に合わせて折り曲げてください。
・ケラバ水切エンドをケラバ水切に差し込み、ブラインドリベットまたはビスで2ヵ所留め付けてください。
・ブラインドリベットまたはビスはタッチアップペイントで補修してください。

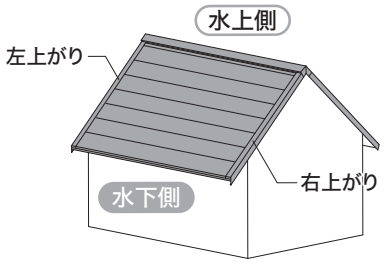


単位：㎜

B. ケラバ部　B-1. ケラバ水切　●ケラバ水切のつなぎ方

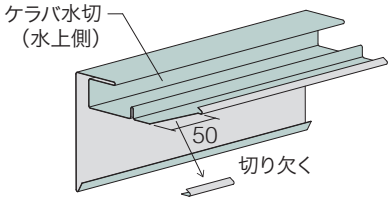
ケラバ水切のつなぎ方

・ケラバ水切同士をつなぐ際は、50㎜程度の切り欠き加工をしてください。
・施工する方向により切り欠き加工が異なりますので、注意してください。

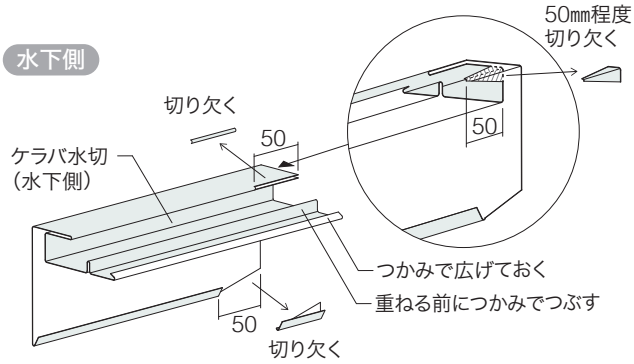


左上がりの加工

水上側

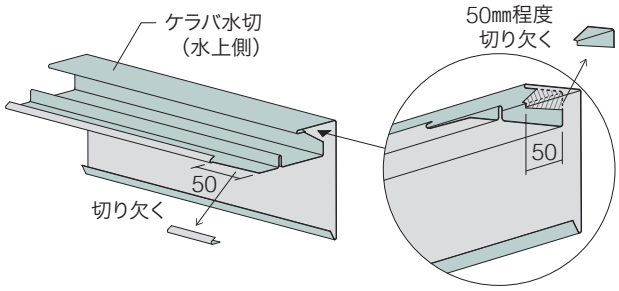


水下側

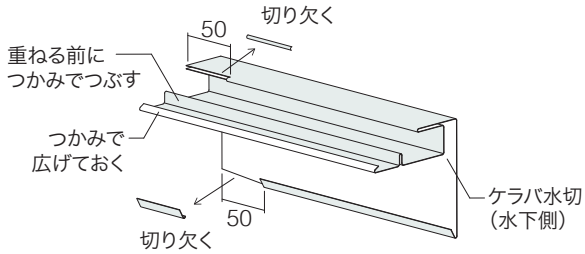


右上がりの加工

水上側

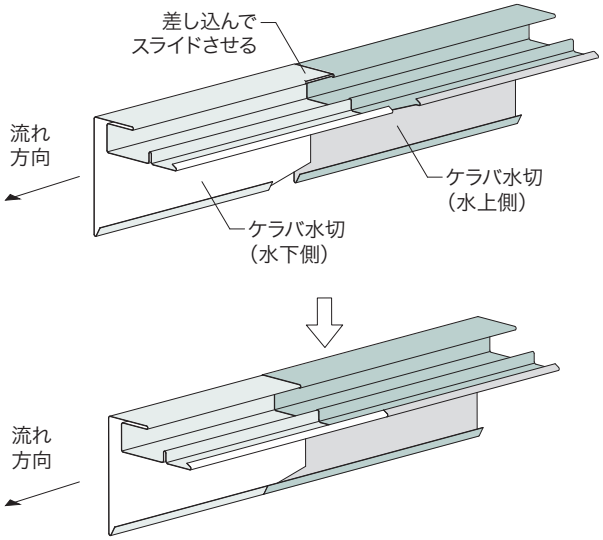


水下側



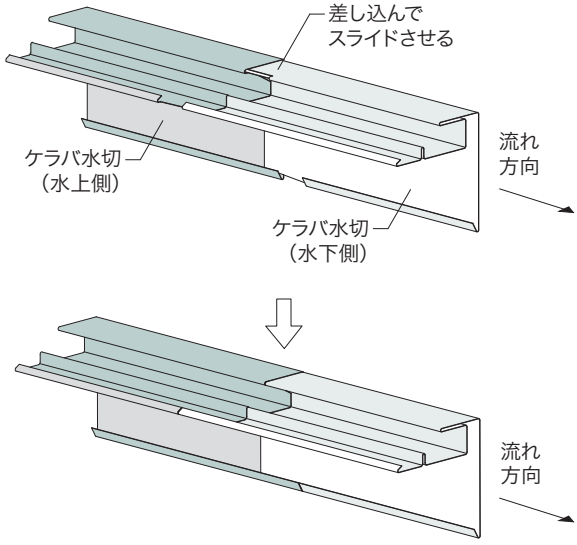
左上がりのつなぎ方

水下側のケラバ水切を下に施工してください。



右上がりのつなぎ方

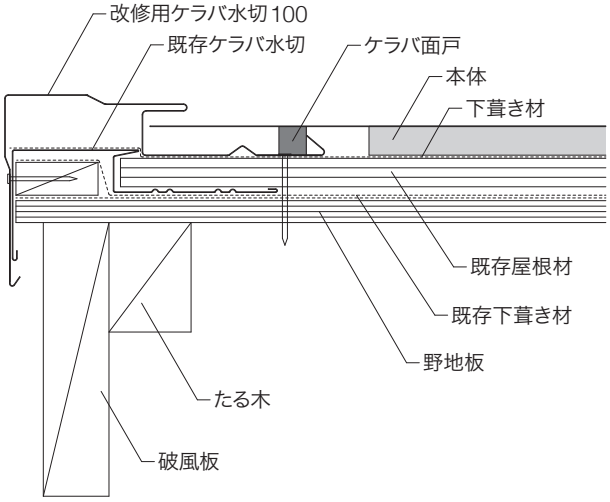
水下側のケラバ水切を下に施工してください。



単位：㎜

B．ケラバ部　B-2. 改修用ケラバ水切 100　●ケラバ面戸を併用して納める場合［推奨］

納まり図



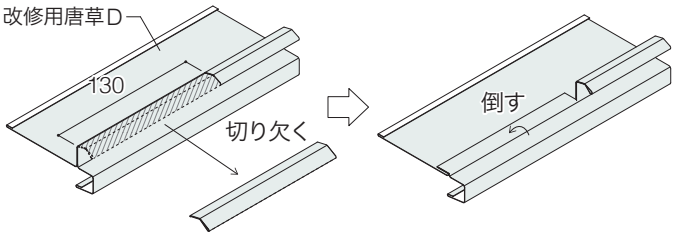
・改修用ケラバ水切100を使用する場合の、より防水性を高めるための推奨の納まりです。

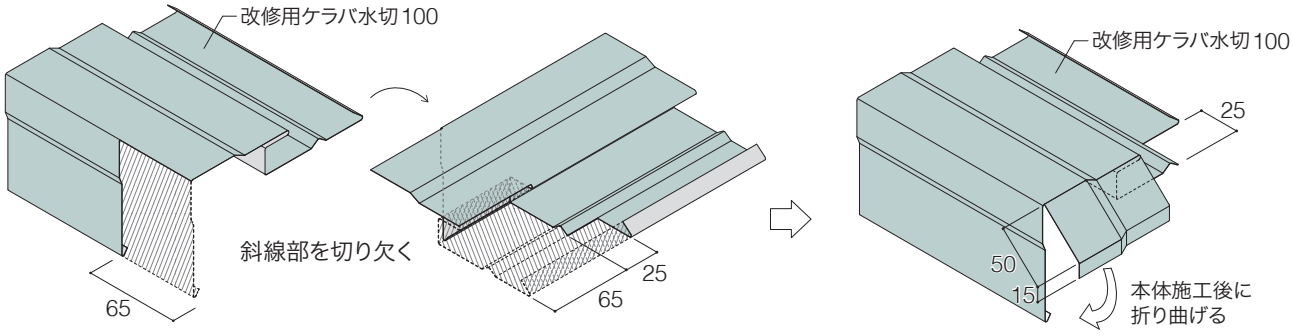
施工手順

改修用唐草Dを使用した場合の図です。

①部材の加工

・改修用唐草Dと改修用ケラバ水切100の取り合いは、右図のように加工してください。
・改修用ケラバ水切100の軒先側端部は、本体施工後に折り曲げてください。





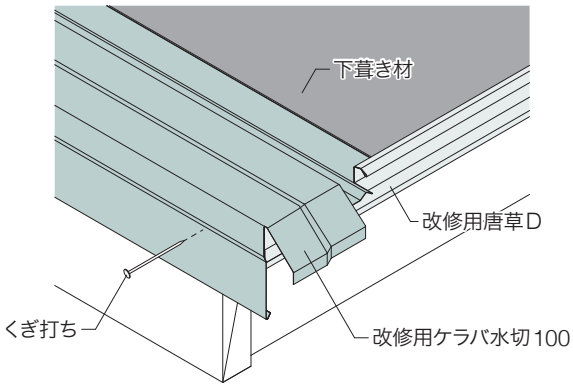
②改修用唐草Dを取り付ける

・既存ケラバ水切の軒先部を事前に切断してください。
・下葺き材を重ねる部分には、防水テープを貼ってください（P19参照）。

③下葺き材を施工する

④改修用ケラバ水切100を取り付ける

・改修用ケラバ水切100の側面を留め付ける際は、リブを目安にしてください。



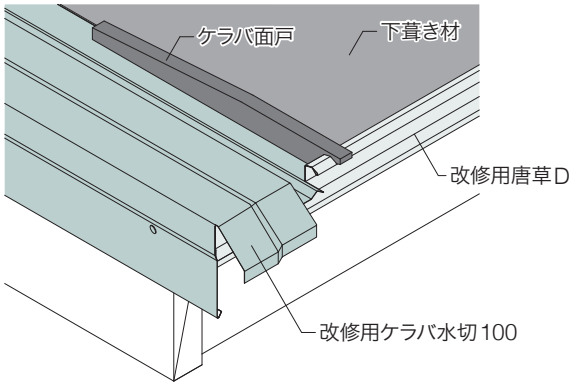
単位：㎜

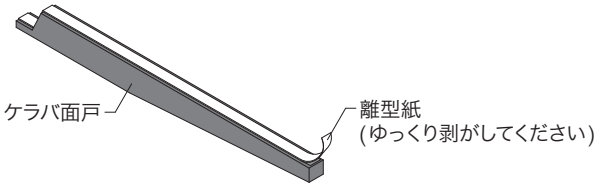
B. ケラバ部　B-2. 改修用ケラバ水切 100　●ケラバ面戸を併用して納める場合［推奨］

⑤ケラバ面戸を貼り付ける

・ケラバ面戸は、改修用唐草Dの引っ掛け部から貼りはじめ、改修用ケラバ水切100のアダ折りに沿って貼り付けてください。引っ掛け部にも隙間がないように密着させてください。

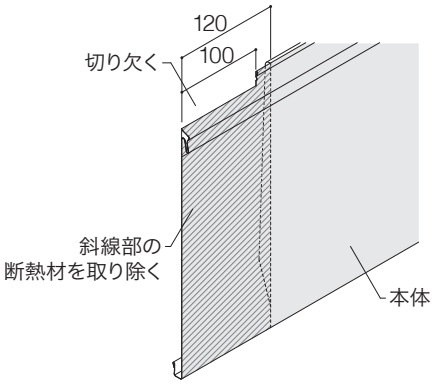
・ケラバ面戸は、離型紙が出ている側からゆっくり剥がして使用してください。





⑥本体を加工する

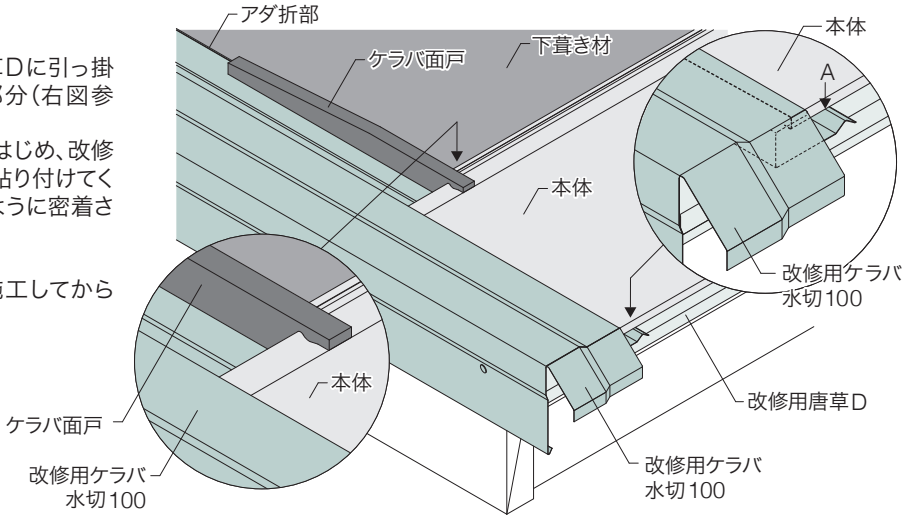
・切断部から断熱材を120㎜程度取り除き、くぎ打ち部を100㎜程度切り欠いてください。



⑦本体を取り付ける

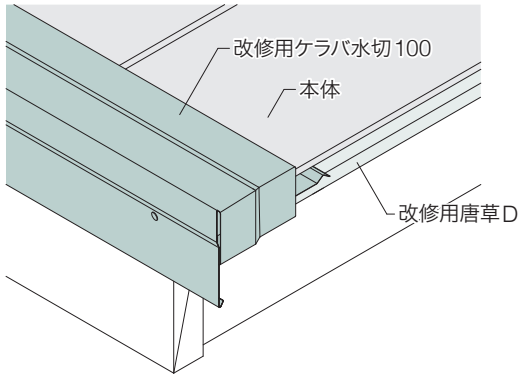
・本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草Dに引っ掛けて、改修用ケラバ水切100のAの部分（右図参照）に必ずのせてください。
・ケラバ面戸は、本体かん合部から貼りはじめ、改修用ケラバ水切100のアダ折りに沿って貼り付けてください。本体かん合部にも隙間がないように密着させてください。

・二段目以降も同様に、ケラバ面戸を施工してから本体を施工してください。



⑧改修用ケラバ水切100の軒先側端部を折り曲げる

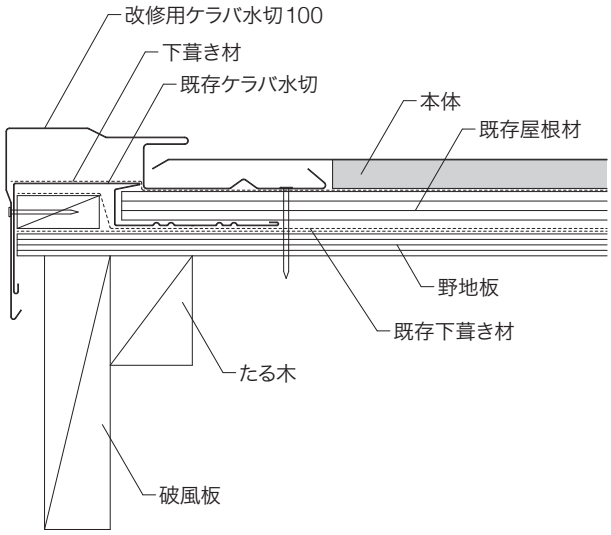
・ケラバ水切100エンド（左）／（右）を併用すると軒先の加工が不要になり、施工性が向上します（P35参照）。



単位：㎜

B．ケラバ部　B-2. 改修用ケラバ水切 100　●改修用ケラバ水切 100 のみで納める場合

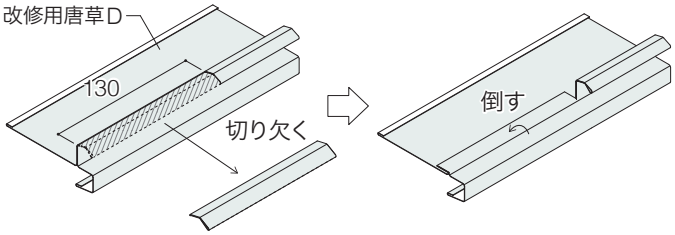
納まり図

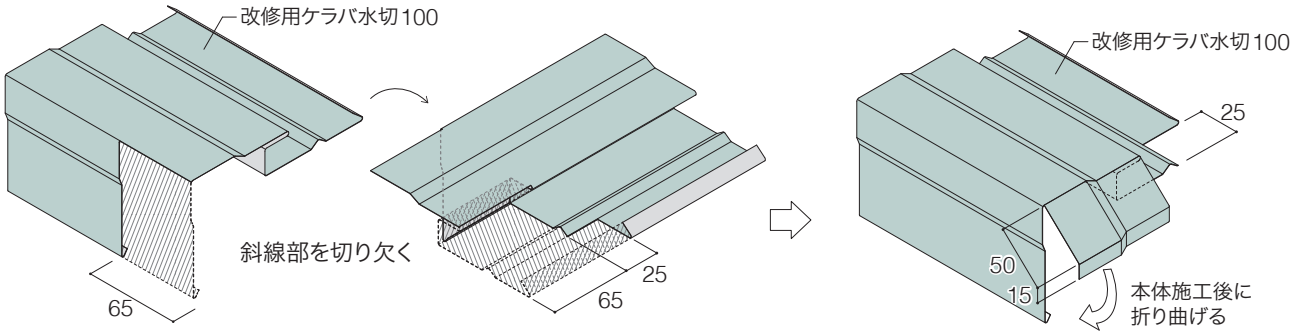


施工手順　改修用唐草Dを使用した場合の図です。

①部材の加工

・改修用唐草Dと改修用ケラバ水切100の取り合いは、右図のように加工してください。
・改修用ケラバ水切100の軒先側端部は、本体施工後に折り曲げてください。





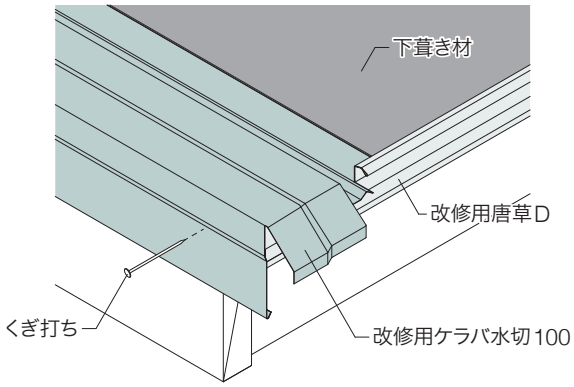
②改修用唐草Dを取り付ける

・既存ケラバ水切の軒先部を事前に切断してください。
・下葺き材を重ねる部分には、防水テープを貼ってください（P19参照）。

③下葺き材を施工する

④改修用ケラバ水切100を取り付ける

・改修用ケラバ水切100の側面を留め付ける際は、リブを目安にしてください。

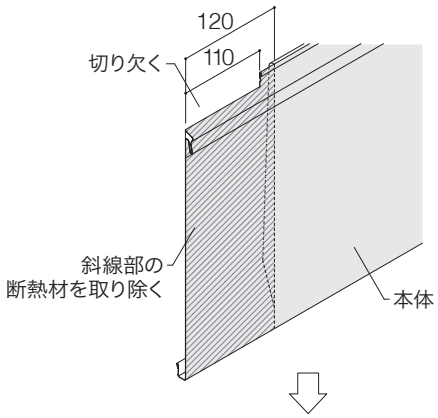


単位：㎜

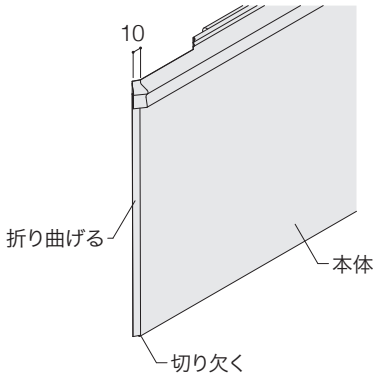
B．ケラバ部　B-2. 改修用ケラバ水切 100　●改修用ケラバ水切 100 のみで納める場合

⑤本体を加工する

・切断部から断熱材を120㎜程度取り除き、くぎ打ち部を110㎜程度切り欠いてください。

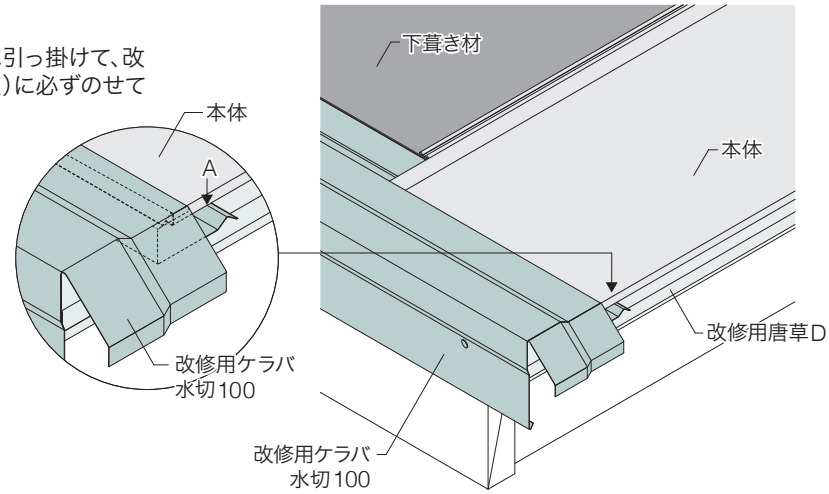


・本体の端部は10㎜程度折り曲げてください。



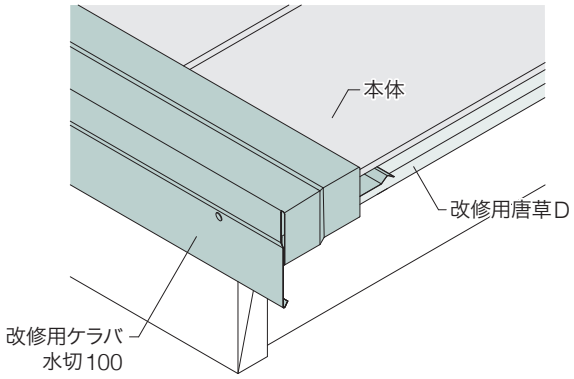
⑥本体を取り付ける

・本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草Dに引っ掛けて、改修用ケラバ水切100のAの部分（右図参照）に必ずのせてください。



⑦改修用ケラバ水切100の軒先側端部を折り曲げる

・ケラバ水切100エンド（左）／（右）を併用すると軒先の加工が不要になり、施工性が向上します（P35参照）。



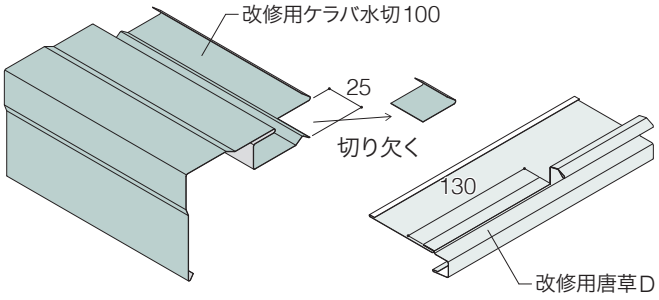
単位：mm

B. ケラバ部　B-2. 改修用ケラバ水切 100　●ケラバ水切100エンド(左)／(右)の取り付け方

施工手順　改修用唐草Dを使用した場合の図です。

①部材の加工

・改修用唐草Dと改修用ケラバ水切100の取り合いは、右図のように加工してください。



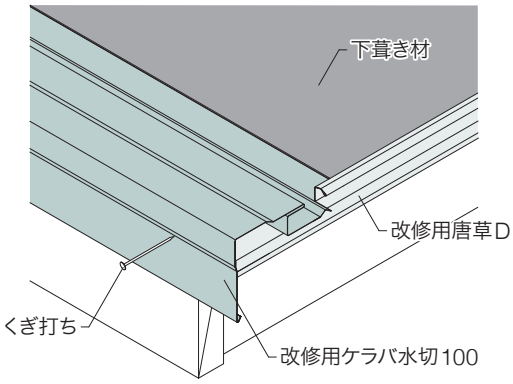
②改修用唐草Dを取り付ける

・既存ケラバ水切の軒先部を事前に切断してください。
・下葺き材を重ねる部分には、防水テープを貼ってください(P19参照)。

③下葺き材を施工する

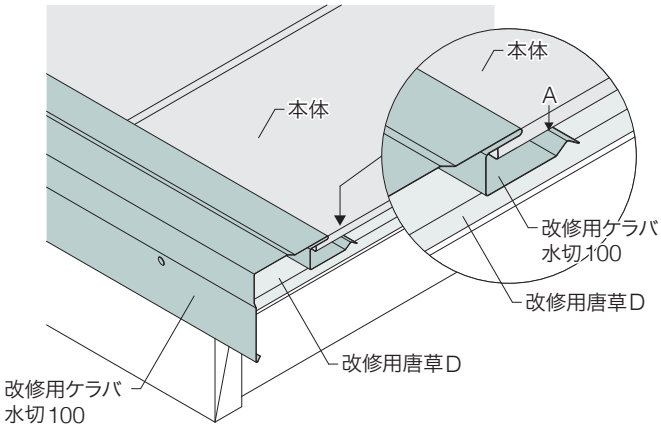
④改修用ケラバ水切100を取り付ける

・改修用ケラバ水切100の側面を留め付ける際は、リブ



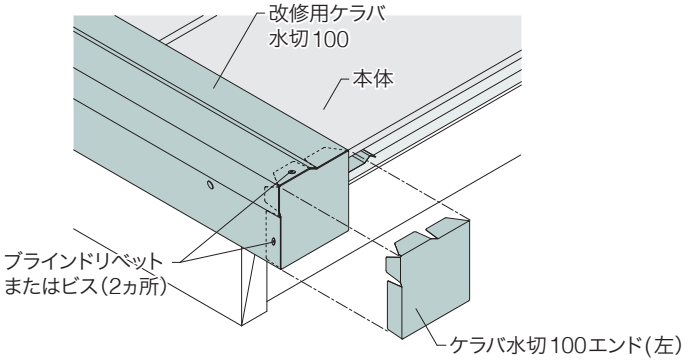
⑤本体を加工し、取り付ける

・本体の加工方法やケラバ面戸の取り付け方については、以下のページを参照してください。
　改修用ケラバ水切100とケラバ面戸を併用する場合：P32
　改修用ケラバ水切100のみで納める場合：P34
・本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草Dに引っ掛けて、改修用ケラバ水切100のAの部分(右図参照)に必ずのせてください。



⑥ケラバ水切100エンドを取り付ける

・ケラバ水切100エンドは、左右で形状が異なります。取り付ける前に左右を確認してください。
・ケラバ水切100エンドを改修用ケラバ水切100に差し込み、ブラインドリベットまたはビスで2ヵ所留め付けてください。
・ブラインドリベットまたはビスはタッチアップペイントで補修してください。



単位：㎜

B．ケラバ部　B-2. 改修用ケラバ水切 100　●改修用ケラバ水切 100 のつなぎ方

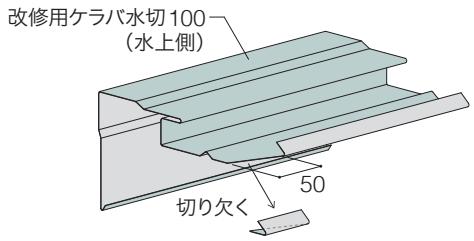
改修用ケラバ水切100のつなぎ方

・ケラバ水切同士をつなぐ際は、50㎜程度の切り欠き加工をしてください。

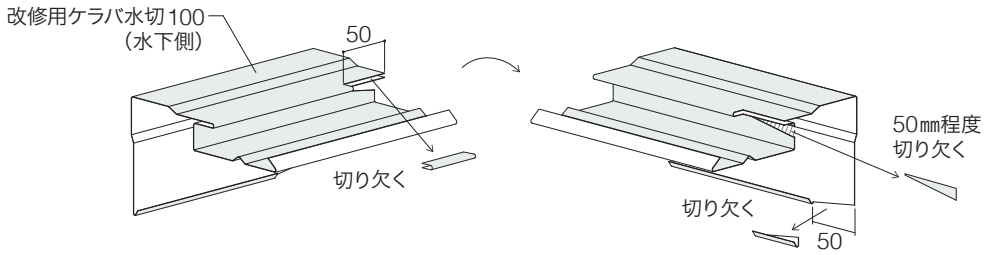
切り欠き加工

図は左上がりの場合です。右上がりの場合も、水上側、水下側それぞれ同様に加工してください。

水上側

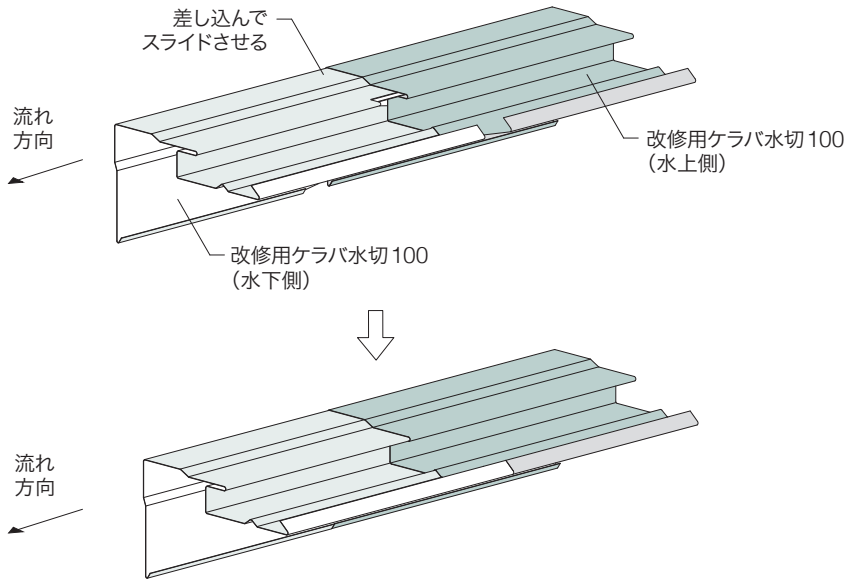


水下側



つなぎ方

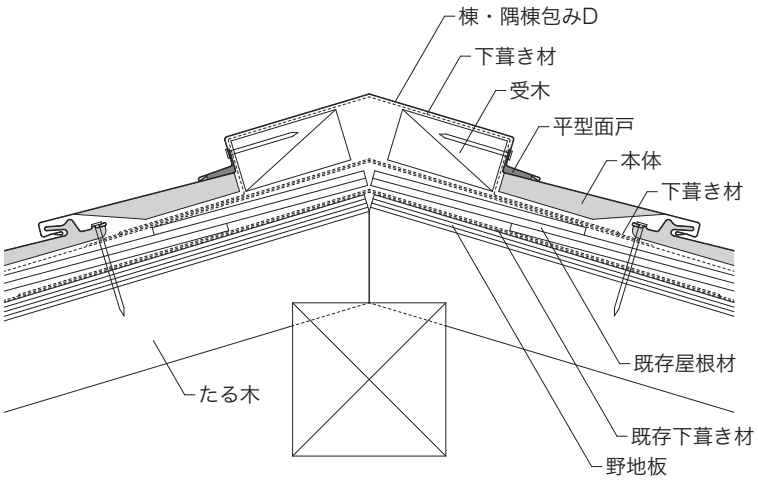
水下側の改修用ケラバ水切100を下に施工してください。



単位：㎜

C. 棟部　C-1. 棟・隅棟包み D

納まり図



・棟・隅棟包みDをつなぐ場合は、重ね代を150㎜以上とり、捨てシーリングを施工して重ねてください。

【受木について】
・屋根の勾配に合わせ、高さ36～45㎜、幅60～80㎜で選定してください。
・幅30～40㎜の受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。
・隅棟にC型捨板を使用する場合は、受木のサイズを合わせてください。

施工手順

●端部の納め方(1)　棟・隅棟包み D を加工して納める場合

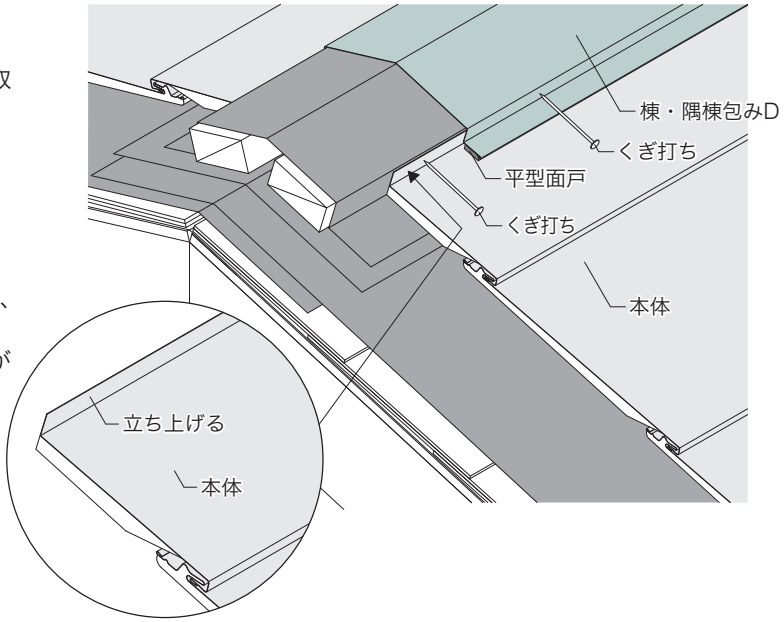
①本体を加工し、取り付ける

・本体を切断後、受木の位置に合わせて断熱材を取り除き、表面鋼板を立ち上げてください。

②平型面戸を貼り付ける

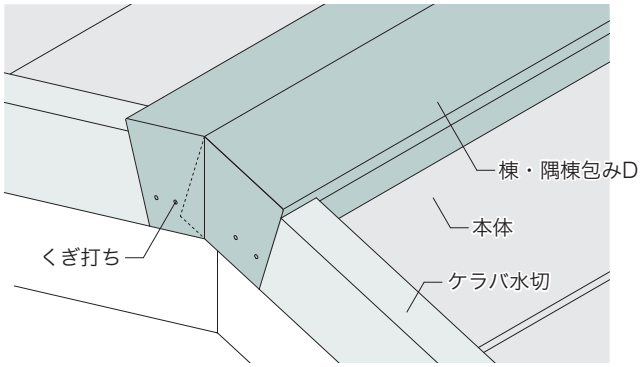
③棟・隅棟包みDを取り付ける

・受木の勾配に合わせて棟・隅棟包みDを取り付け、くぎ打ちしてください。
・平型面戸が半分以上圧縮するように押し付けながら施工してください。



④棟・隅棟包みDのケラバ側を加工する

・棟・隅棟包みDを右図のように加工して納め、くぎ打ちしてください。
・棟巴を併用すると加工が不要になり、施工性が向上します。(P38参照)



単位：㎜

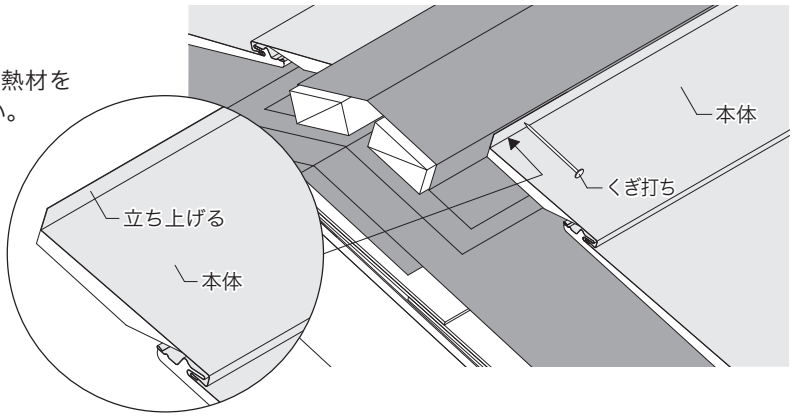
C. 棟部　C-1. 棟・隅棟包み D

●端部の納め方 (2)　棟巴を併用する場合

「スーパーガルテクト」、「スーパーガルテクトC」のみの仕様です

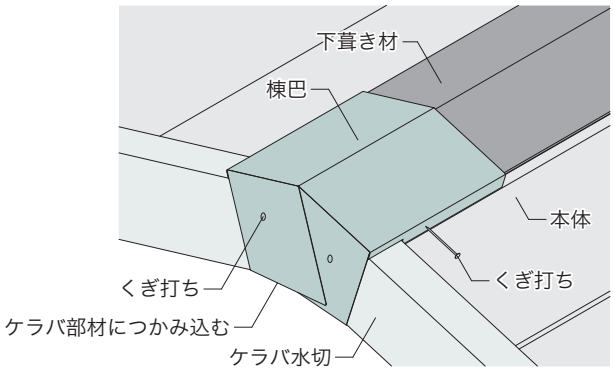
①本体を加工し、取り付ける

・本体を切断後、受木の位置に合わせて断熱材を取り除き、表面鋼板を立ち上げてください。



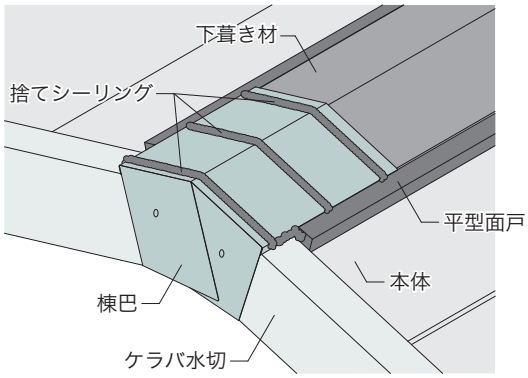
②棟巴を加工し、取り付ける

・ケラバ部材の幅や勾配に合わせて切り欠いてください。
・棟巴を取り付けた後、ケラバ部材につかみ込んでください。



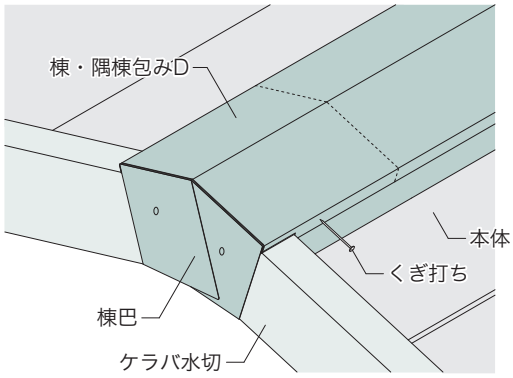
③平型面戸を貼り付け、捨てシーリングを施工する

・棟巴と棟・隅棟包みDが重なる部分に捨てシーリングを施工してください。



④棟・隅棟包みDを加工し、取り付ける

・棟・隅棟包みDを施工し、くぎ打ちしてください。
・平型面戸が半分以上圧縮するように押し付けながら施工してください。

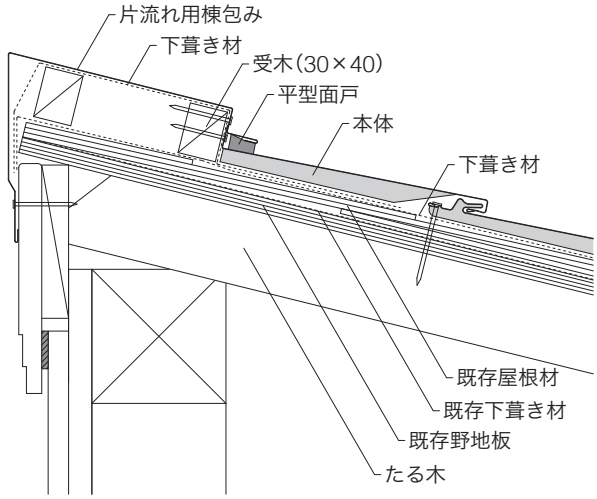


単位：㎜

C. 棟部　C-2. 片流れ用棟包み

納まり図

2.5寸～6寸勾配に対応



施工手順

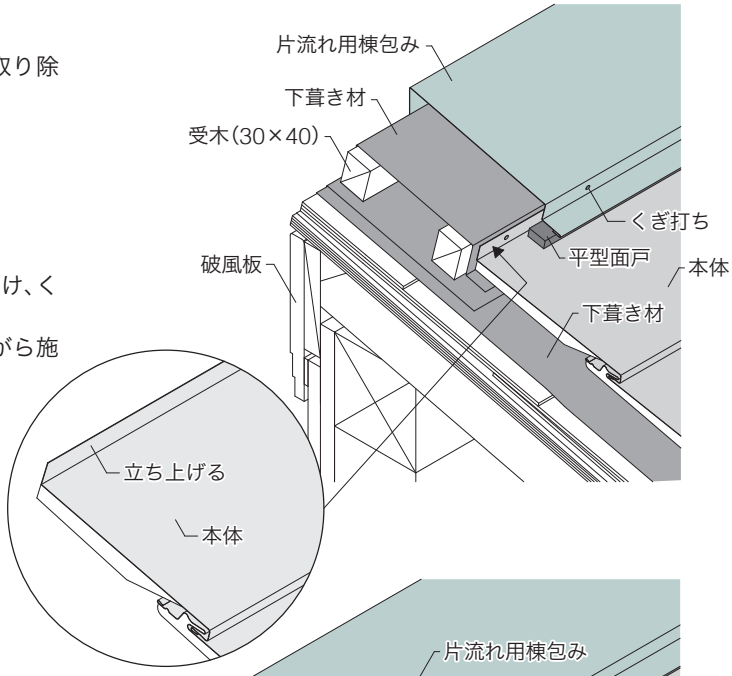
①本体を加工し、取り付ける

・本体を切断後、受木の位置に合わせて断熱材を取り除き、表面鋼板を立ち上げてください。

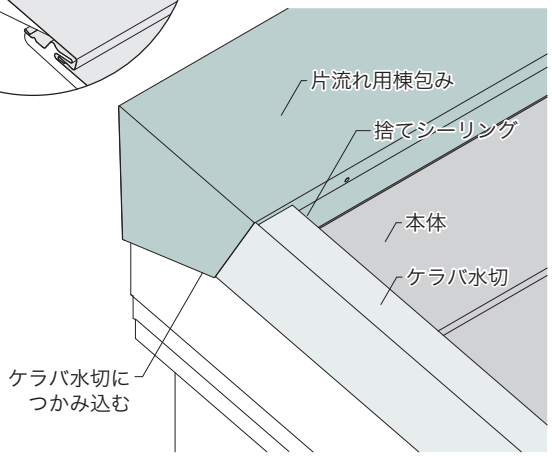
②平型面戸を貼り付ける

③片流れ用棟包みを取り付ける

・受木の勾配に合わせて片流れ用棟包みを取り付け、くぎ打ちしてください。
・平型面戸が半分以上圧縮するように押し付けながら施工してください。



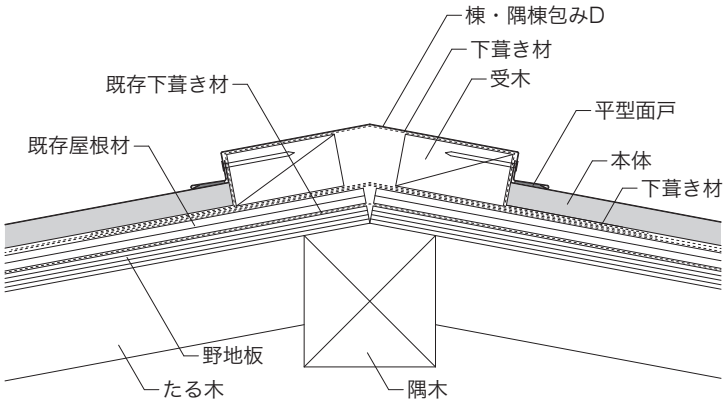
・片流れ用棟包みの端部は、右図のように加工し、ケラバ部材につかみ込んでください。
・片流れ用棟包みを取り付ける際に、本体、ケラバ部材との取り合い部に捨てシーリングを施工してください。



単位：㎜

D. 隅棟部　D-1. 棟・隅棟包みD

納まり図



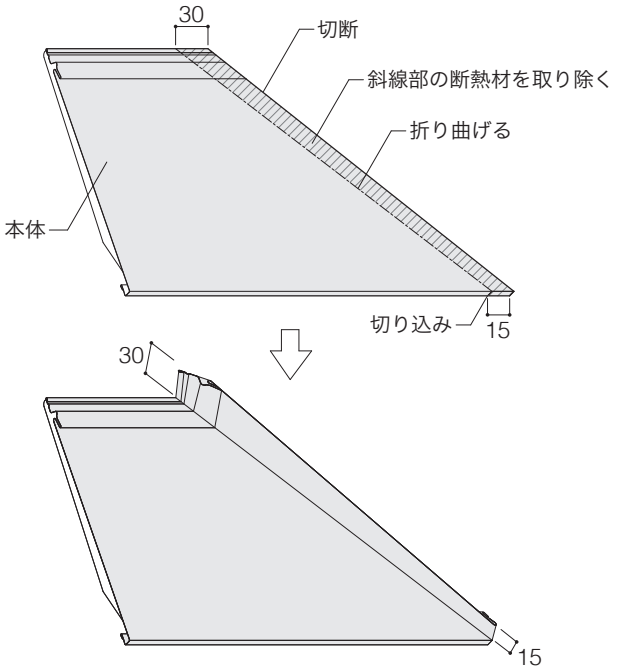
・棟・隅棟包みDをつなぐ場合は、重ね代を150㎜以上とり、捨てシーリングを施工して重ねてください。

【受木について】
・高さ36～45㎜、幅60～80㎜で選定してください。
・幅30～40㎜の受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。

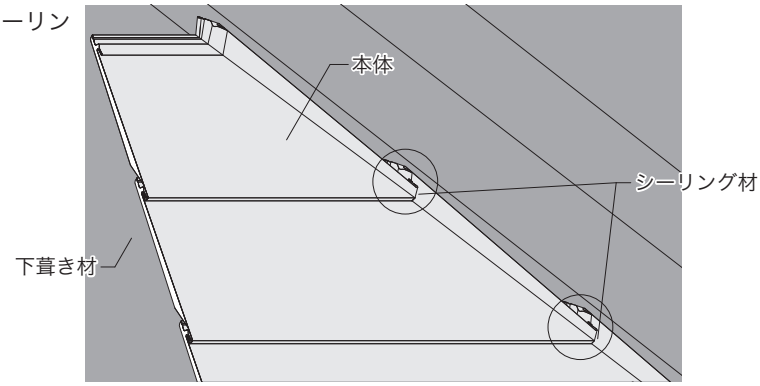
施工手順

●本体の加工

・勾配に合わせて本体を曲げる位置を決め切断してください。
・カッターとスクレーパーを使用し、右図の斜線部の断熱材を取り除いてください。
・右図のようにかん合部に切り込みを入れ、立ち上げてください。



・切り込みを入れたかん合部は、本体を施工後にシーリング材で防水処理をしてください。



▶▶　剣先を使用して納める場合：P41へ
剣先120を使用して納める場合：P42へ

単位：㎜

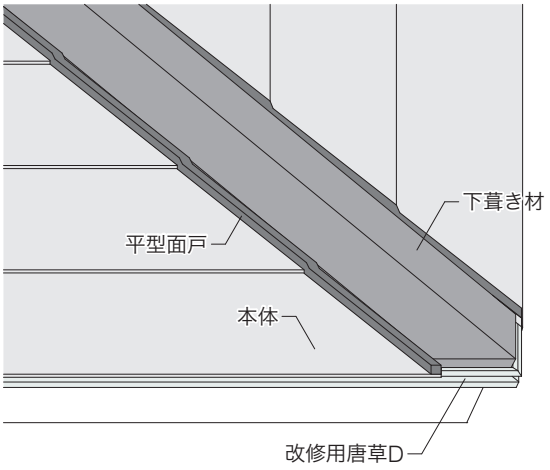
D. 隅棟部　D-1. 棟・隅棟包みD

●端部の納め方(1)　剣先で納める場合

2.5寸～4.5寸勾配に対応

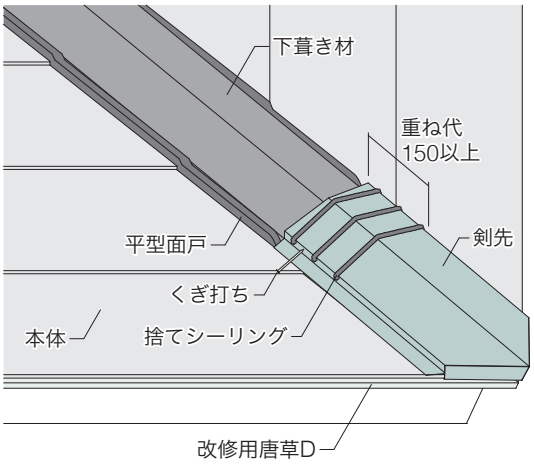
図は、改修用唐草Dを使用した場合ですが、他の唐草部材の場合も同様に施工してください。

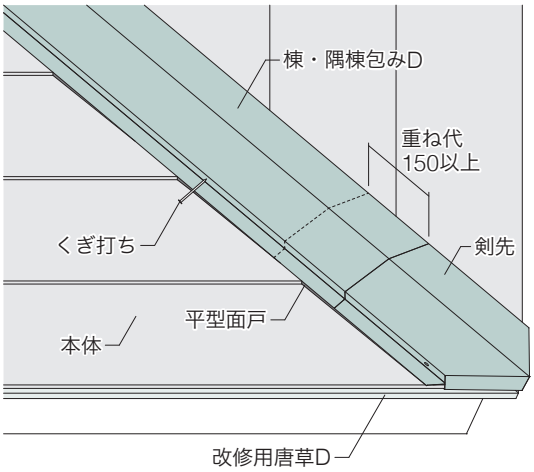
①平型面戸を本体に貼り付ける



②剣先と棟・隅棟包みDを取り付ける

・平型面戸が潰れるように押し付け、くぎ打ちしてください。
・剣先と棟・隅棟包みDの重ね代は150㎜以上とり、捨てシーリングを施工して重ねてください。





単位：㎜

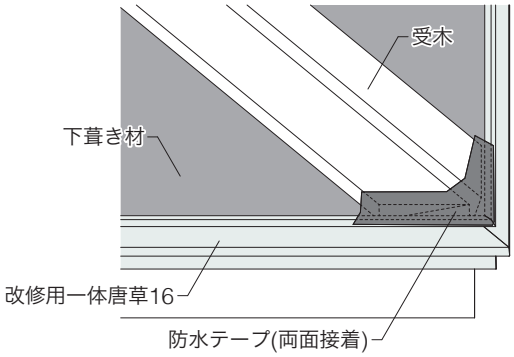
D. 隅棟部　D-1. 棟・隅棟包みD

●端部の納め方(2)　剣先120で納める場合

図は、改修用一体唐草16を使用した場合ですが、他の唐草部材の場合も同様に施工してください。

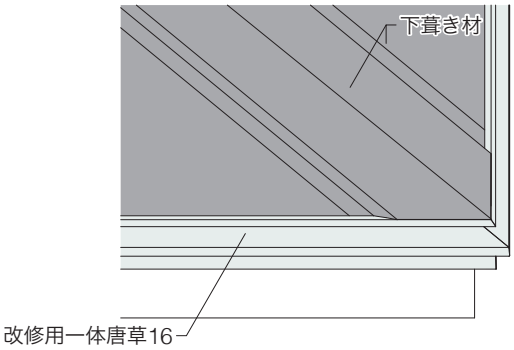
①防水テープを貼り付ける

・改修用一体唐草16と受木に防水テープ(両面)を施工してください。



②受木に下葺き材を施工する

・改修用一体唐草16と受木に施工した防水テープ(両面接着)と下葺き材を密着させてください。



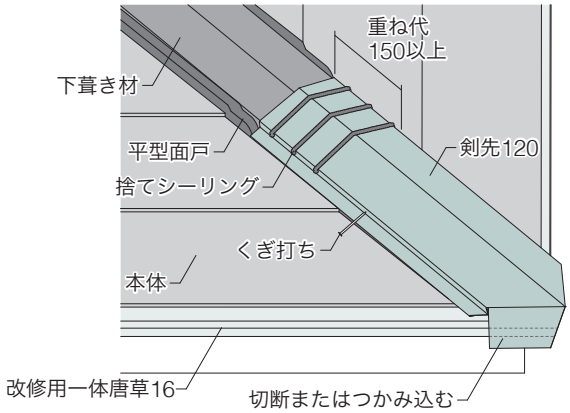
③本体を取り付ける

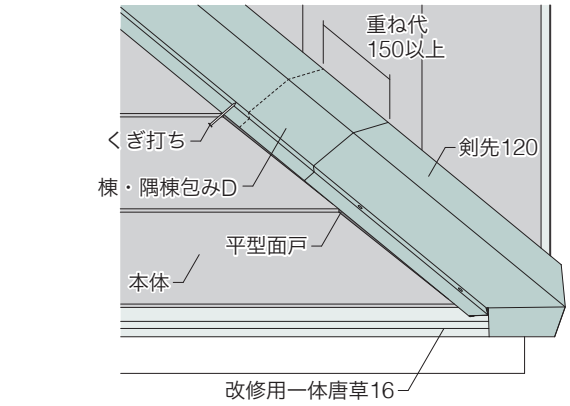
・本体の加工と施工方法は、P40 ～ 41と併せて確認してください。

④平型面戸を本体に貼り付ける

⑤剣先120と棟・隅棟包みDを取り付ける

・平型面戸が潰れるように押し付け、くぎ打ちしてください。
・剣先120と棟・隅棟包みDの重ね代は150㎜以上とり、捨てシーリングを施工して重ねてください。
・剣先120の先端は、改修用一体唐草16のラインに合わせて切断またはつかみ込んでください。



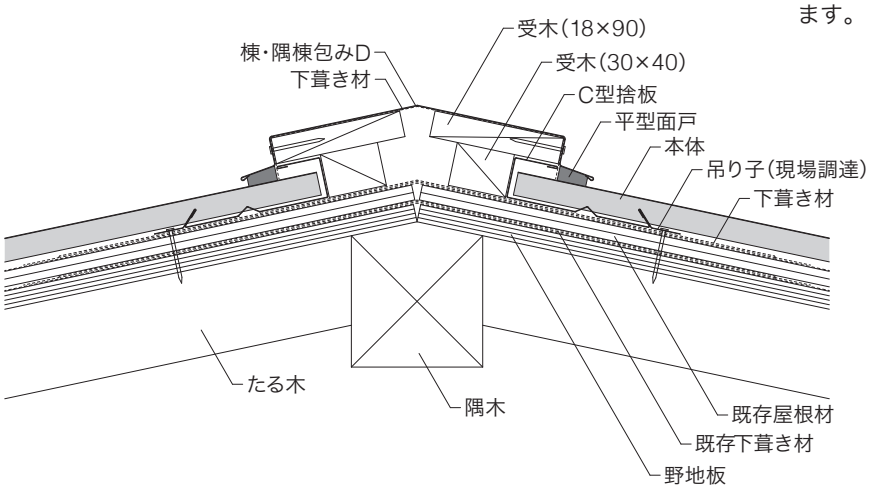


単位：㎜

D. 隅棟部　D-2. 棟・隅棟包みD＋C型捨板

納まり図

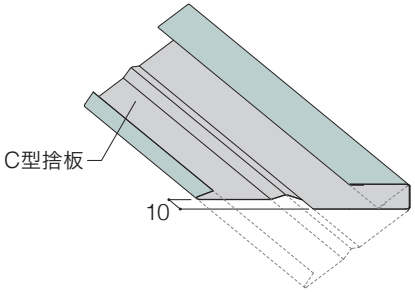
・C型捨板を施工することで、本体の立ち上げ加工を省くことができ、施工性と止水性が向上します。



施工手順　図は、改修用唐草Dを使用した場合ですが、他の唐草部材の場合も同様に施工してください。

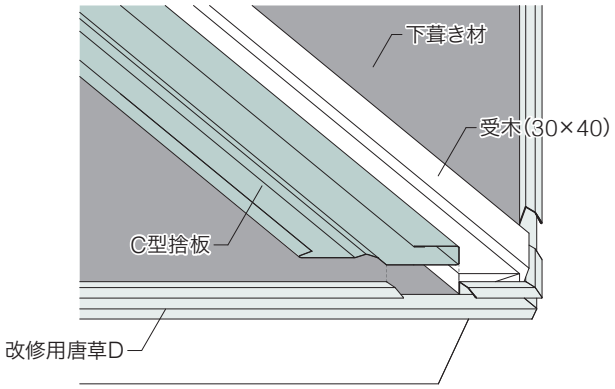
①C型捨板の加工

・勾配に合わせてC型捨板を切断し、右図のように10㎜程度切り欠いてください。



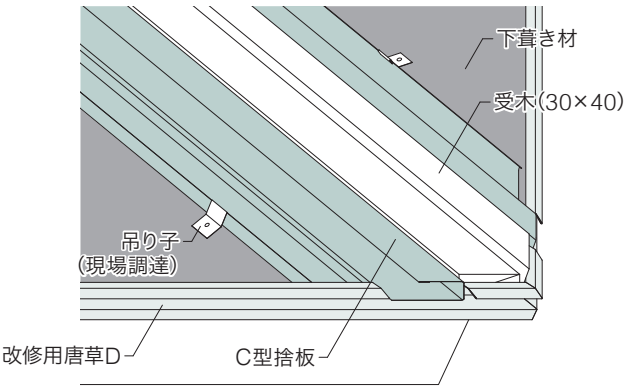
②改修用唐草Dを切り欠く

・C型捨板の切り欠き部分に合わせ、改修用唐草Dを切り欠いてください。



③C型捨板を取り付ける

・改修用唐草Dの切り欠いた部分にC型捨板を合わせ10㎜程度改修用唐草Dの上に出してください。
・C型捨板は、吊り子(現場調達)を使用し留め付けてください。

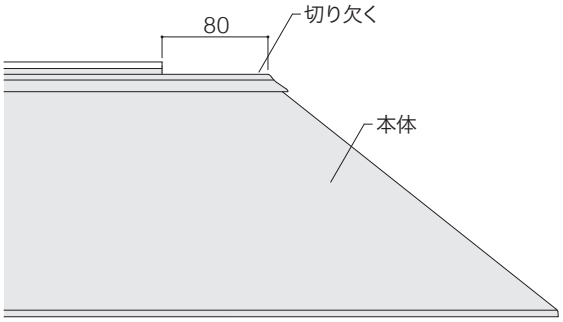


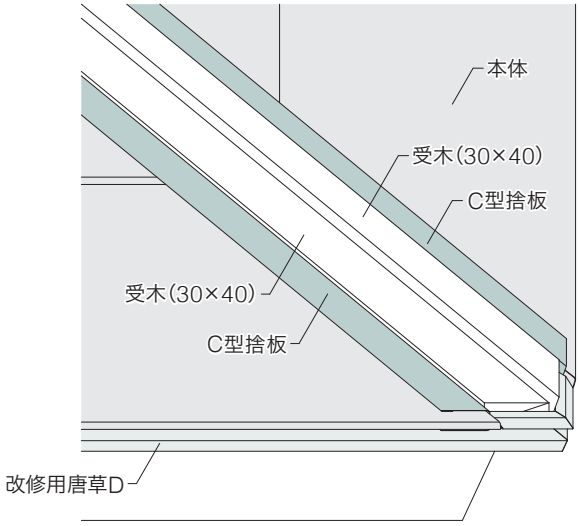
単位：㎜

D. 隅棟部　D-2. 棟・隅棟包みD＋C型捨板

④本体を加工して取り付ける

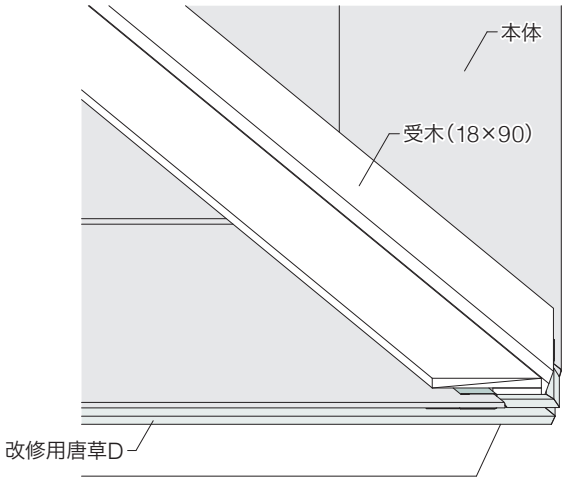
・本体は勾配に合わせて切断し、くぎ打ち部を80㎜程度切り欠いてください。
・本体は、C型捨板に差し込んで施工してください。





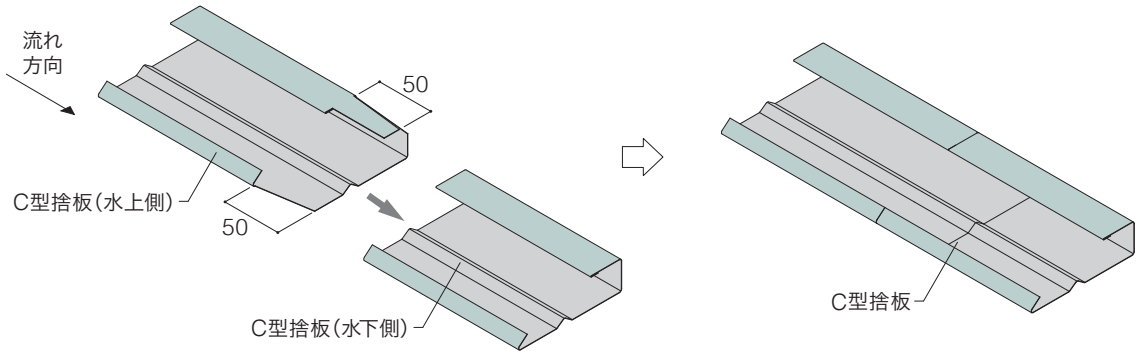
⑤受木を取り付ける

・本体を施工した後、受木(18×90)を軒先に合わせて施工してください。



▶▶　剣先を使用して納める場合：P45へ
剣先120を使用して納める場合：P46へ

C型捨板のつなぎ方



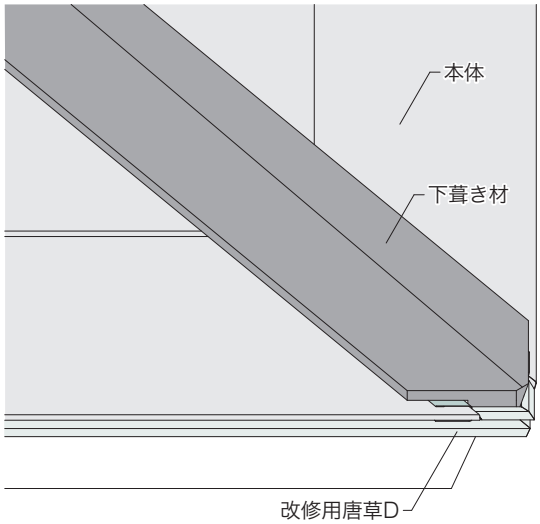
単位：㎜

D. 隅棟部　D-2. 棟・隅棟包みD＋C型捨板

●端部の納め方(1)　剣先で納める場合

2.5寸～4.5寸勾配に対応

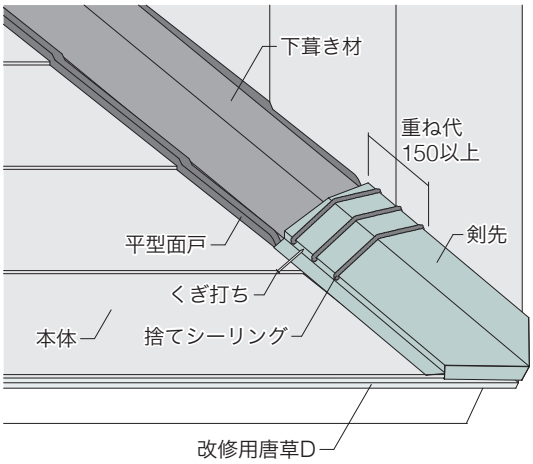
⑥受木に下葺き材を施工する

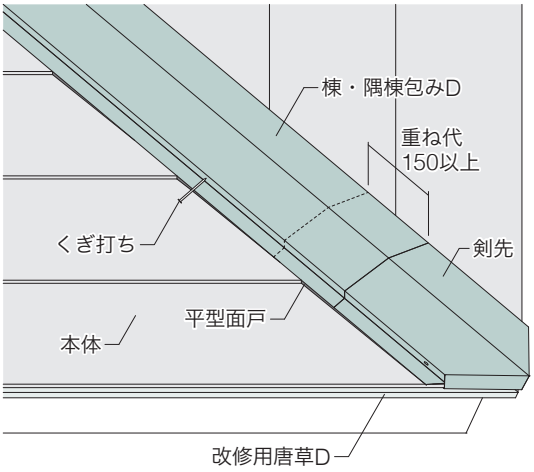


⑦平型面戸を本体に貼り付ける

⑧剣先と棟・隅棟包みDを取り付ける

・平型面戸が潰れるように押し付け、くぎ打ちしてください。
・剣先と棟・隅棟包みDの重ね代は150㎜以上とり、捨てシーリングを施工して重ねてください。





単位：㎜

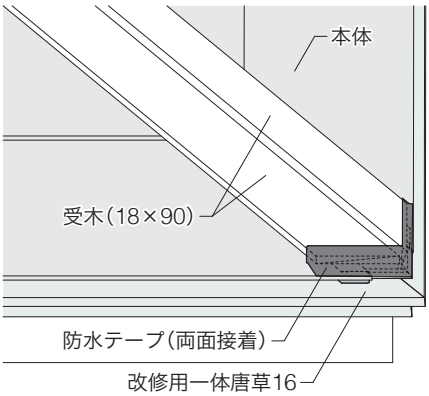
D. 隅棟部　D-2. 棟・隅棟包みD＋C型捨板

●端部の納め方(2)　剣先120で納める場合

図は、改修用一体唐草16を使用した場合ですが、他の唐草部材の場合も同様に施工してください。

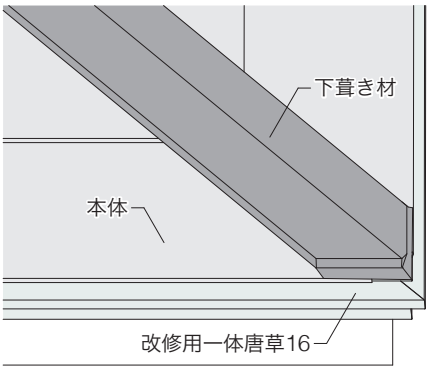
⑥防水テープを貼り付ける

・改修用一体唐草16と受木に防水テープ(両面)を施工してください。



⑦受木に下葺き材を施工する

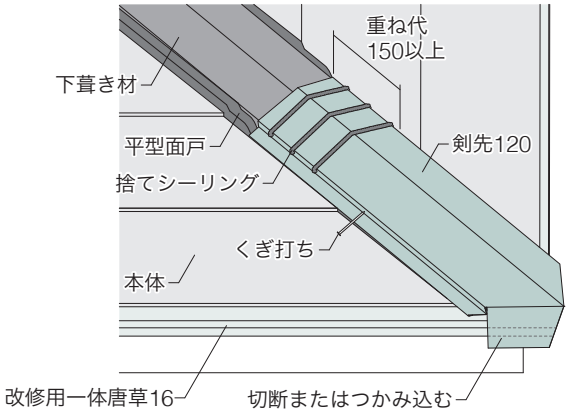
・改修用一体唐草16と受木に施工した防水テープ(両面接着)と下葺き材を密着させてください。

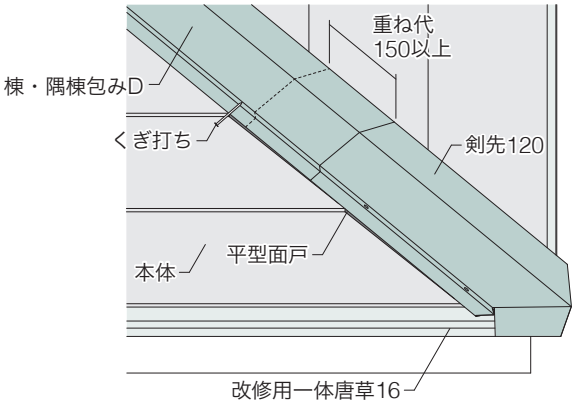


⑧平型面戸を本体に貼り付ける

⑨剣先120と棟・隅棟包みDを取り付ける

・平型面戸が潰れるように押し付け、くぎ打ちしてください。
・剣先120と棟・隅棟包みDの重ね代は150㎜以上とり、捨てシーリングを施工して重ねてください。
・剣先120の先端は、改修用一体唐草16のラインに合わせて切断またはつかみ込んでください。



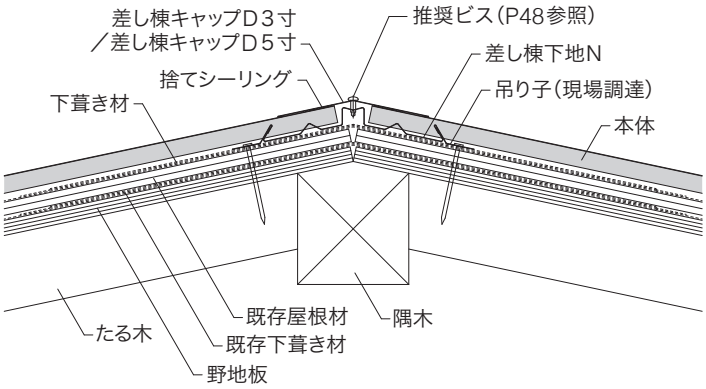


単位：㎜

D. 隅棟部　D-3. 差し棟キャップD3寸／差し棟キャップD5寸

納まり図

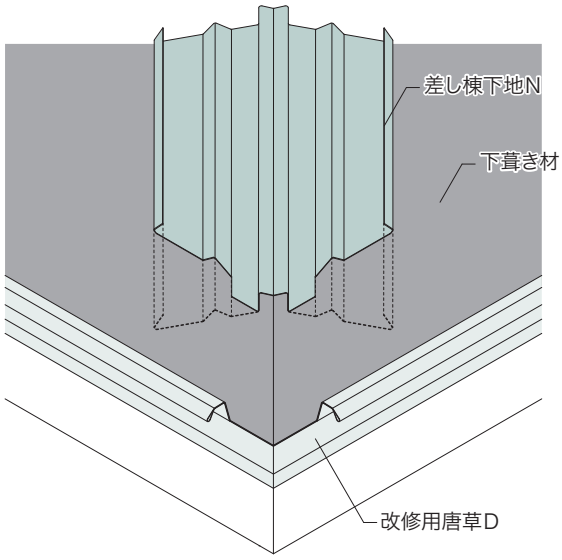
差し棟キャップD3寸:2.5寸～4.5寸勾配に対応
差し棟キャップD5寸:5寸～6寸勾配に対応



施工手順　図は、改修用唐草Dを使用した場合ですが、他の唐草部材の場合も同様に施工してください。

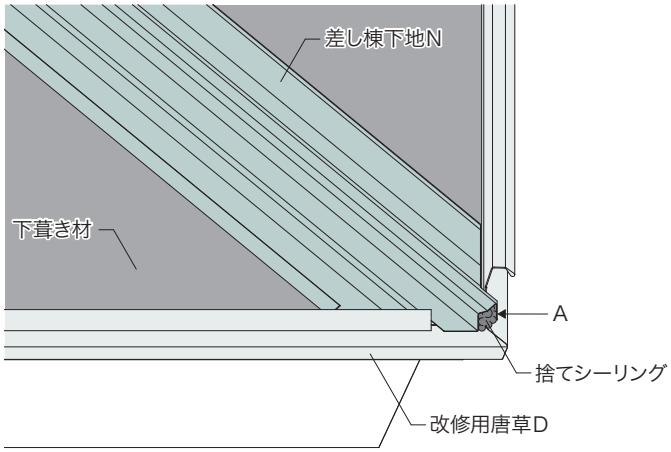
①改修用唐草Dと差し棟下地Nを加工して取り付ける

・右図のように、改修用唐草Dと差し棟下地Nを切り欠いてください。
・差し棟下地Nの切り欠きは、差し棟キャップからはみ出さないように現場で合わせて切り欠いてください。



②捨てシーリングを施工する

・吹き上げによる雨水の浸入を防止するため、Aの部分（右図参照）に捨てシーリングを施工してください。

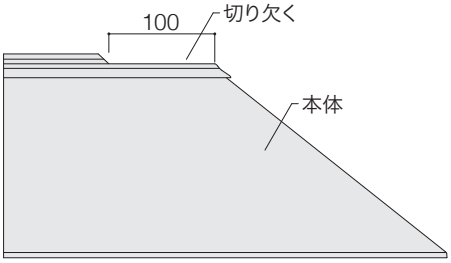


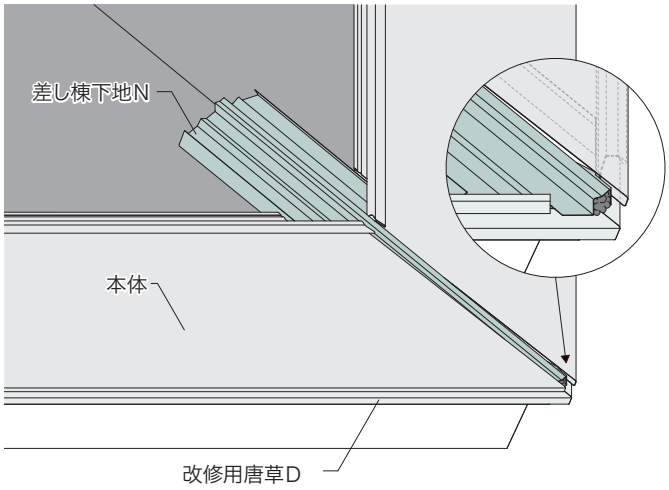
単位：㎜

D. 隅棟部　D-3. 差し棟キャップD3寸／差し棟キャップD5寸

③本体を加工し、取り付ける

・勾配に合わせて本体を切断し、くぎ打ち部を100mm程度切り欠いてください。

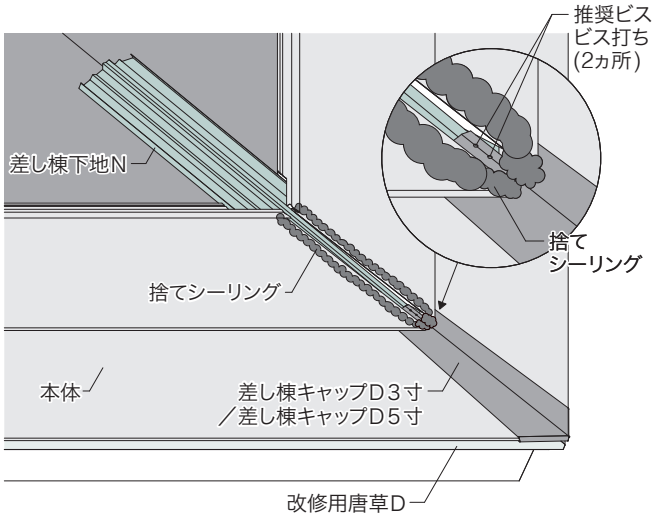




④差し棟キャップを取り付ける

・右図のように、捨てシーリングを施工してください。
・差し棟キャップは、本体の通りを合わせて取り付けてください。
・差し棟キャップを推奨ビスで差し棟下地Nに留め付けてください。ビス頭には、捨てシーリングを施工してください。

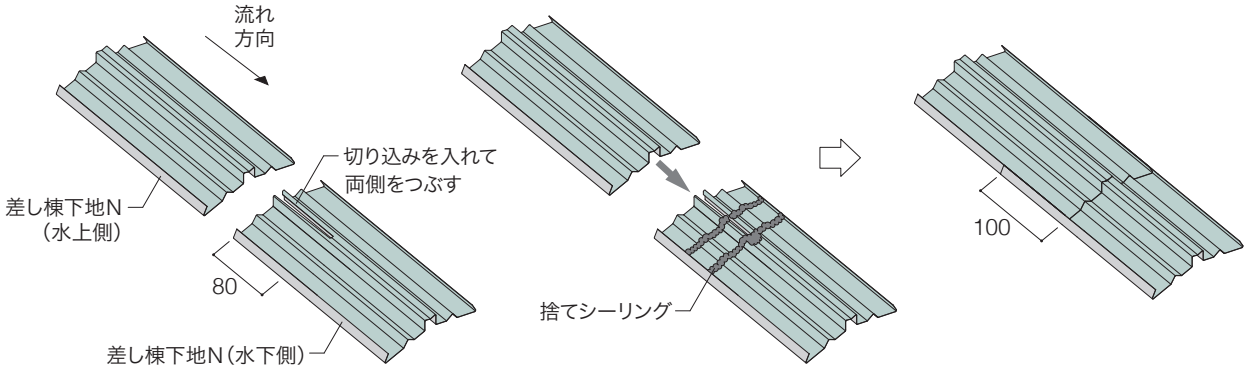
⚠ ビスの締めすぎ、空回りには十分に注意してください。



推奨ビス

メーカー	品名	頭タイプ	サイズ
日本パワーファスニング㈱	MBシートテクス　4.5ミリ	シンワッシャー	4.5×13
㈱ヤマヒロ	トルネードポイント	トラス(シンワッシャー)	4×12
	ジャックポイント(ミニジャック)	トラス(シンワッシャー)	4×13
若井産業㈱	ダンバゼロ	シンワッシャー	4×14

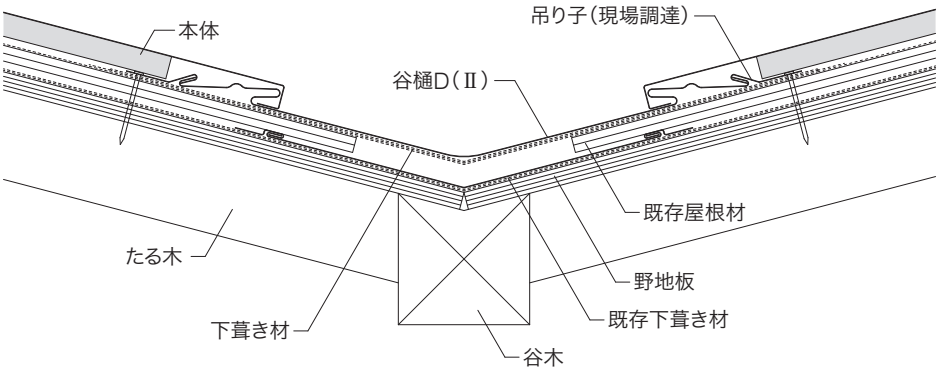
差し棟下地Nのつなぎ方



単位：㎜

E. 谷部　E-1. 谷樋D(Ⅱ)

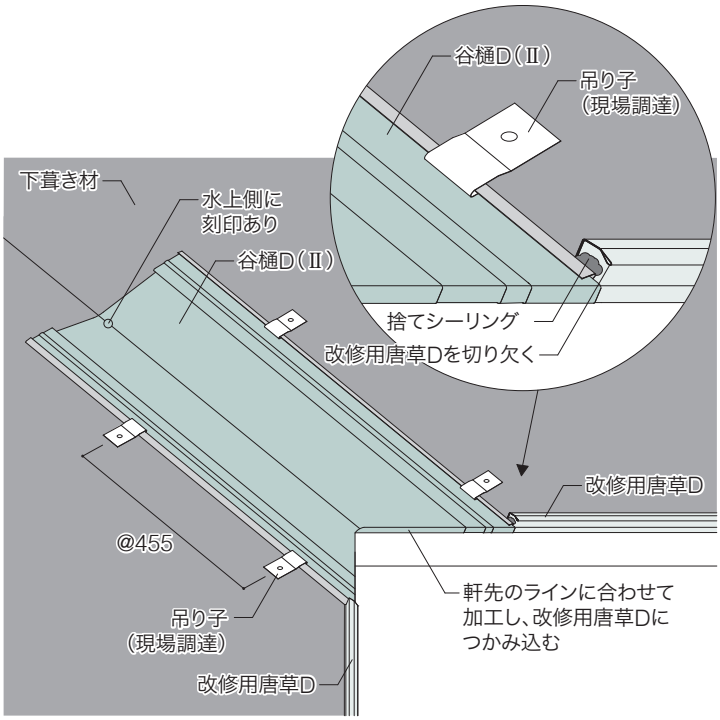
納まり図



施工手順　図は、改修用唐草Dを使用した場合ですが、他の唐草部材の場合も同様に施工してください。

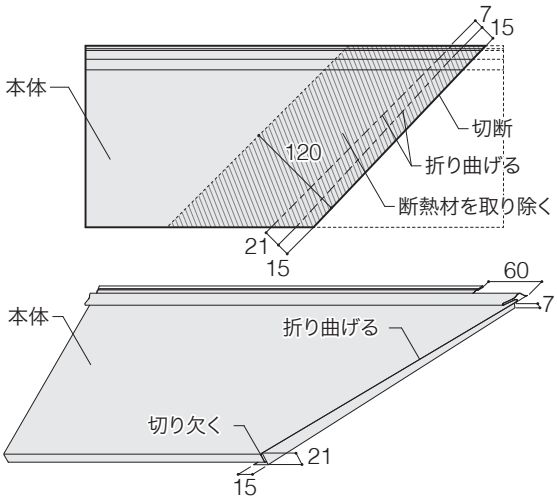
①部材の加工と取り付け

・改修用唐草Dは、谷樋D(Ⅱ)の幅に合わせて立ち上がり部分を切り欠いてください。
・谷樋D(Ⅱ)は、軒先のラインに合わせて加工し、唐草部材に沿うようにつかみ込んでください。
・谷樋D(Ⅱ)は、吊り子を使用し、455㎜の間隔で固定してください。
・改修用唐草Dと谷樋D(Ⅱ)の取り合いには、本体を施工する前に捨てシーリングを施工してください。



②本体を加工する

・勾配に合わせて本体を切断してください。
・断熱材は、切断部から120㎜程度取り除いてください。
・くぎ打ち部を60㎜程度切断してください。かん合部を切り欠き、折り曲げてください。

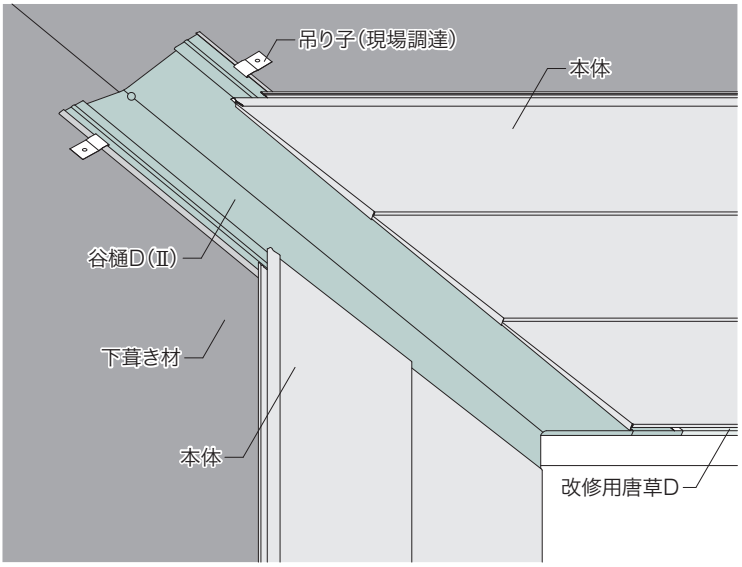


単位：㎜

E. 谷部　E-1. 谷樋D(Ⅱ)

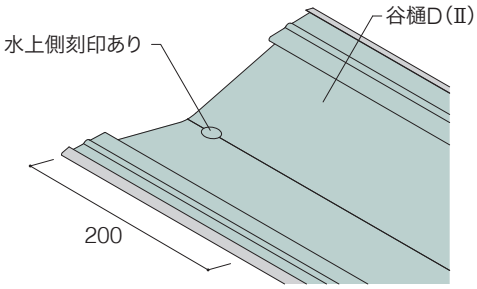
③本体を取り付ける

・本体は、谷樋D(Ⅱ)のハゼに引っかけて施工してください。

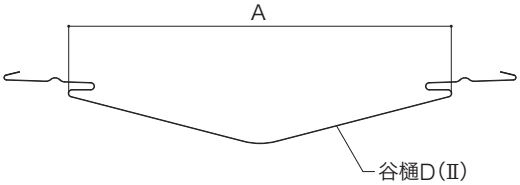


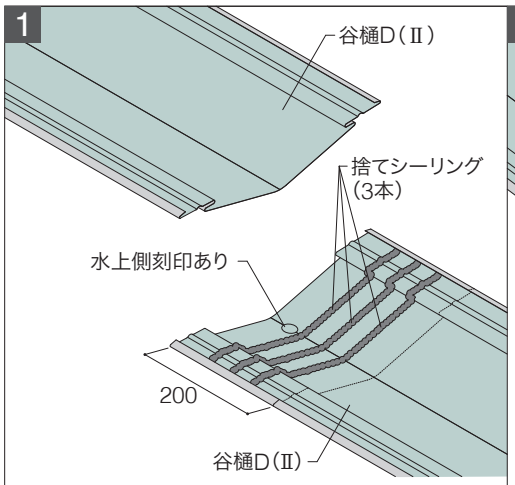
谷樋D(Ⅱ)同士のつなぎ方

・谷樋D(Ⅱ)は、刻印がある方を水上側にして施工してください。

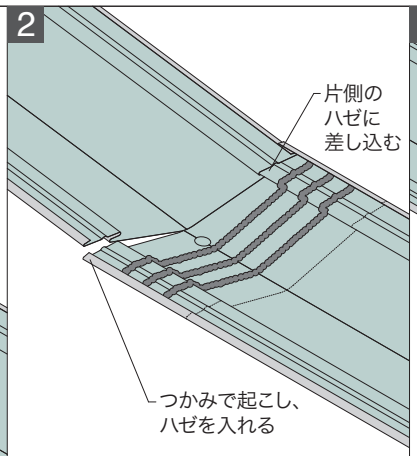


・谷樋D(Ⅱ)同士をつなぐ際は、必ず刻印がある箇所を下にしてつないでください。刻印がある方は、Aの部分が広がっており、つなぎやすくなっています。

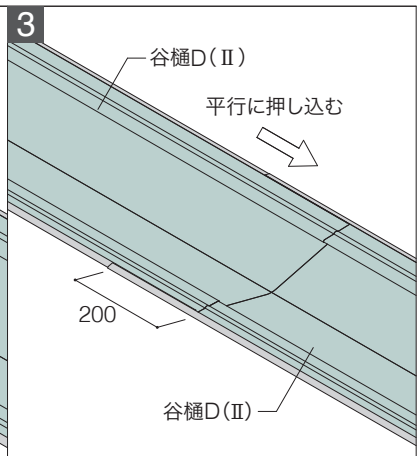




谷樋D(Ⅱ)は、刻印がある方に、φ8㎜程度(鉛筆の太さ程度)の捨てシーリングを3本施工してください。



片側のハゼを入れてから、もう片方のハゼを入れます。

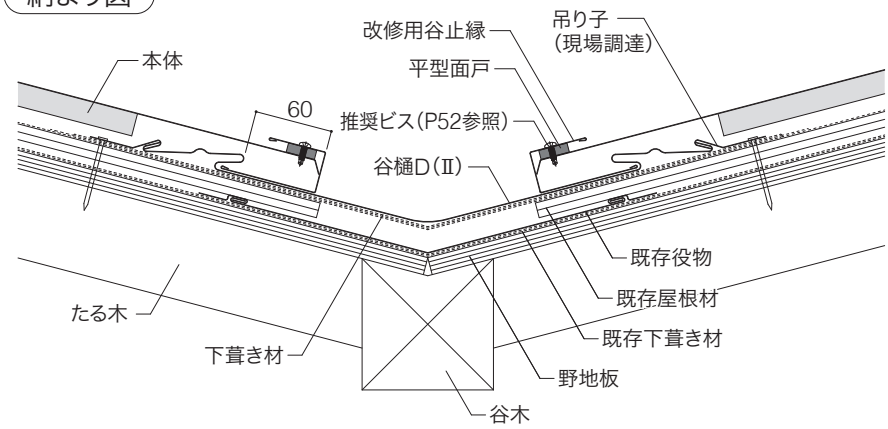


はみ出した捨てシーリングは、除去してください。

単位：㎜

E. 谷部　E-2. 谷樋D(Ⅱ)＋改修用谷止縁

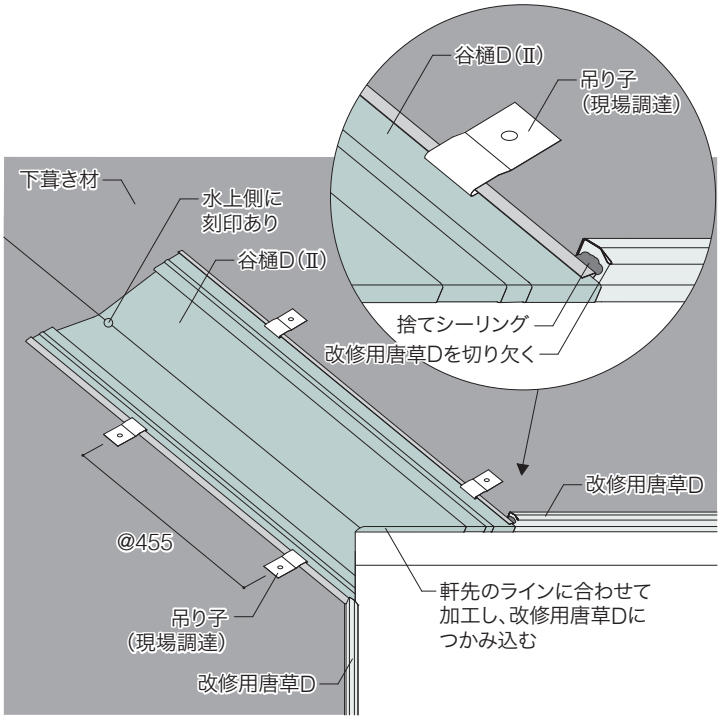
納まり図



施工手順　図は、改修用唐草Dを使用した場合ですが、他の唐草部材の場合も同様に施工してください。

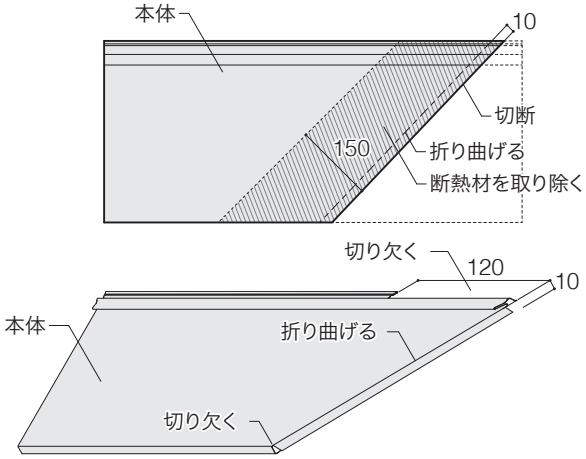
①先付け部材の加工と取り付け

・谷樋D(Ⅱ)の幅に合わせて、改修用唐草Dを加工し、谷樋D(Ⅱ)を改修用唐草Dにつかみ込んでください。
・谷樋D(Ⅱ)は、吊り子を使用し、455㎜の間隔で固定してください。
・改修用唐草Dと谷樋D(Ⅱ)の取り合いには、本体を施工する前に捨てシーリングを施工してください。
・谷樋D(Ⅱ)同士のつなぎ方はP50を参照してください。



②本体を加工する

・勾配に合わせて本体を切断してください。
・断熱材は、切断部から150㎜程度取り除いてください。
・くぎ打ち部を120㎜程度切断してください。本体のハゼとかん合部を、10㎜程度切り欠き、折り曲げてください。

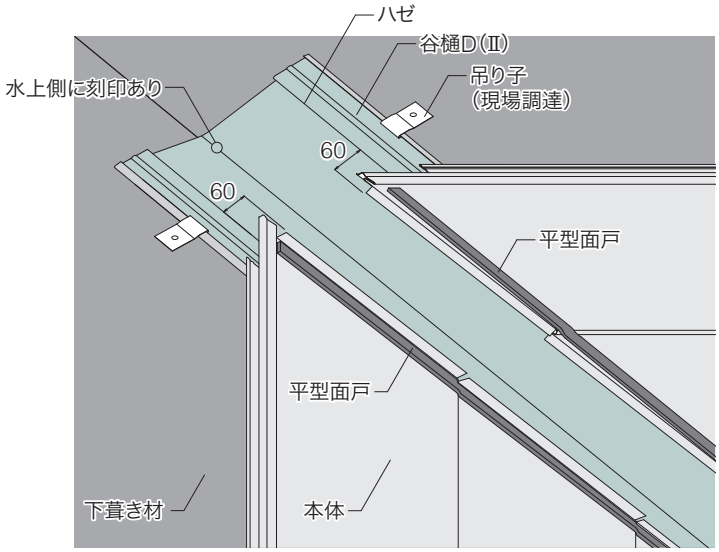


単位：㎜

E. 谷部　E-2. 谷樋D(Ⅱ)＋改修用谷止縁

③本体を取り付ける

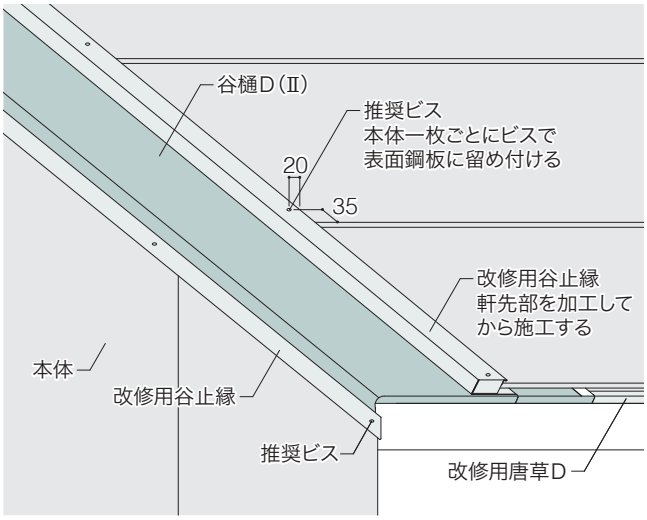
・谷樋D(Ⅱ)のハゼから60㎜の位置に本体の端部を合わせて施工してください。
・本体の端部には、平型面戸を施工してください。



④改修用谷止縁を取り付ける

・改修用谷止縁の軒先部は、あらかじめ本体に合わせて加工してください。
・改修用谷止縁は、本体に差し込み、本体一枚ごとに、推奨ビスで表面鋼板に留め付けてください。留め付ける位置は、図を参照し位置を守って留め付けてください。
・ビス頭には、シーリング材を施工してください。

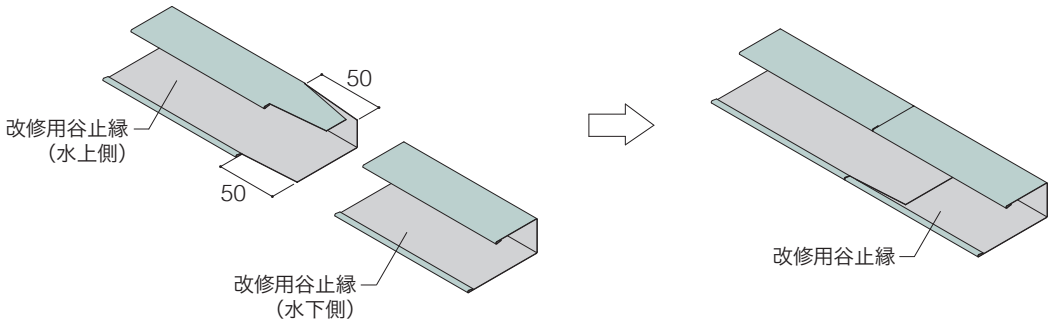
⚠ ビスの締めすぎ、空回りには十分に注意してください。



推奨ビス

メーカー	品名	頭タイプ	サイズ
日本パワーファスニング㈱	MBシートテクス　4.5ミリ	シンワッシャー	4.5×13
㈱ヤマヒロ	トルネードポイント	トラス(シンワッシャー)	4×12
	ジャックポイント(ミニジャック)	トラス(シンワッシャー)	4×13
若井産業㈱	ダンバゼロ	シンワッシャー	4×14

改修用谷止縁のつなぎ方

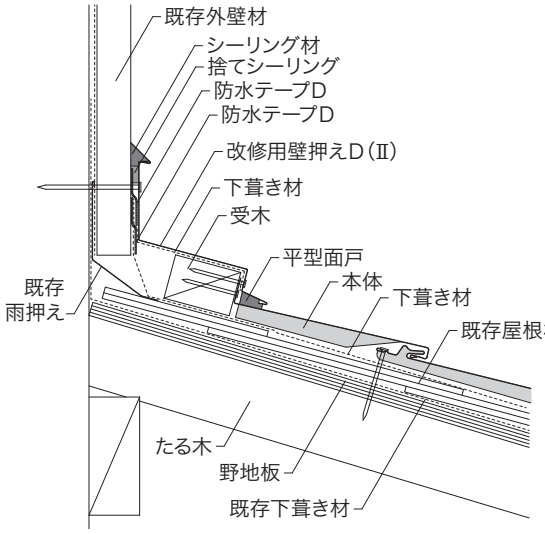


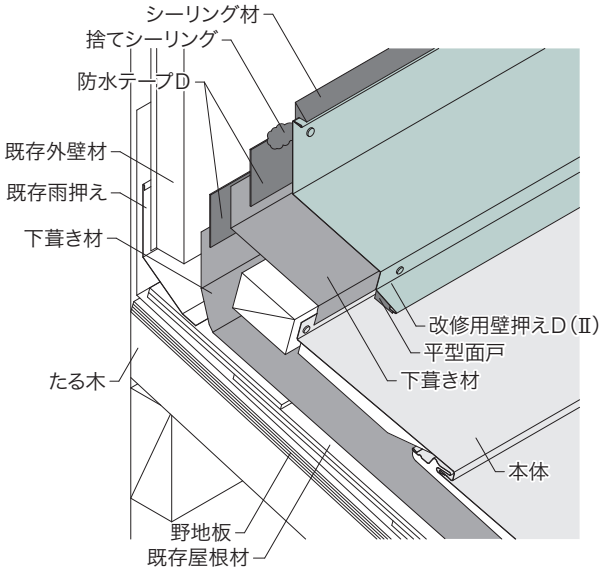
瑕疵担保保険申請時のご注意
P80を参照してください

単位：㎜

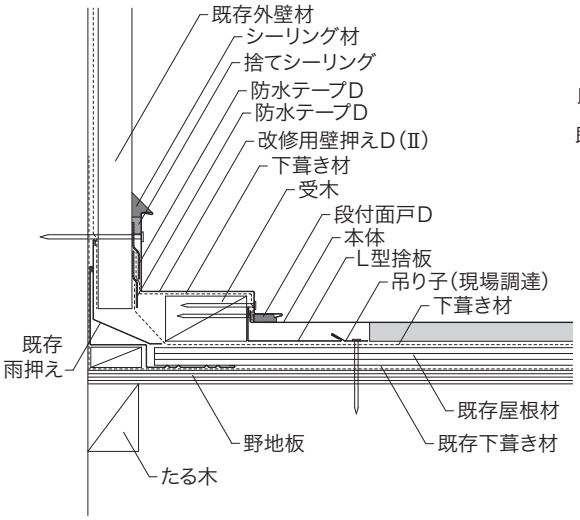
F．壁との取り合い部　F-1.改修用壁押えD(Ⅱ)　●L型捨板を使用して納める場合

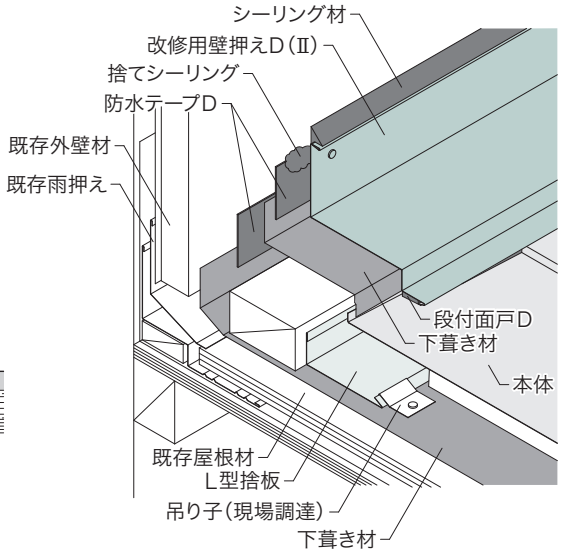
〈流れと垂直な壁との納まり〉



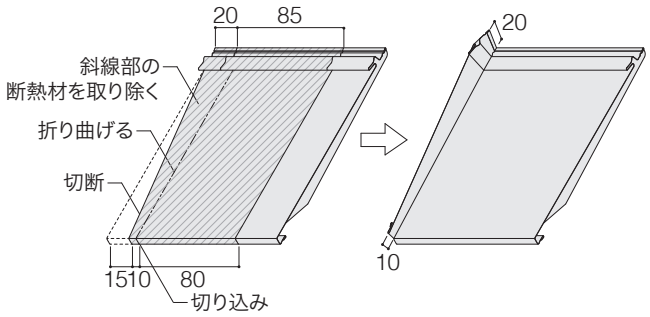


〈流れと平行な壁との納まり〉





・L型捨板は吊り子を使用して留め付けてください。
・本体の端部は、断熱材を取り除き立ち上げてください。
・切り込みを入れたかん合部は、本体を施工後にシーリング材で防水処理をしてください。
・平型面戸、段付面戸Dは、改修用壁押えD(Ⅱ)と本体の間に入れてください。
・受木の高さは36～45㎜とし、幅は60 ～ 80㎜を選定してください。幅30 ～ 40㎜の受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。

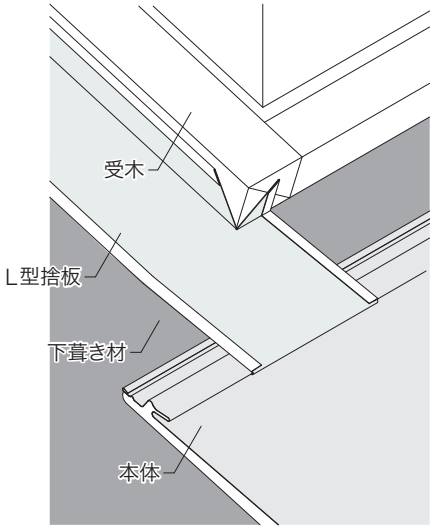


単位：㎜

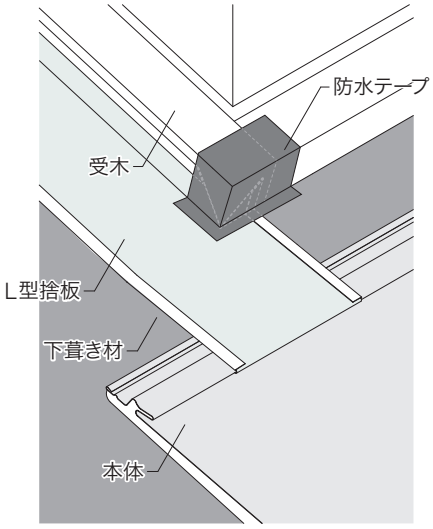
F．壁との取り合い部　F-1.改修用壁押えD(Ⅱ)　●L型捨板を使用して納める場合

〈コーナー部分の壁との納まり〉

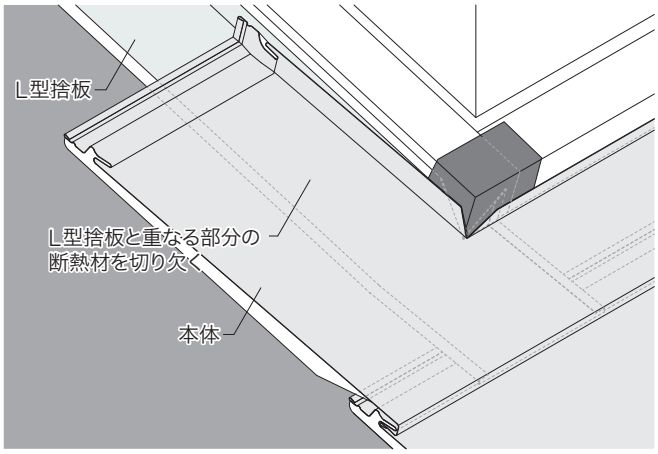
1 ・L型捨板を下の段の本体に引っ掛けるように取り付けてください。



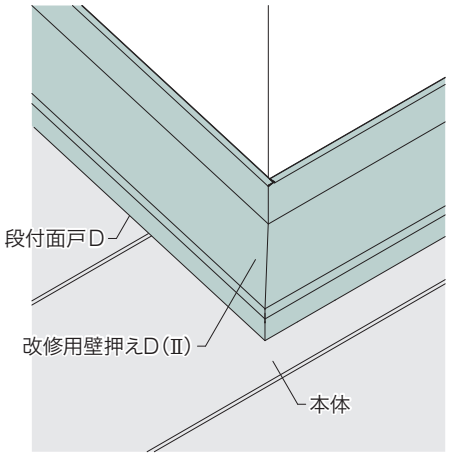
2 ・コーナー部には、防水テープを施工してください。

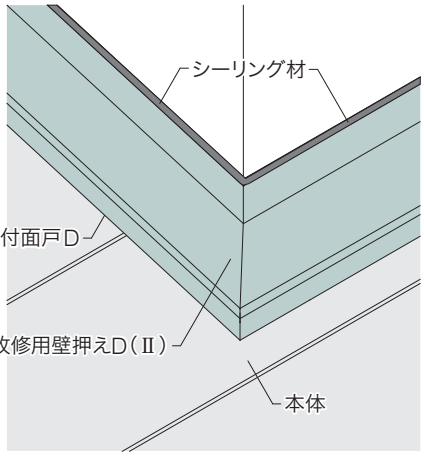


3 ・コーナー部の位置に合わせて本体を切り欠き、L型捨板の幅に合わせて断熱材を取り除いてください。
・本体の端部を立ち上げて施工してください。



4 ・既存壁と改修用壁押えD(Ⅱ)の間にはシーリング材を施工してください。



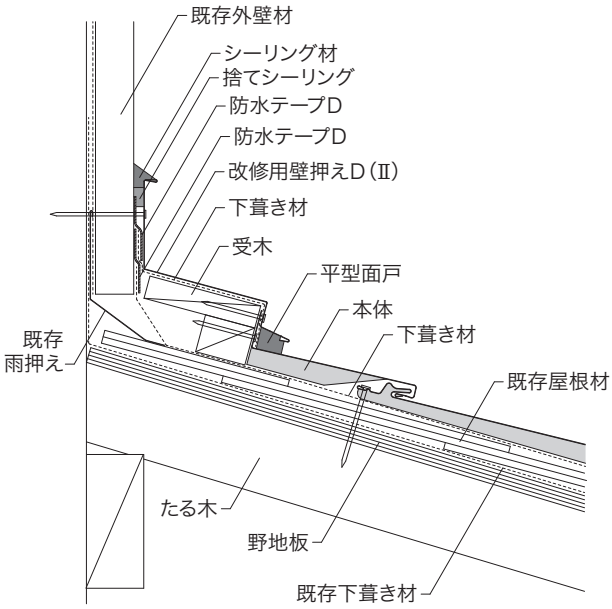


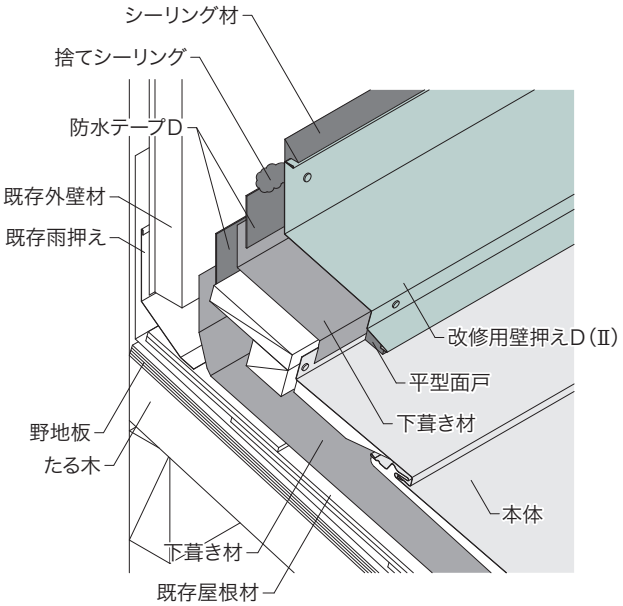
瑕疵担保保険申請時のご注意
P80を参照してください

単位：㎜

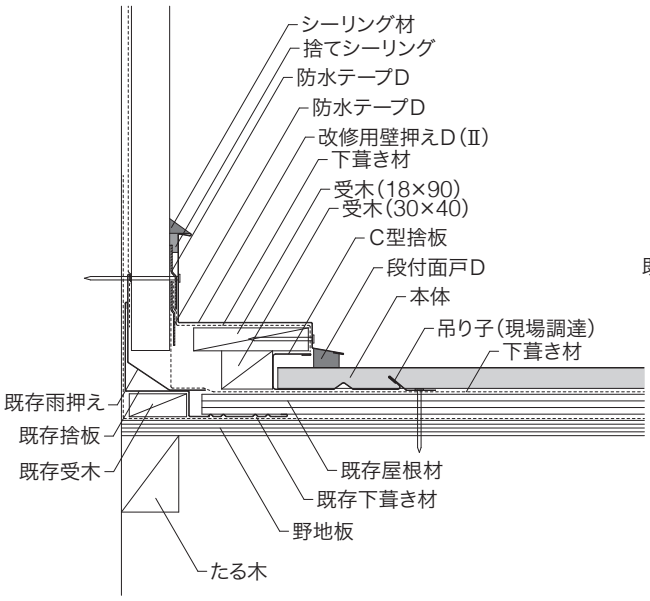
F．壁との取り合い部　F-1.改修用壁押えD(Ⅱ)　●C型捨板を使用して納める場合

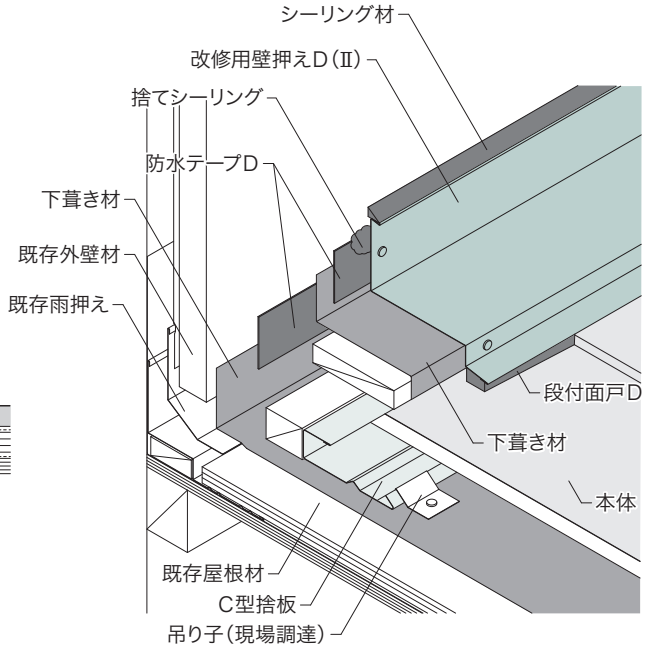
〈流れと垂直な壁との納まり〉



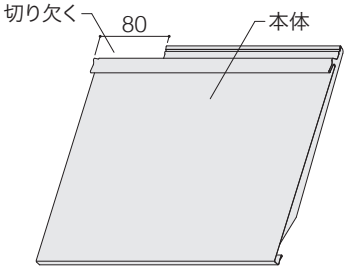


〈流れと平行な壁との納まり〉





・既存雨押えの不要な部分を切断し、既存雨押えの受木を取り外してください。
・C型捨板は吊り子を使用して留め付けてください。
・流れと垂直な壁との取り合いがある場合は、受木のサイズを合わせてください。
・本体の端部のくぎ打ち部は、80㎜程度切断してください。
・C型捨板は、壁押えD(Ⅱ)との組み合わせでも施工いただけます。



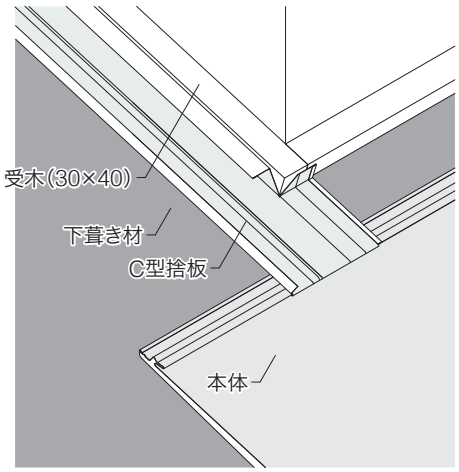
単位：㎜

F．壁との取り合い部　F-1.改修用壁押えD(Ⅱ)　●C型捨板を使用して納める場合

〈コーナー部分の壁との納まり〉

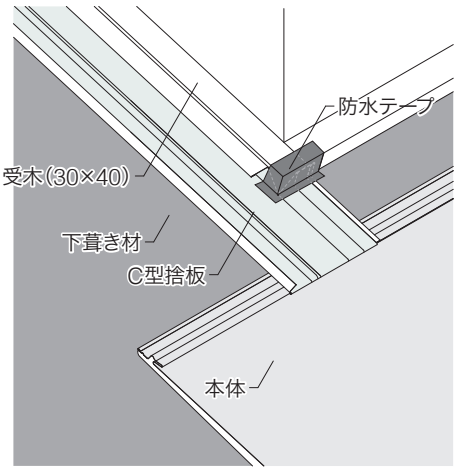
1

・C型捨板を下の段の本体に引っ掛けるように取り付けてください。



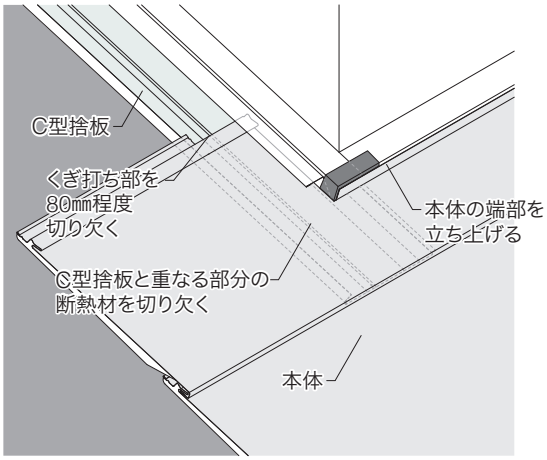
2

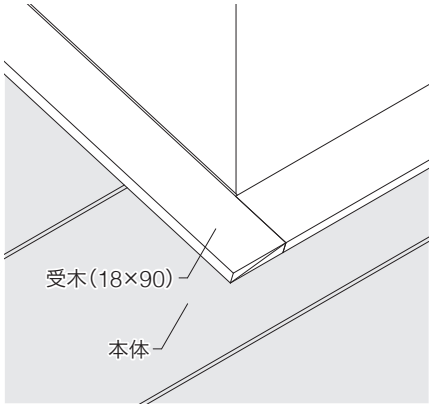
・コーナー部には、防水テープを施工してください。



3

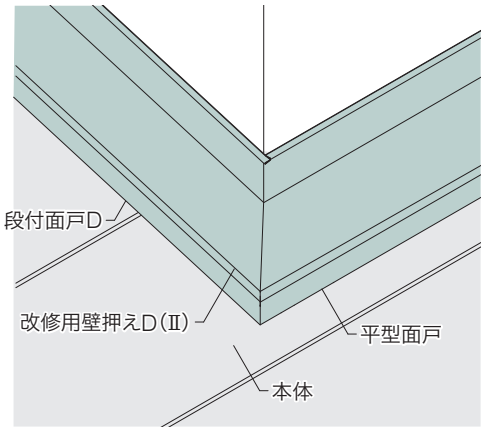
・コーナー部の位置に合わせて本体を切り欠き、C型捨板の幅に合わせて断熱材を取り除いてください。

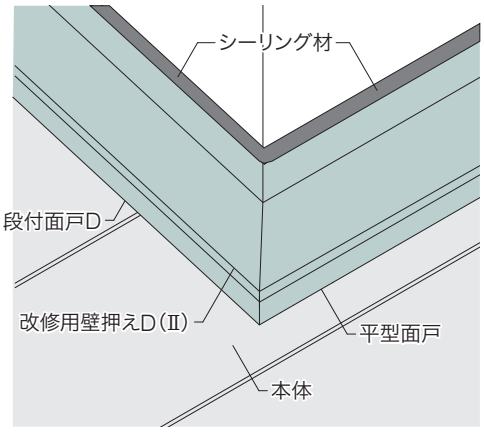




4

・既存壁と改修用壁押えD(Ⅱ)の間にはシーリング材を施工してください。



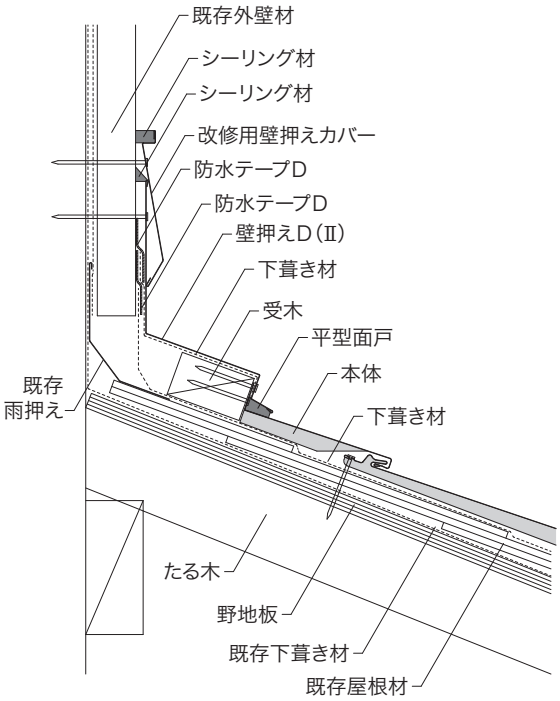


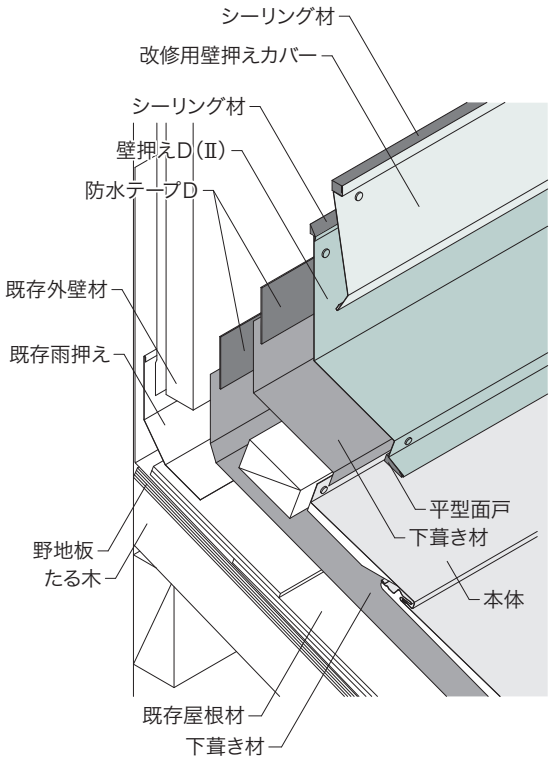
瑕疵担保保険申請時のご注意
P80を参照してください

単位：㎜

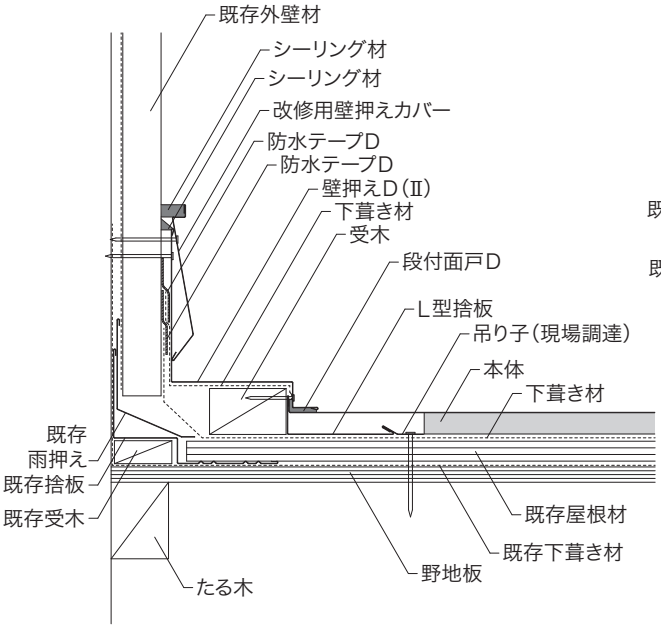
F．壁との取り合い部　F-2.改修用壁押えカバーを使用する場合

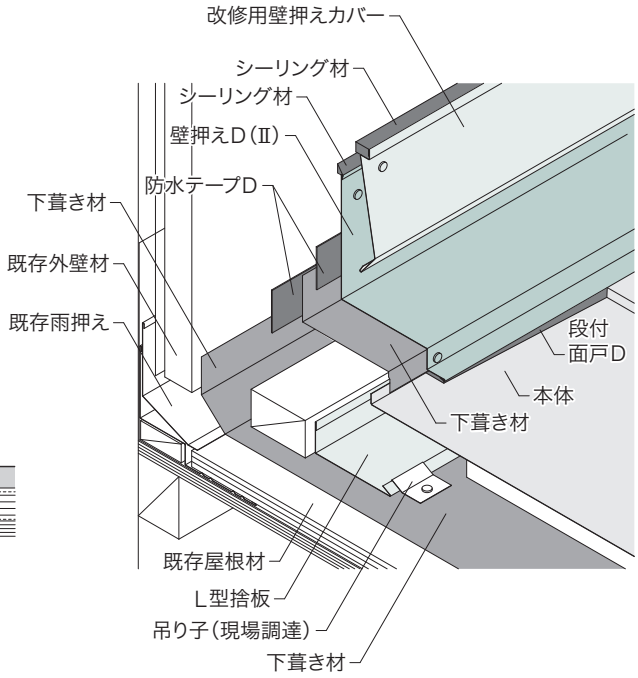
〈流れと垂直な壁との納まり〉





〈流れと平行な壁との納まり〉





・既存雨押えの不要な部分を切断し、既存雨押えの受木を取り外してください。
・受木は、高さ36～45㎜、幅60～80㎜を選定してください。幅30～40㎜の受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。
・本体を受木に合わせて立ち上げ、不要な部分は切り取ってください。
・壁押えD(Ⅱ)を既存外壁に留め付け、シーリング材を施工した後、改修用壁押えカバーを施工してください。
・平型面戸は半分以上圧縮して施工してください。

単位：㎜

G．換気棟の納まり

●換気棟の納まりについて

適用勾配

換気棟／換気棟Lは、屋根勾配2.5寸～ 10寸に施工できます。
片流れ用換気棟は、屋根勾配2.5寸～ 6寸に施工できます。

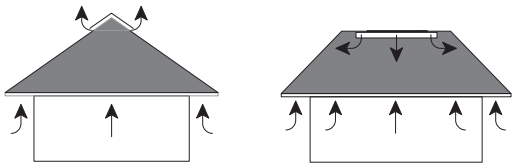
有効開口面積

	有効開口面積（m²/セット）	適応天井面積（m²/セット）
換気棟	0.017	27.2
換気棟L	0.028	44.8
片流れ用換気棟	0.016	25.6

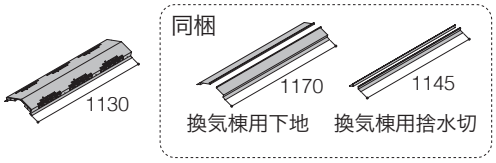
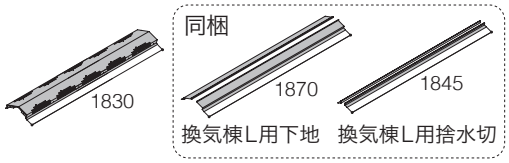
各換気棟の設置基準について

住宅金融支援機構　木造住宅工事仕様書に記載の基準に基づく小屋裏換気を行ってください。
軒裏吸気、棟排気に該当します。施工本数は、施工する部材の有効換気面積および適応天井面積に応じて必要長さを算出してください。

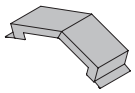
軒裏吸気孔：1／900以上
棟排気孔　：1／1,600以上



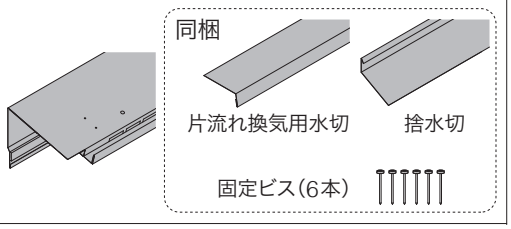
商品図

商品名	商品図
換気棟	
換気棟L	

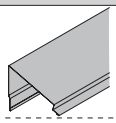
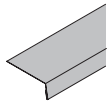
換気棟／換気棟L　併用商品

商品名	商品図
換気棟用エンドキャップ（別売）	

・換気棟と換気棟Lの1セットには、換気棟本体の他に下地（2本）、捨水切（2本）が同梱されています。
　換気棟または換気棟Lと棟・隅棟包みDとつなぐ場合には、換気棟用エンドキャップを併用してください。

商品名	商品図
片流れ用換気棟	

片流れ用換気棟 併用商品

商品名	商品図
片流れ用棟包み（別売）	
片流れ換気用水切（別売）	

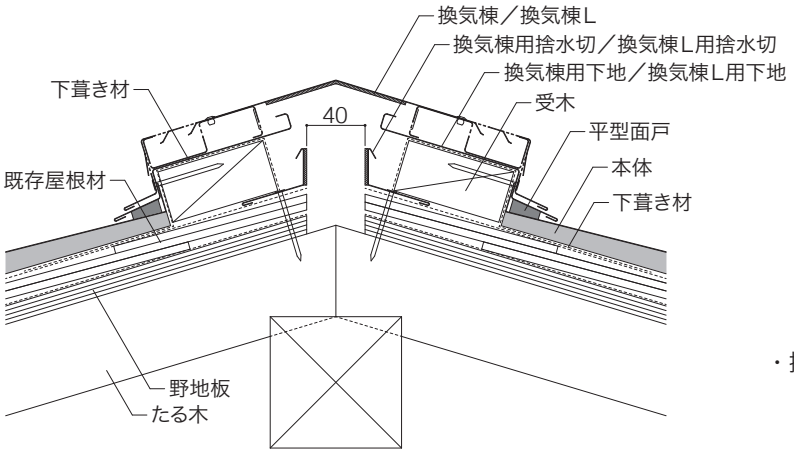
・片流れ用換気棟1セットには、片流れ用換気棟本体のほかに、片流れ換気用水切(1本)、捨水切（1本）、固定ビス（6本）が同梱されています。
・片流れ用換気棟と片流れ用棟包みをつなぐ場合、片流れ換気棟用水切を施工してください。

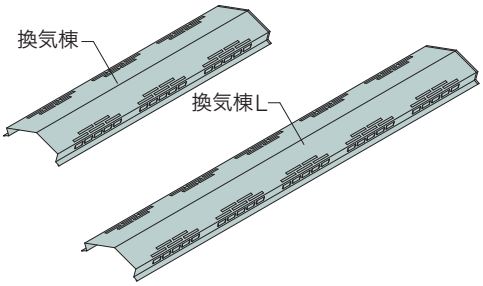
単位：㎜

G. 換気棟の納まり　G-1. 換気棟／換気棟L

納まり図

2.5寸～ 10寸勾配に対応





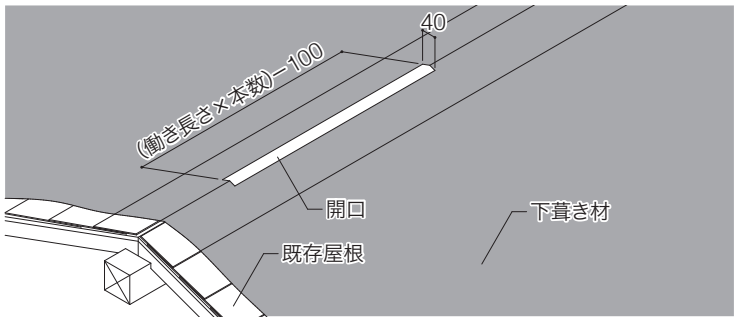
・換気棟と換気棟Lの1セットには、換気棟本体の他に下地（2本）、捨水切（2本）が同梱されています。

施工手順　図は換気棟です。換気棟Lの場合も同様に施工してください。

①開口をあける

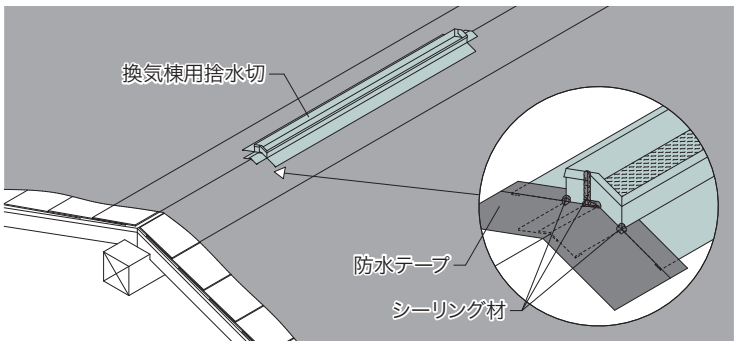
・棟部に右図の寸法で開口を設けてください。

	換気棟	換気棟L
働き長さ（㎜）	1,050	1,750
商品長さ（㎜）	1,130	1,830
対応勾配（寸）	2.5～10	



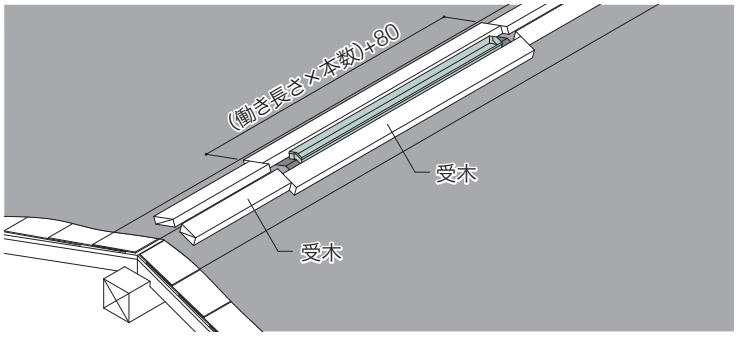
②換気棟用捨水切を施工する

・開口に合わせて換気棟用捨水切を取り付けてください。
・換気棟用捨水切の加工部は、シーリング材で防水処理をしてください。
・換気棟用捨水切と下葺き材とのすき間は、防水テープDで防水処理をしてください。



③受木を取り付ける

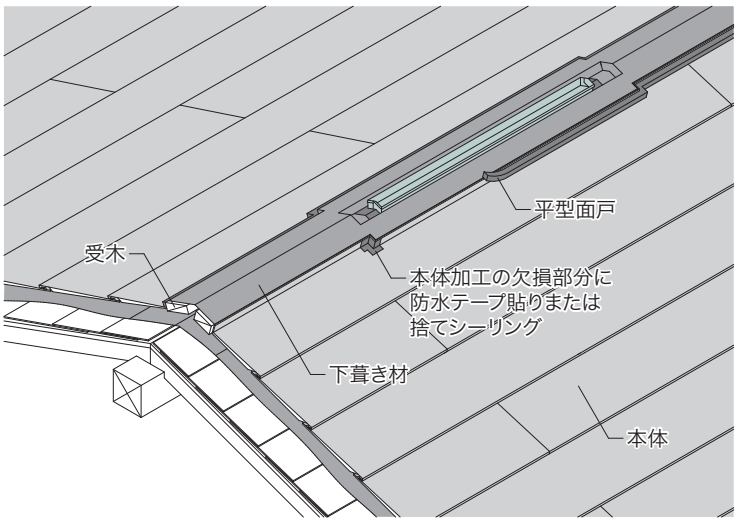
・棟・隅棟包みDと換気棟の取り付け位置に合わせて、受木を取り付けてください。
・受木は、高さ36 ～ 45㎜、幅60 ～ 80㎜を選定してください。幅30～40㎜の受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。
・換気棟を取り付ける受木の長さは、右図の寸法で取り付けてください。



G. 換気棟の納まり　G-1. 換気棟／換気棟L

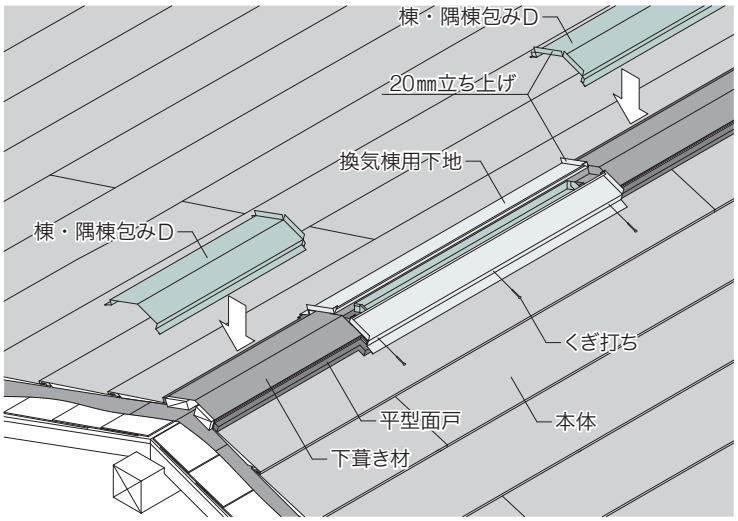
④下葺き材、本体、平型面戸を施工する

・受木の上に下葺き材を施工してください。
・受木まで本体を張り上げ、平型面戸を貼り付けてください。
・棟・隅棟包みDと換気棟の取り合い部の本体は、受木位置に合わせて本体を切り欠き、表面鋼板を立ち上げてください。欠損部分は、防水テープやシーリングで防水処理を施してください。



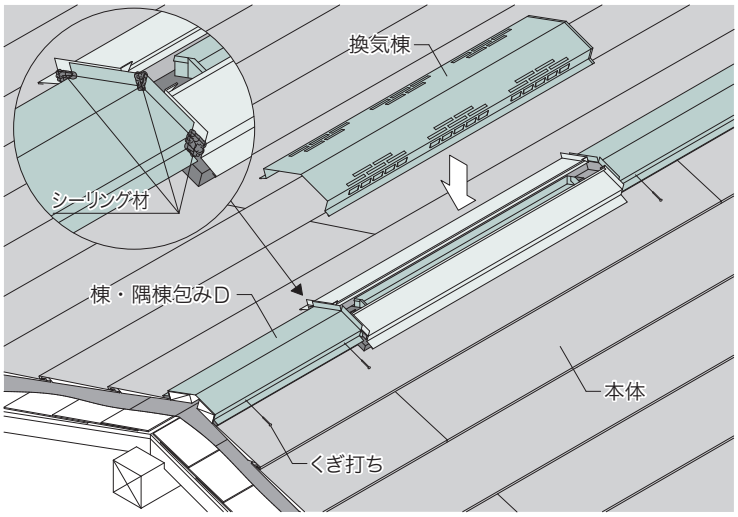
⑤換気棟用下地と棟・隅棟包みDを取り付ける

・換気棟用下地と棟・隅棟包みDを20㎜立ち上げ加工し取り付け、くぎ打ちしてください。図は、換気棟で掲載しています。
・平型面戸は半分以上圧縮して施工してください。



⑥換気棟を取り付ける

・換気棟用下地に換気棟をかぶせて取り付けてください。

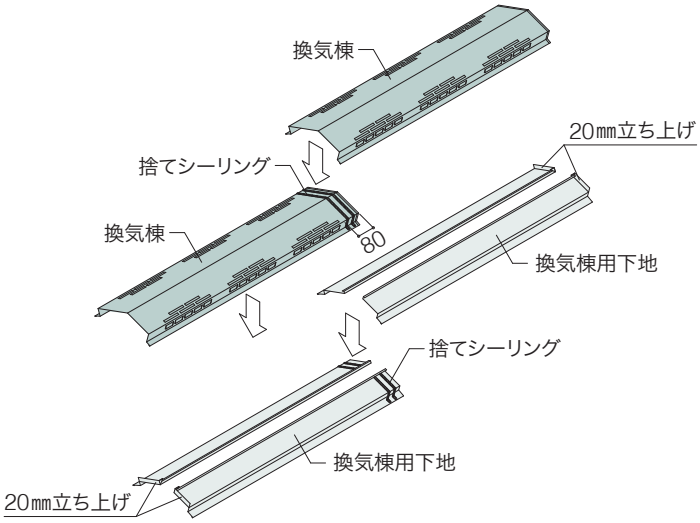


単位：㎜

G. 換気棟の納まり　G-1. 換気棟／換気棟L

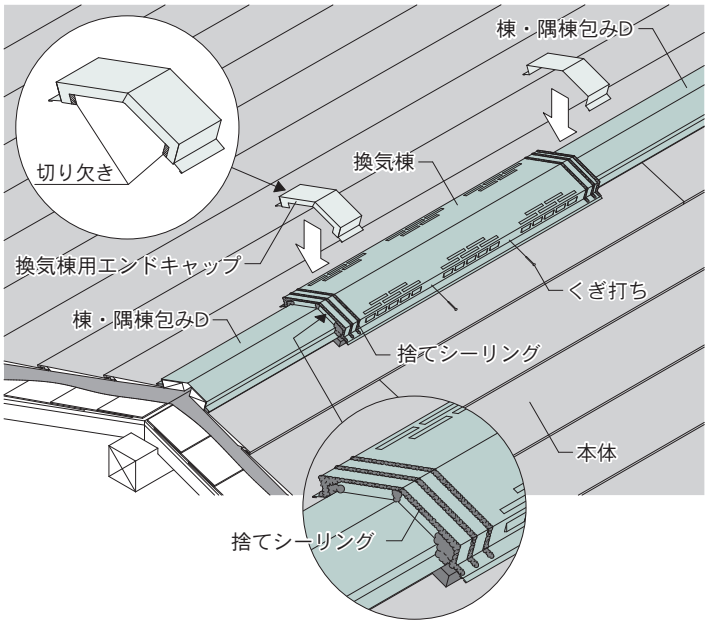
⑦連続施工時の加工方法

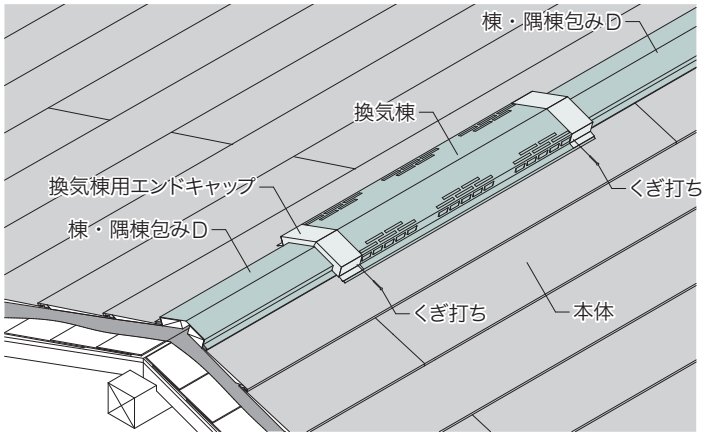
・換気棟を2本以上つなぐ場合は、右図のように捨てシーリングを施工して重ねてください。



⑧換気棟用エンドキャップを取り付ける

・勾配に合わせて右図の部分を切り欠いてください。
・換気棟用エンドキャップと重なる部分には、捨てシーリングを施工してください。



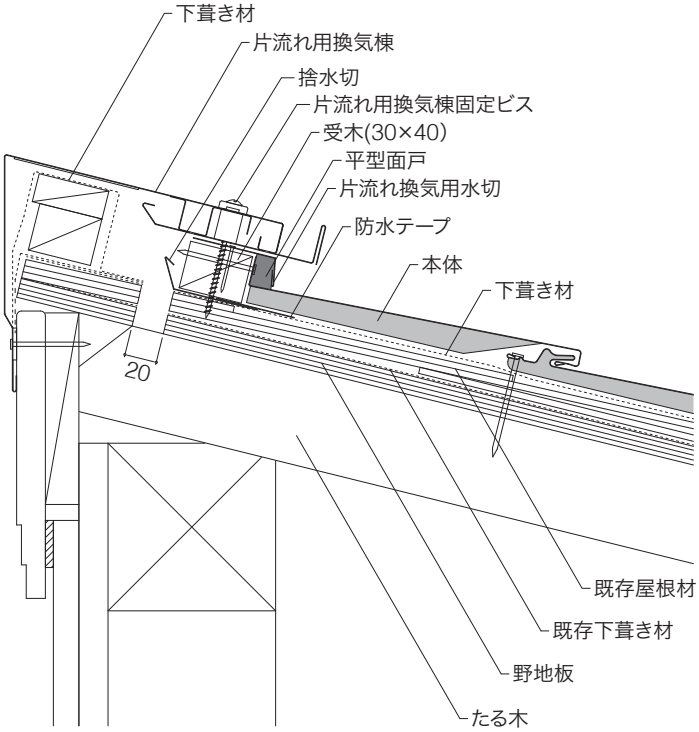


単位：㎜

G. 換気棟の納まり　G-2. 片流れ用換気棟

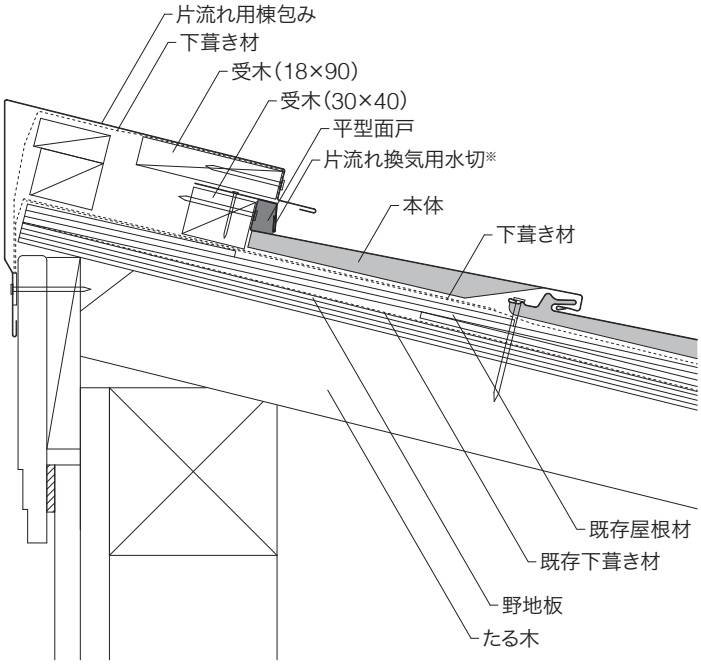
納まり図

2.5寸～6寸勾配に対応



・片流れ用換気棟1セットには、片流れ用換気棟本体のほかに、片流れ換気用水切（1本）、捨水切（1本）、固定ビス（6本）が同梱されています。

〈片流れ用棟包み〉片流れ換気棟とつなぐ場合



・片流れ用棟包みは、片流れ用換気棟とつなぐため、片流れ換気用水切と併用して施工してください。
※　片流れ用棟包みには、片流れ換気用水切が同梱されておりませんので注意してください。

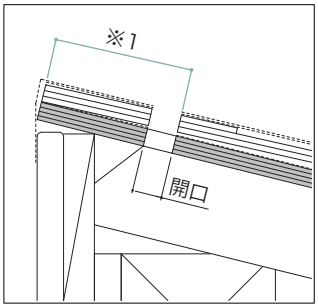
単位：㎜

G. 換気棟の納まり　G-2. 片流れ用換気棟

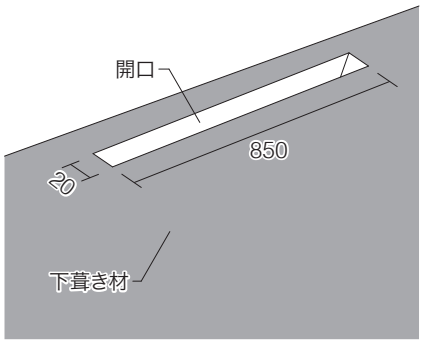
施工手順

①開口をあける

・開口位置を決めます（下図・表参照）。



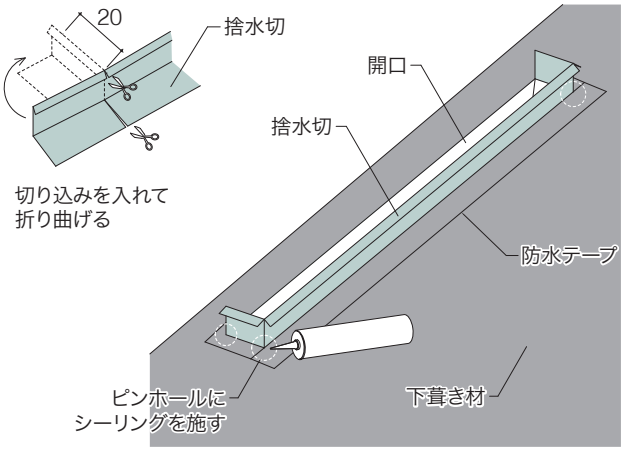
〈※1〉の勾配による寸法対応表			
2.5 寸	99㎜	4.5 寸	86㎜
3　寸	95㎜	5　寸	82㎜
3.5 寸	93㎜	5.5 寸	79㎜
4　寸	89㎜	6　寸	76㎜



・屋根表面だけでなく、小屋裏の構造も考慮して取り付け位置を決めてください。
・決めた位置に上記の寸法で開口を開けます。
・開口後、下葺き材を張ります。
・連続で施工する場合は、P65を参照してください。

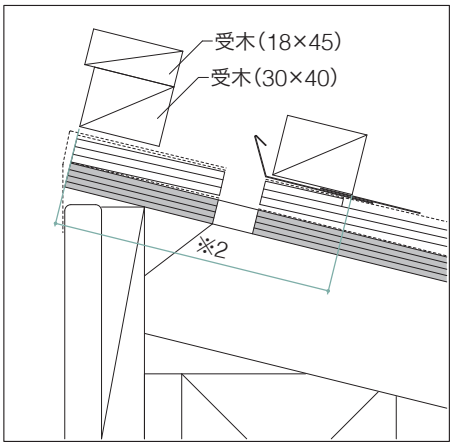
②捨水切の施工

・捨水切は開口より両端20㎜余幅をとっておきます。
・折り曲げ加工をして開口の三方を囲みくぎで留め付け、捨水切加工部とルーフィングとの境界部に防水テープを貼ってください（右図参照）。
・ピンホールなどにはシーリングを施工してください。



③受木の取り付け

・受木を施工します（下図・表参照）。

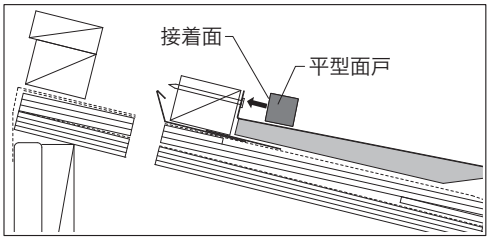


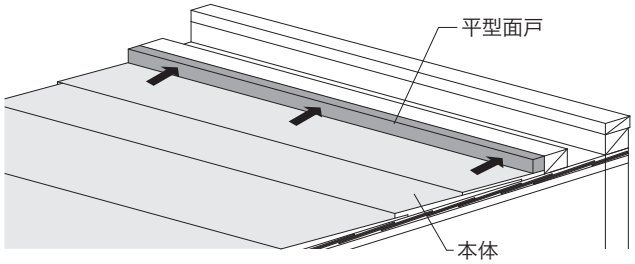
〈※2〉の勾配による寸法対応表			
2.5 寸	143㎜	4.5 寸	130㎜
3　寸	139㎜	5　寸	126㎜
3.5 寸	137㎜	5.5 寸	123㎜
4　寸	133㎜	6　寸	120㎜

G. 換気棟の納まり　G-2. 片流れ用換気棟

④本体の施工と先端加工

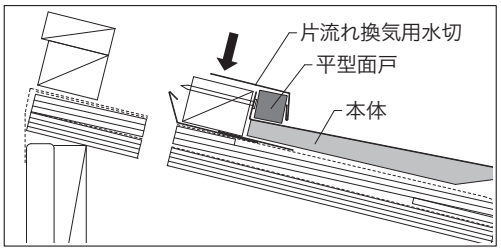
・③で施工した受木まで本体を葺き、先端部分は立ち上げておきます。
・立ち上げた本体の側面に平型面戸を貼り付けます。

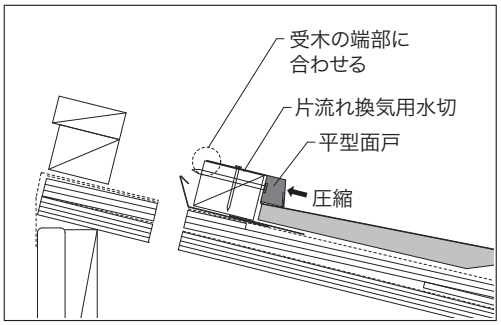


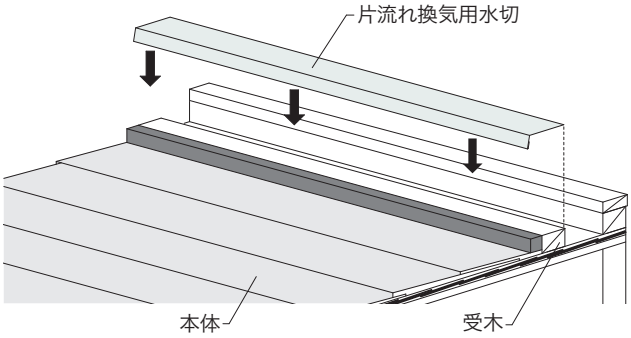


⑤片流れ換気用水切の施工

・片流れ換気用水切を平型面戸と受木を覆うように施工します。片流れ用換気棟と片流れ用棟包みをつなぐ場合は、片流れ換気用水切を必ず併用して、施工してください。
・平型面戸を圧縮し、受木の端部に片流れ換気用水切を合わせて留め付けてください。

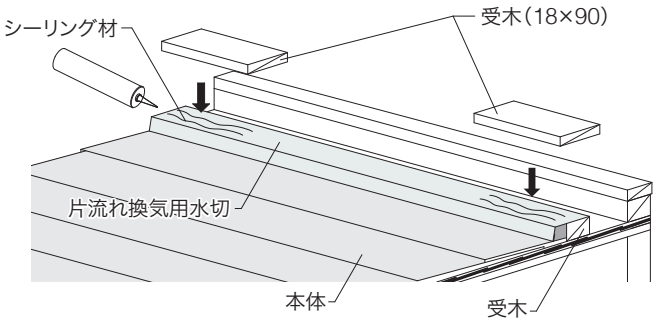






⑥受木（18×90）の施工

・片流れ用棟包みを取り付ける場所に受木（18×90）を置きます。
・受木（18×90）を置く場所にシーリング材で防水処理をしてください。



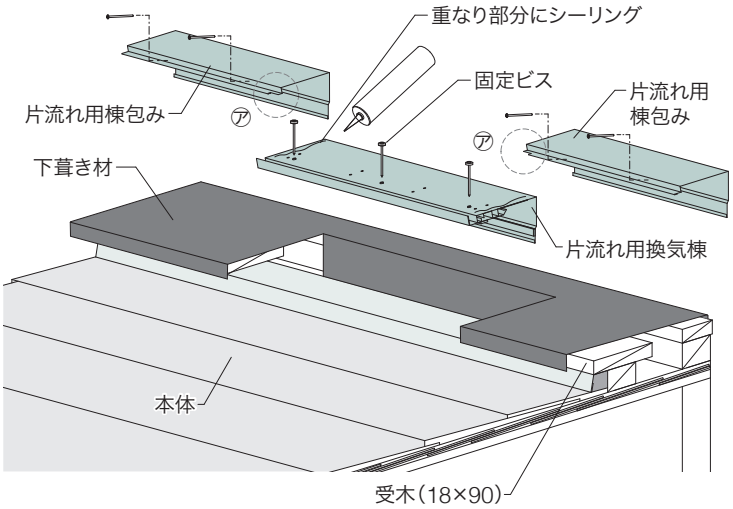
単位：㎜

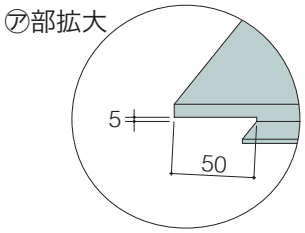
G. 換気棟の納まり　G-2. 片流れ用換気棟

⑦片流れ用換気棟、片流れ用棟包みの取り付け

⑦-1. 屋根面の施工

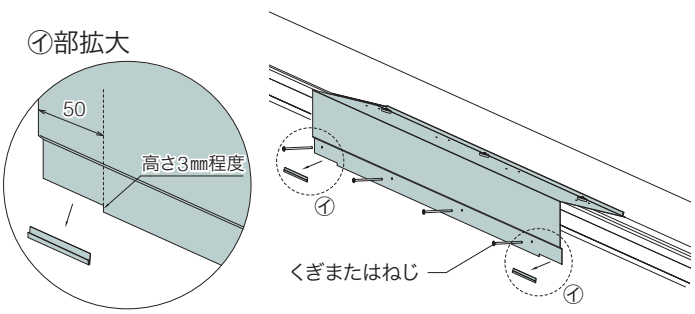
・受木の上に下葺き材を施工してください。
・右図を参照して片流れ用換気棟と片流れ用棟包みを施工します。
・片流れ用換気棟は固定ビスで上部の下穴に留め付けてください。
・片流れ用換気棟の右側に片流れ用棟包みを施工する場合は、下図(㋐部拡大)を参考に、重なる部分をあらかじめカットしてください。
・接合重なり部分にはシーリング材で防水処理をしてください。

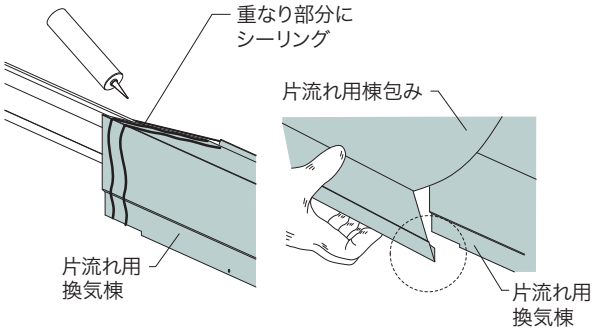




⑦-2. 壁面の施工

・壁面には、くぎまたはねじで留め付けてください。
・片流れ用換気棟の重ね代は、下から3㎜、幅50㎜程度切り欠いてください(㋑部拡大)。
・片流れ用換気棟の重ね代は、図のように捨てシーリングを施してください。
・片流れ用棟包みの垂れの折返し部分を片流れ用換気棟切り欠き部分に引っ掛けて接合してください。

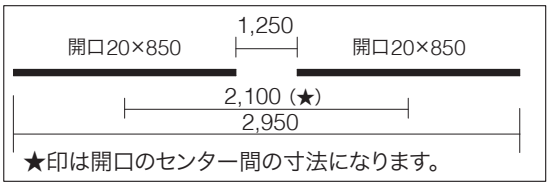


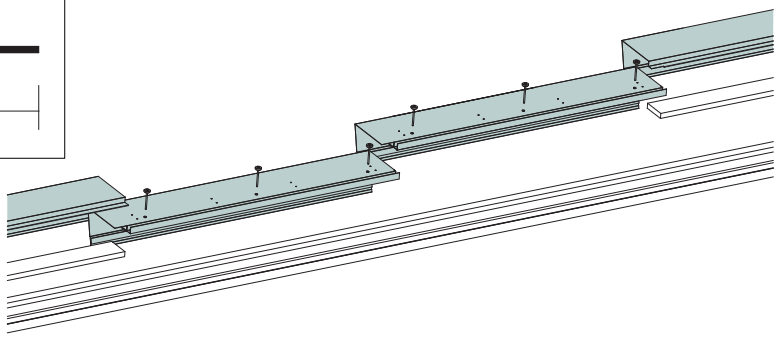


⑧連続施工時の開口間寸法

・片流れ用換気棟同士の連続施工の場合は、野地板の開口は片流れ用換気棟の中心を振り分けるか、または下の開口寸法図を参考にして開けてください。開口同士は、通して開けないでください。

連続施工時のピッチ





単位：㎜

H. 雪止めの納まり

● スーパーガルテクト用雪止めの取り付け基準

① 適用範囲

スーパーガルテクト用雪止め（雪止めＧＴ（Ⅲ）ハネタイプ、雪止めＧＴ（Ⅳ）ハネタイプ）は、一般地域（最深積雪量の平均値がおおむね30㎝以下の地域）で使用してください。すがもれのおそれがあります。

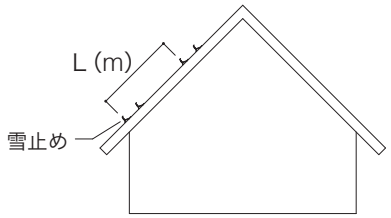
② １段あたりが負担できる屋根の流れ長さ：L（m）※1

・対象となる物件（地域）の積雪単位荷重を確認し、下表より雪止めの必要段数を求めてください。
　必要段数＝屋根の流れ長さ÷1段あたりが負担できる屋根の流れ長さ
・屋根材の静止摩擦係数（μ）の値は0.05としています。
・下表以外については、弊社にお問い合わせください。

積雪単位荷重：２[kg/m²・㎝]の場合

積雪量	勾配（寸）						
	3.5寸	4寸	4.5寸	5寸	5.5寸	6寸	6.5寸
10㎝	20m※2	19.0m	16.9m	15.3m	14.1m	13.1m	12.3m
20㎝	10.9m	9.5m	8.5m	7.7m	7.0m	6.6m	6.2m
30㎝	7.3m	6.3m	5.6m	5.1m	4.7m	4.4m	4.1m

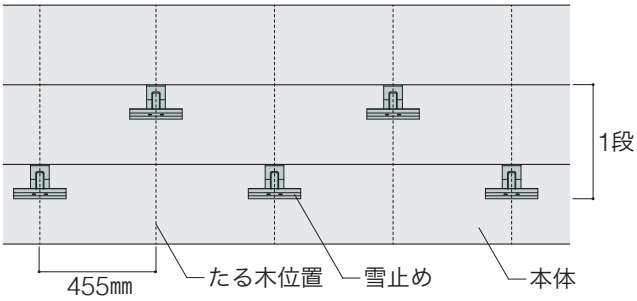
※１　3.5寸未満の勾配は、1段あたりが負担できる屋根の流れ長さを7mとしてください。
※２　この値は、流れ長さの制限に合わせています。（P1参照）



③ １段あたりの雪止めの取り付け配置

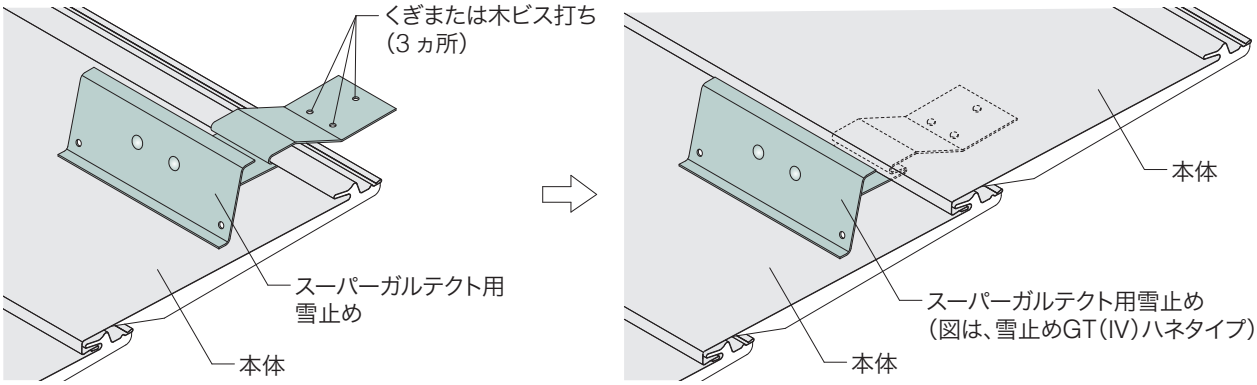
・１段とは千鳥に２列（455㎜間隔）取り付けることを意味します。
・表より求めた、必要段数の雪止めを施工してください。
・基準通りに取り付けても、気象条件などによっては、雪が落下することがあります。

⚠ 雪止めを足場にしたり、物を置いたりするなど、雪止め以外の用途には使用しないでください。破損し落下するおそれがあります。



●スーパーガルテクト用雪止めの取り付け方

・かん合部に合わせて取り付けてください。
・スーパーガルテクト用雪止めは先付けです。後付けはできません。
・本体と同様の留め具を用いて留め付けてください。
・本体の留め付け方法を野地板留めにする場合は、指定ビスを使用して野地板に留め付けることも可能です。
　野地板留めには、指定下葺き材と指定ビスでの施工が必須となります（P13参照）。



8 合板下地工法（カバー）

8－1. 施工の手順

① 施工前の確認事項	・事前に既存屋根材や既存下地等が、合板下地工法での施工が可能な状態なのか確認を行ってください。確認する内容は、P9～「5施工前の確認事項」を参照してください。併せてP79「10-2.改修物件調査チェックシート」を確認してください。
② 既存部材の取り外しと加工	・既存棟包み、既存隅棟包みを取り外してください。 ・既存ケラバ水切を加工してください。 ・既存雨押えを加工してください。
③ 受木と構造用合板の施工	・軒先とケラバに受木（15㎜×90㎜）を取り付けてください。 ・構造用合板　特類2級（厚さ12㎜）を施工してください。
④ 唐草G50または改修用一体唐草29の取り付け	・唐草G50は、捨て水切（現場加工）を施工してください。 ・唐草を水平に取り付けるために、墨出しを行ってください。本体の仕上がりに影響します。
⑤ 下葺き材の施工	・下葺き材は、全面に施工してください。 ・留め具と勾配によって使用する下葺き材が異なります。詳しくは、P12～「6下葺き材・留め具の選定」を参照してください。
⑥ ケラバの施工	・ケラバ水切を取り付けてください。
⑦ 墨出し	・たる木の位置が確認できるように墨出しを行ってください。 ・本体の働き幅で墨出しを行ってください。
⑧ 先付け部材の取り付け	・各部位の納め方に応じた、C型捨板や差し棟下地N、谷樋D（Ⅱ）などの先付け部材を取り付けてください。
⑨ 本体の取り付け	・各部位の納め方に応じて本体を切断、加工し取り付けてください。 ・切断時に出るバリや切り粉は、さびや汚れの原因になりますので、必ず除去してください。 ・本体の施工方法はP70「8-3.本体の施工とポイント」を参照してください。
⑩ 後付け部材の取り付け	・各部位の納め方に応じた、棟・隅棟包みDや壁押え部材などの後付け部材を取り付けてください。
⑪ クリーニング・補修	・表面材をクリーニングする場合は、から拭きか、水または中性洗剤で洗浄してください。酸性やアルカリ性の洗剤は塗膜を傷め変色、腐食を招くおそれがあります。洗浄する際は、温水（ぬるま湯程度）を使用すると汚れが落ちやすい傾向があります。中性洗剤で洗浄した後は、水でよく洗い流してください。 ・洗浄用具としては、硬いブラシ、研磨性のあるスポンジなどは使用しないでください。表面材にキズが付き腐食を招くおそれがあります。 ・補修については、P1～「1取り扱い時のお願い」を確認し、適切に行ってください。

・納まりの詳細は、P71～「8-4.各部の納まり」を確認し、適切に行ってください。取り合いの加工方法は、P14～「7直張工法」と合わせて確認してください。
・本体及び部材の留め付け間隔は455㎜以下としてください。

単位：㎜

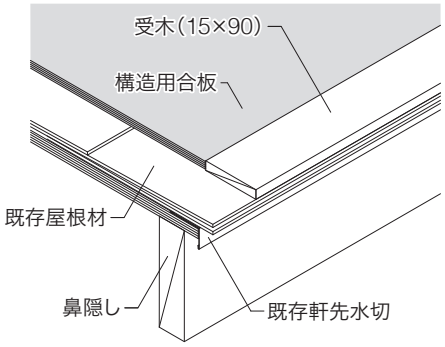
8－2. 下地の調整

既存部材の取り外しと加工については、P15「7 直張工法　7-2. 下地の調整」を参考にしてください。

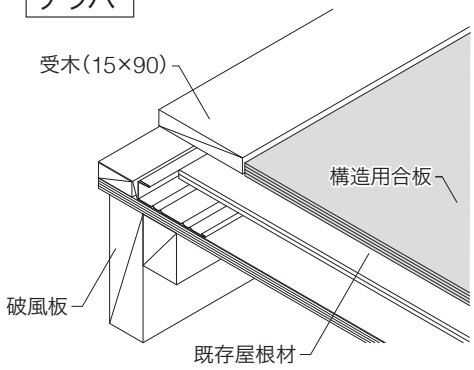
●受木と構造用合板の施工

・軒先とケラバには、受木（15×90）を取り付けてください。
・構造用合板　特類2級（厚さ12㎜）を施工してください。
　注意：小幅板は使用しないでください。

軒先

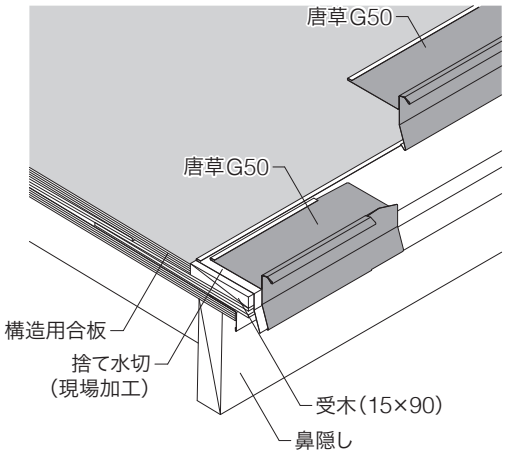


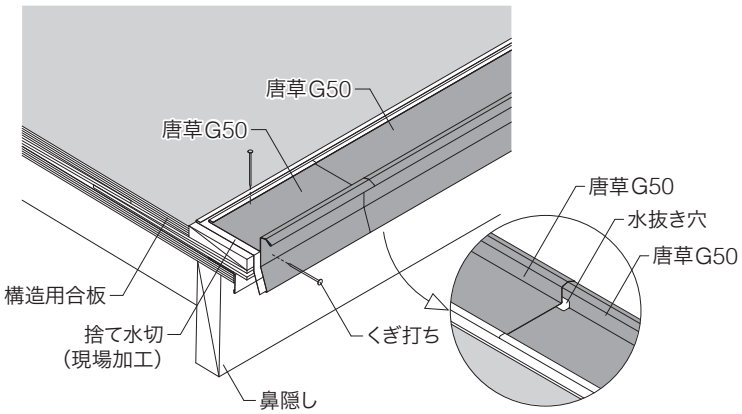
ケラバ



●唐草G50の施工

・唐草G50を施工する前に、墨出しを行ってください。
・唐草G50は、墨出しに合わせて施工してください。本体の仕上がりに影響します。唐草G50同士をつなぐため、切り欠き加工が施されています。



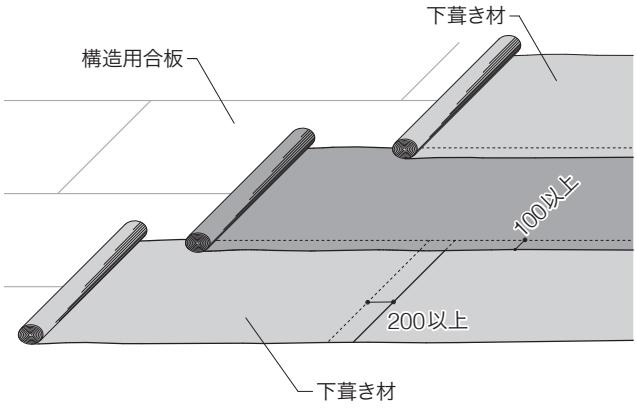


単位：㎜

●下葺き材の施工

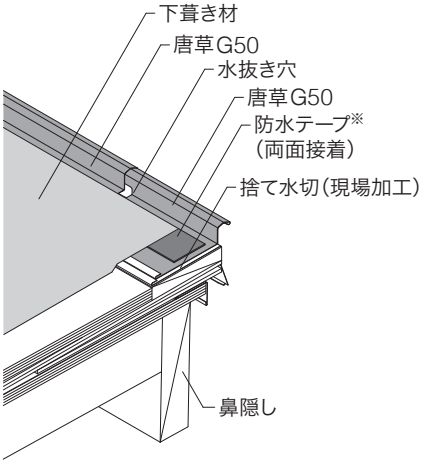
勾配と工法、留め具により下葺き材の種類が異なります。
詳細は、P12 ～「6 下葺き材・留め具の選定」を参照してください。

一般部



・流れ方向100㎜以上、水平方向200㎜以上重ねてください。

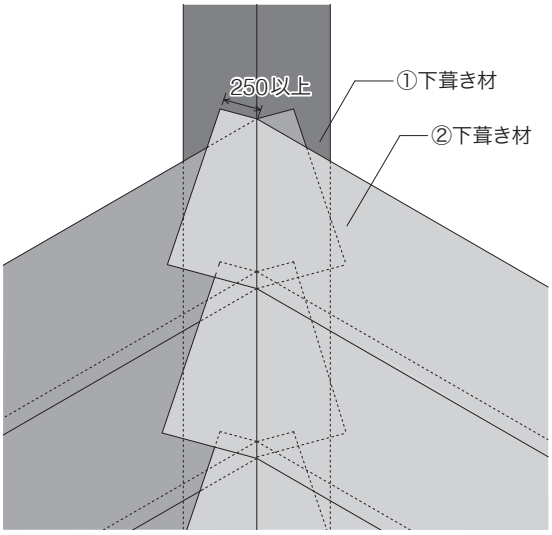
軒先部



・唐草G50と下葺き材は、防水テープで密着してください。
・唐草G50のつなぎ部にある水抜き穴を、下葺き材でふさがないように注意してください。

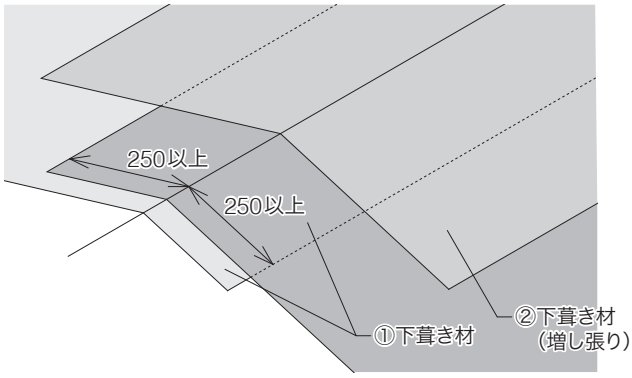
※　粘着層付き改質アスファルトルーフィングの場合は無し。

谷部



①谷の中心に合わせて施工してください。
②谷を越えて、片側250㎜以上ずつ重ねてください。

棟部



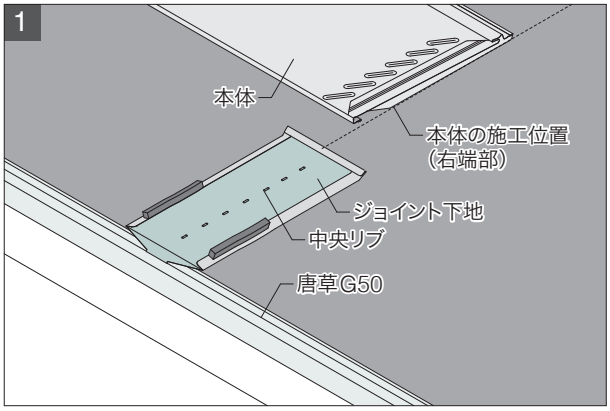
①棟を越えて、片側250㎜以上重ねて施工してください。
②棟の頂点に合わせ増し張りを行ってください。

単位：㎜

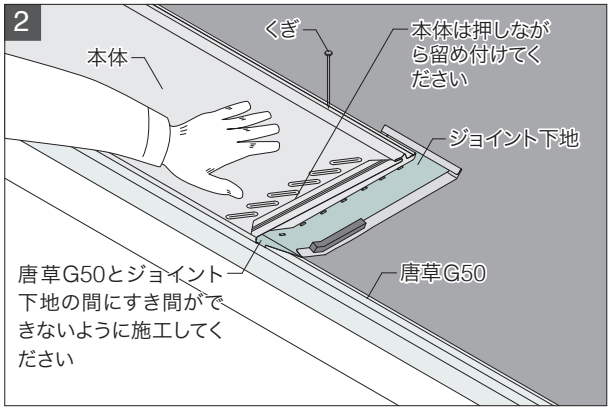
8−3. 本体の施工とポイント

●ジョイント下地の施工

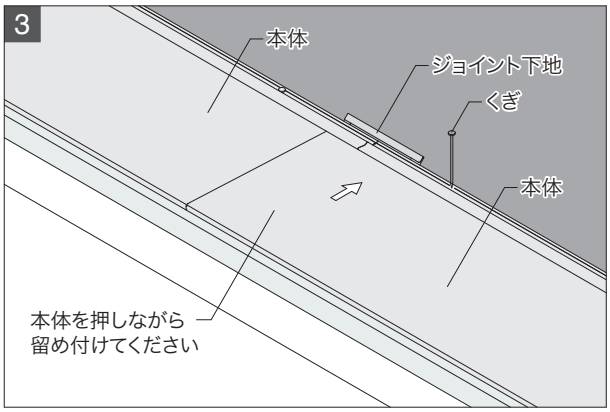
合板下地工法で施工する3.5寸未満の勾配の屋根では、本体の横ジョイント部全てにジョイント下地を施工してください。
ジョイント下地は、くぎなどで穴をあけないでください。
墨出し線への合わせ方や注意などは、P17「7 直張工法　7-3.本体の施工とポイント」と併せて確認してください。



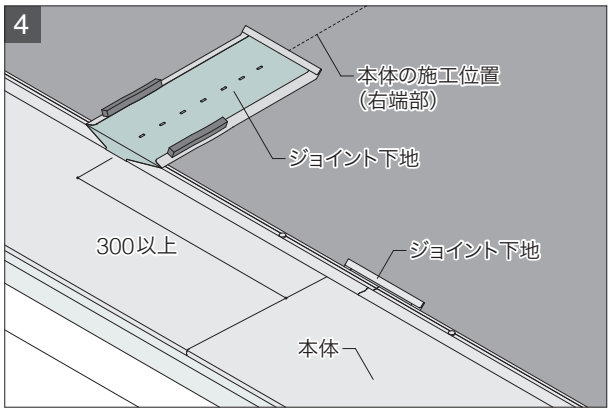
・最初に本体の施工位置を決め、本体の右端部にジョイント下地の中央リブを合わせて、ジョイント下地を配置します。ジョイント下地は、本体を施工する前に曲げないでください。



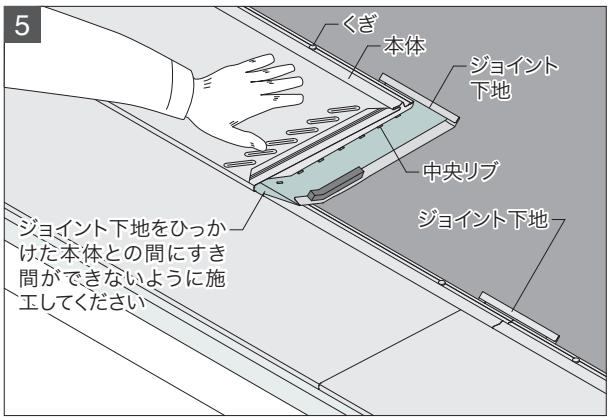
・手で本体を押しながら留め付けてください。



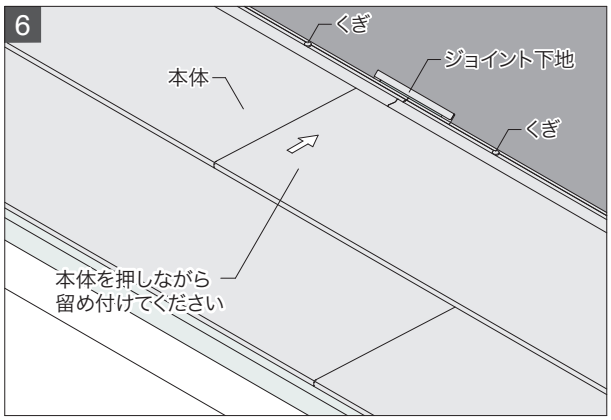
・次の本体も手で押しながら留め付けてください。



・施工順序は、二段目以降も一段目と同じです。本体の横ジョイント部は上下で重ならないように、300㎜以上離して割り付けてください。ジョイント下地は、本体を施工する前に曲げないでください。



・一段目と同様に、本体をジョイント下地の中央リブに合わせて配置し、手で本体を押しながら本体を留め付けてください。



・3と同様に、次の本体も手で押しながら留め付けてください。

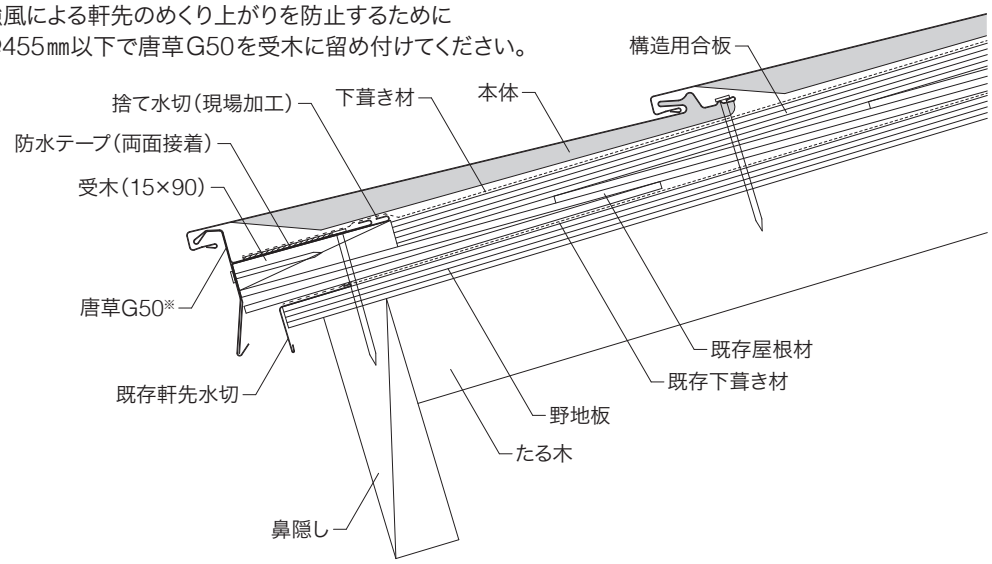
単位：㎜

8－4. 各部の納まり

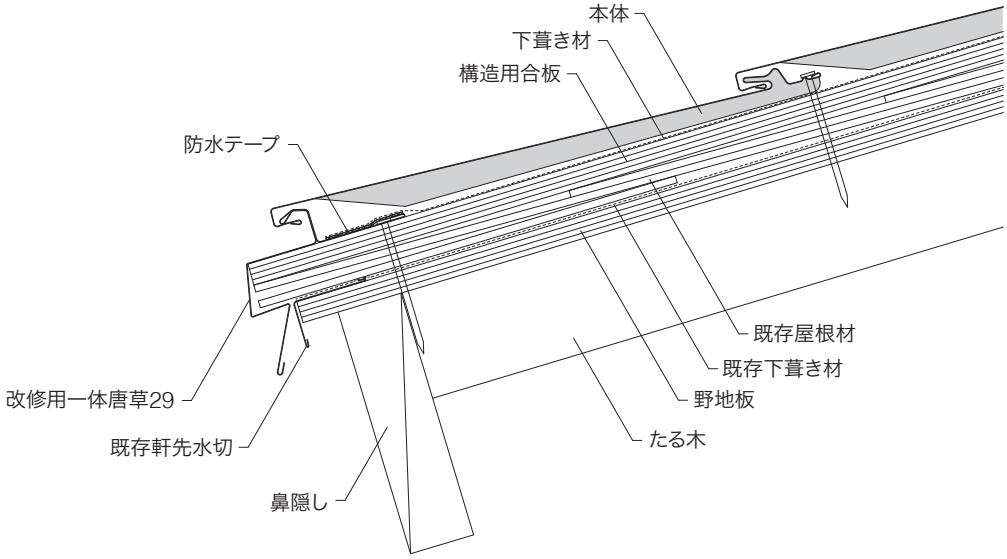
本体や部材の施工方法は、P15～「7 直張工法　7-2. 下地の調整、7-4. 各部の納まり」を参照してください。

軒先部①

※　強風による軒先のめくり上がりを防止するために
@455㎜以下で唐草G50を受木に留め付けてください。

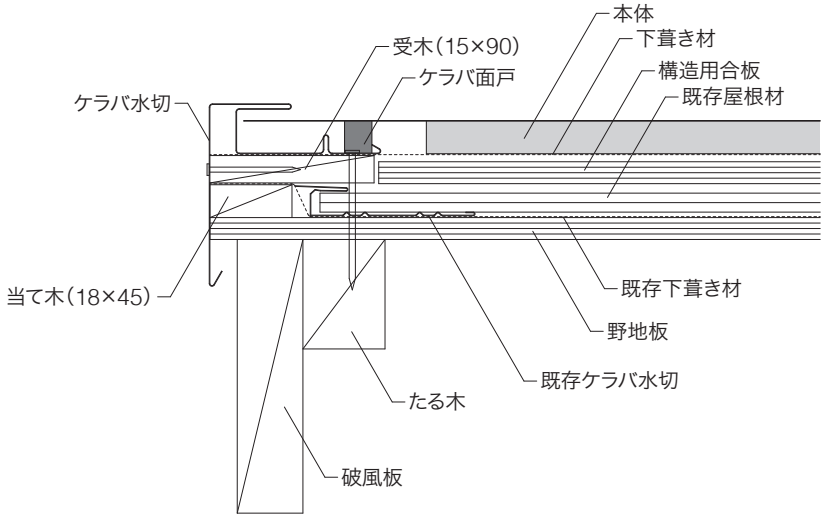


軒先部②



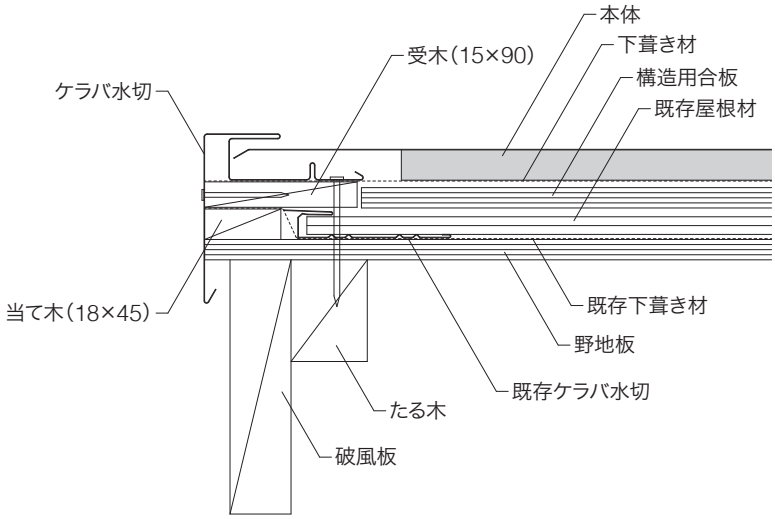
ケラバ部①

ケラバ水切とケラバ面戸を併用する場合（推奨）

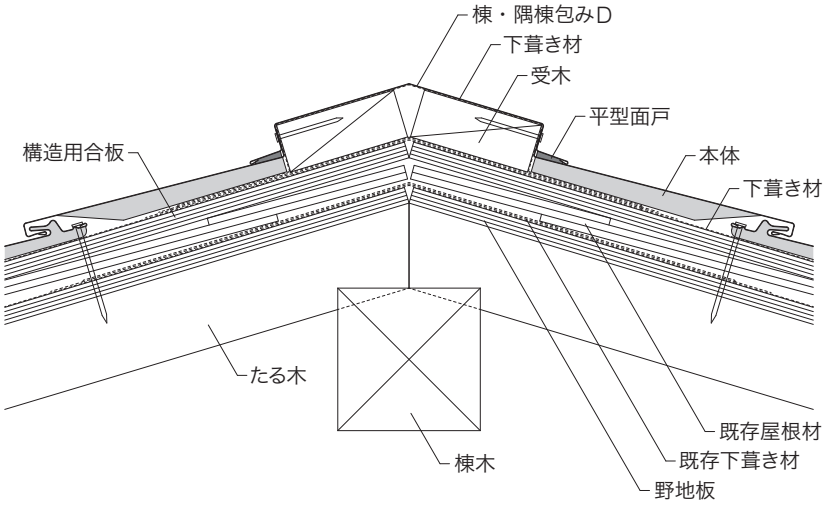


単位：㎜

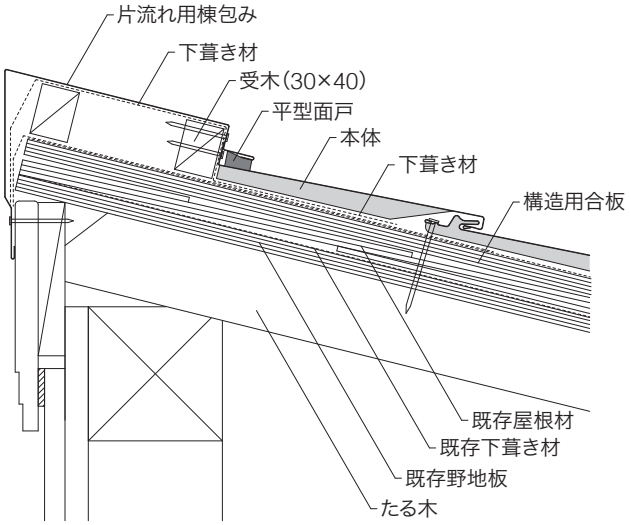
ケラバ部② ケラバ水切のみで納める場合



棟部①



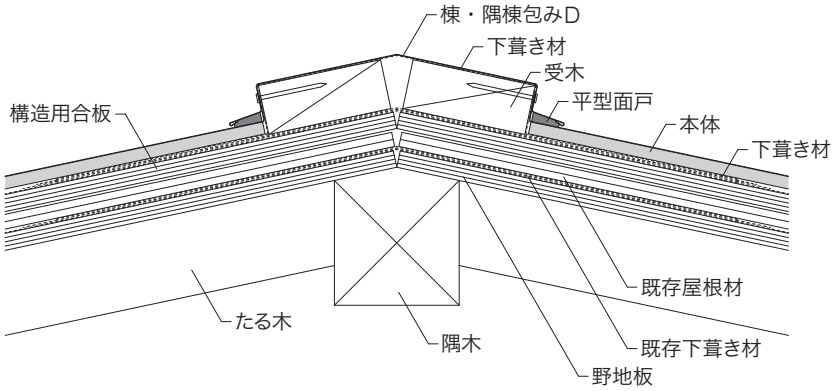
棟部②



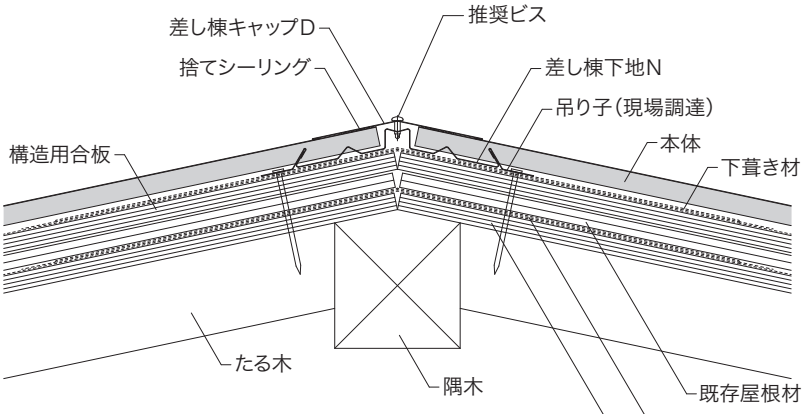
8 合板下地工法（カバー）

単位：㎜

隅棟部① 棟・隅棟包みDを使用する場合



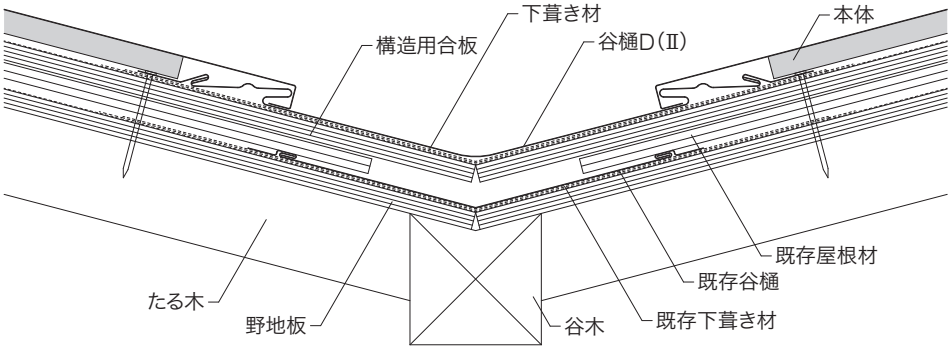
隅棟部② 差し棟キャップDを使用する場合



推奨ビス

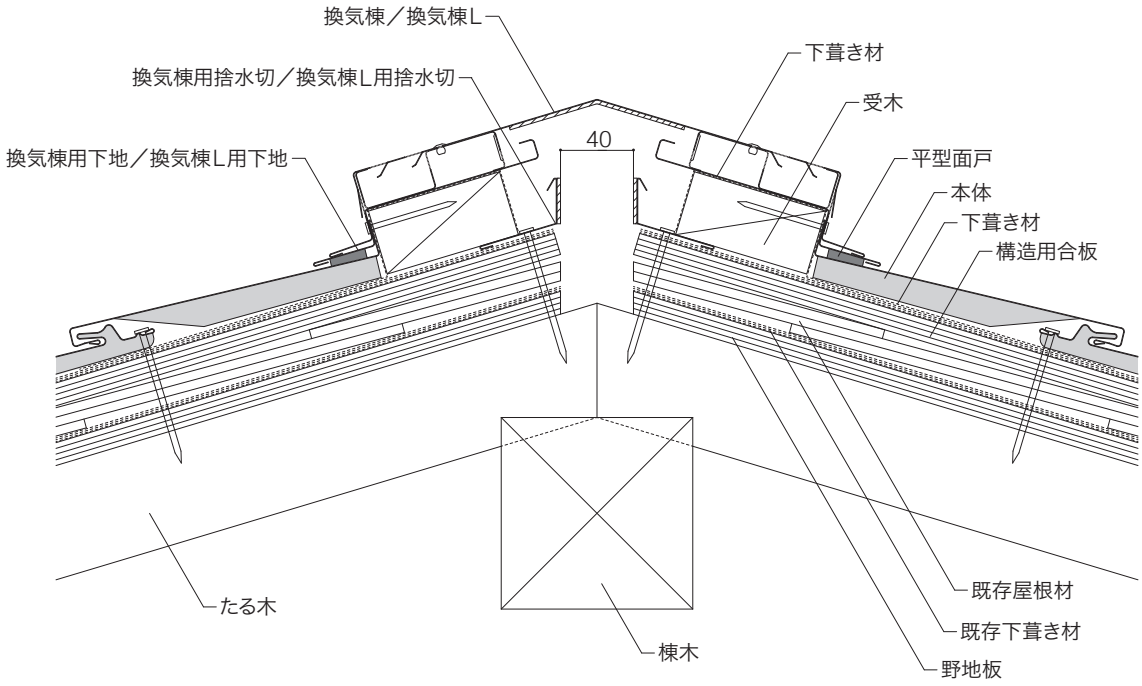
メーカー	品名	頭タイプ	サイズ
日本パワーファスニング（株）	MBシートテクス　4.5ミリ	シンワッシャー	4.5×13
（株）ヤマヒロ	トルネードポイント	トラス（シンワッシャー）	4×12
	ジャックポイント（ミニジャック）	トラス（シンワッシャー）	4×13
若井産業（株）	ダンパゼロ	シンワッシャー	4×14

谷部

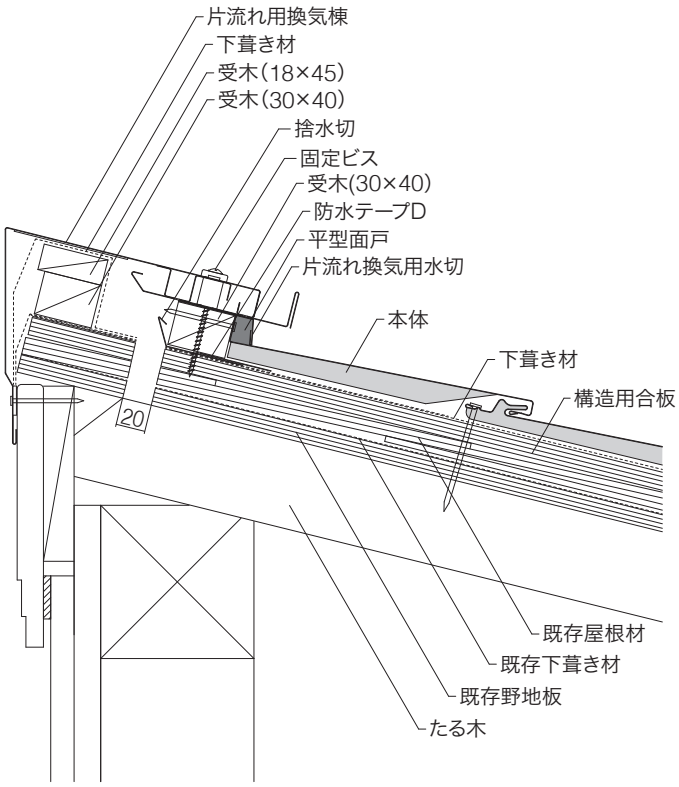


単位：㎜

換気棟の納まり① 換気棟または換気棟Lを施工する場合



換気棟の納まり② 片流れ用換気棟を施工する場合

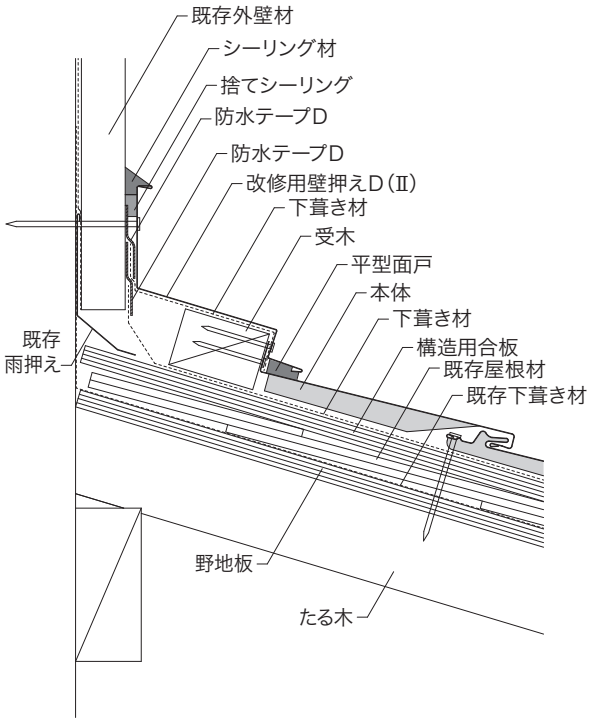


瑕疵担保保険申請時のご注意
P80を参照してください

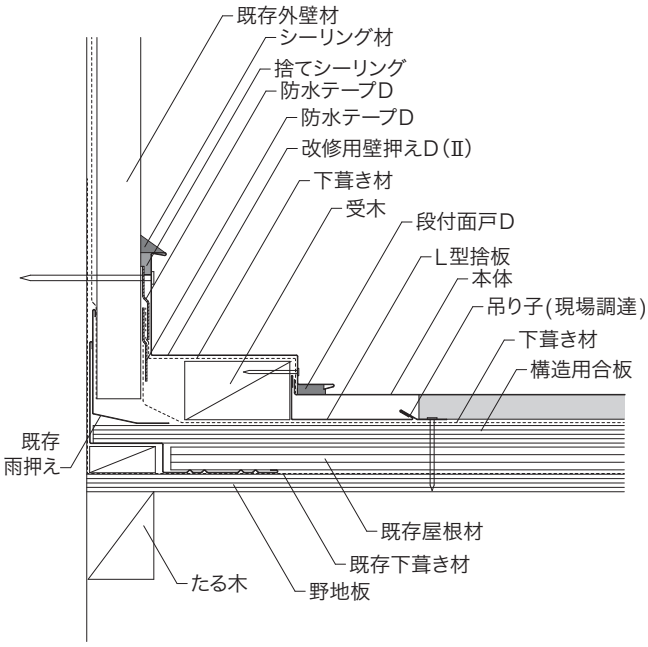
単位：㎜

壁との取り合い部①

〈流れと垂直な壁との納まり〉

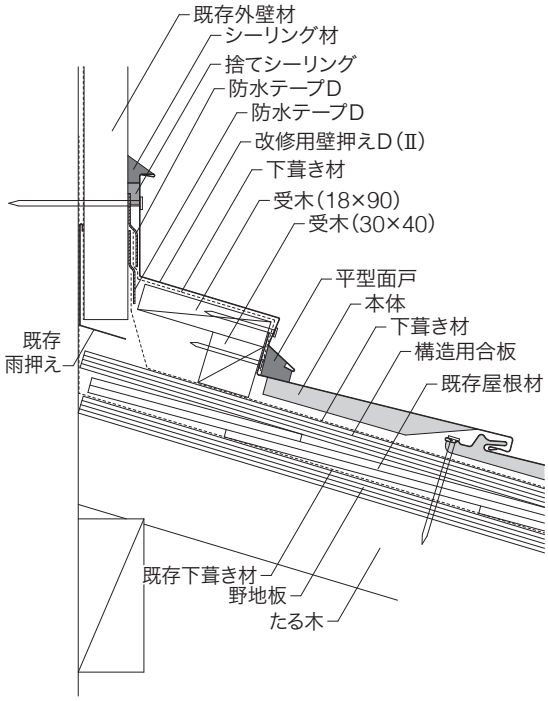


〈流れと平行な壁との納まり〉

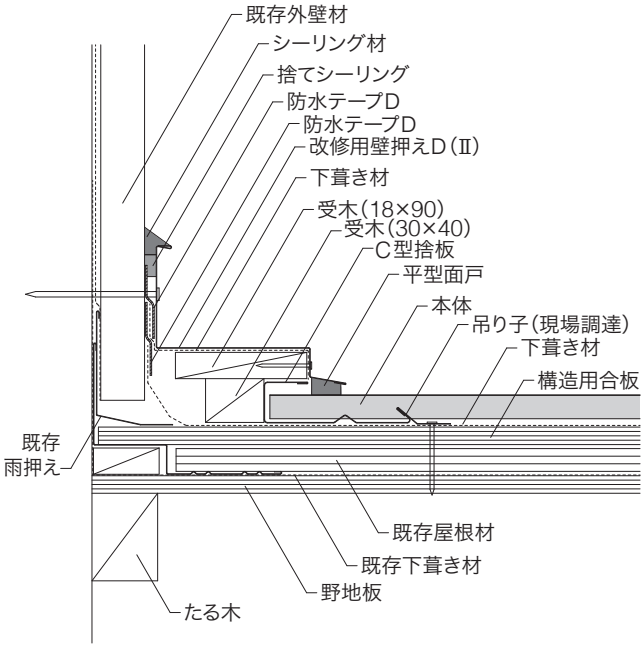


壁との取り合い部②

〈流れと垂直な壁との納まり〉



〈流れと平行な壁との納まり〉



9 合板下地工法（葺き替え）

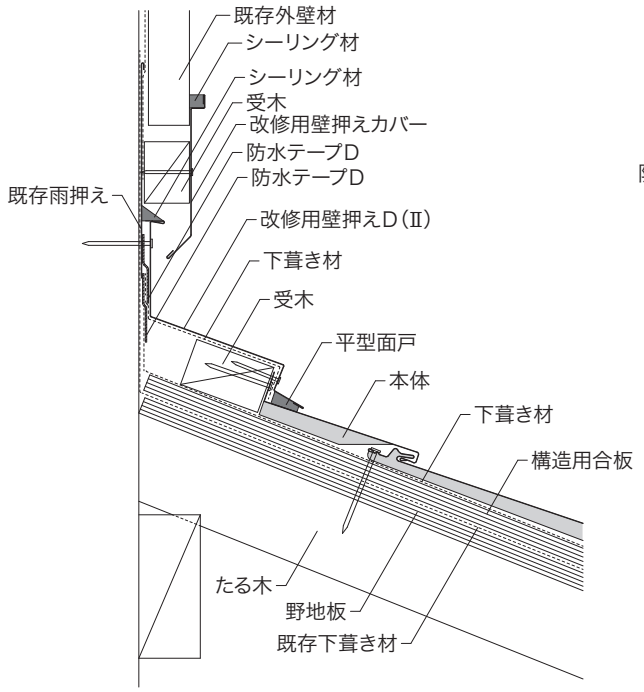
瑕疵担保保険申請時のご注意
P80を参照してください

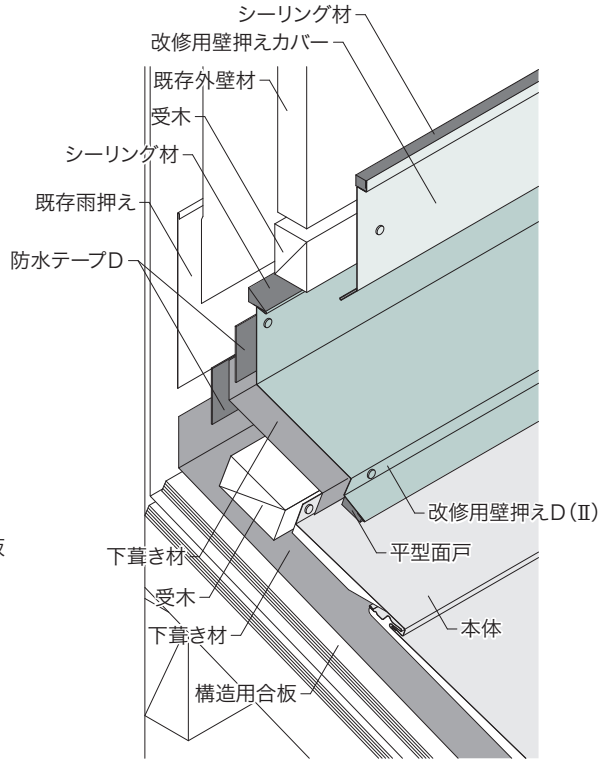
単位：㎜

合板下地工法（葺き替え）は、既存屋根を取り外してアイジールーフを施工する葺き替え工法です。
その他の納まりは、アイジールーフ施工説明書［新築用］を参照してください。

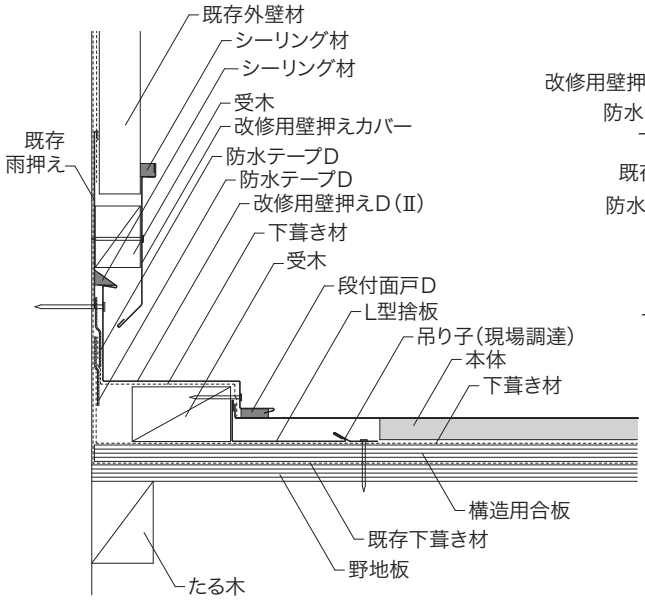
壁との取り合い部

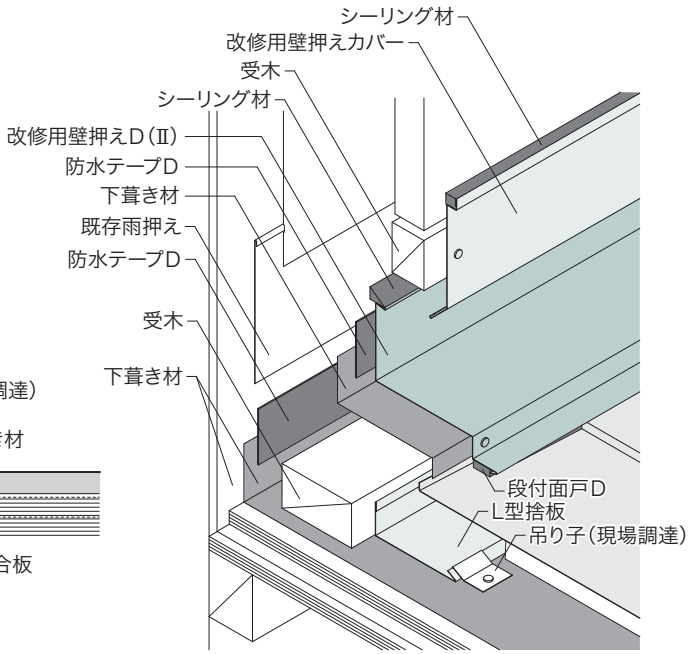
〈流れと垂直な壁との納まり〉





〈流れと平行な壁との納まり〉





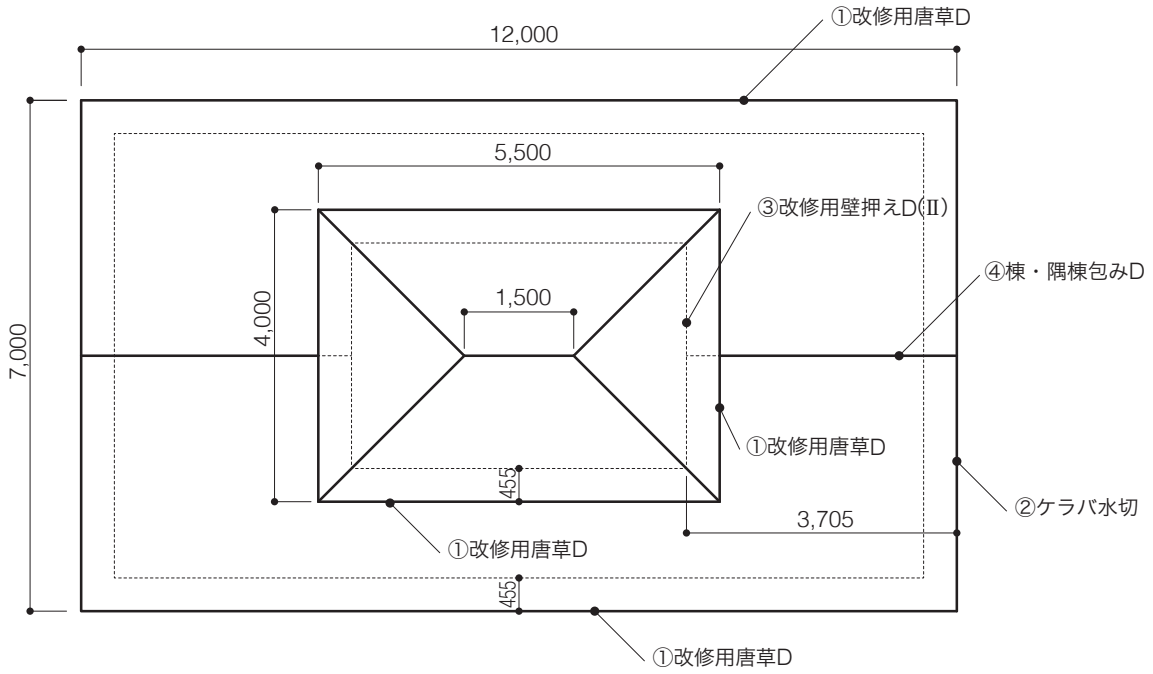
- 改修用壁押えカバーは、下地面と既存外壁材の下端との間が120～200㎜の場合に使用できます。
- 既存雨押えの不要な部分を切断し、既存雨押えの受木を取り外してください。
- 改修用壁押えD（Ⅱ）を留め付ける受木は、高さ36～45㎜、幅60～80㎜を選定してください。幅30～40㎜の受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。
- 本体を受木に合わせて立ち上げ、不要な部分は切り取ってください。
- 壁押えD（Ⅱ）を既存外壁に留め付け、シーリング材を施工した後、改修用壁押えカバーを施工してください。改修用壁押えカバーを留め付ける受木は、既存外壁の厚さに合わせて選定してください。

10 参考資料

10－1. 積算方法

●例：3.5寸勾配の場合

単位：㎜



上図を例に算出しています。

①改修用唐草D

・軒の長さ＝43,000㎜　　重ね幅＝50㎜　　の場合

軒の長さ÷（改修用唐草D１本の長さ－重ね幅）

＝43,000÷（2,727－50）＝16.06⇒17本必要です。

（ロス分は含まれておりません）

②ケラバ水切

・ケラバの長さ＝14,826㎜　　重ね幅＝50㎜　　の場合

ケラバの長さ÷（ケラバ水切1本の長さ－重ね幅）

＝14,826÷（2,727－50）＝5.54→6本必要です。

（ロス分は含まれておりません）

③改修用壁押えD（Ⅱ）

・壁との取り合い部＝15,726㎜　重ね幅＝50㎜　出隅加工幅＝150㎜　　の場合

（壁との取り合い部+（出隅加工幅×出隅の数））÷（改修用壁押えD（Ⅱ）１本の長さ－重ね幅）

＝（15,726+（150×4））÷（2,727－50）＝6.10⇒7本必要です。

（ロス分は含まれておりません）

④棟・隅棟包みD

・棟・隅棟の長さ＝20,566㎜　重ね幅＝150㎜　出隅加工幅＝150㎜　　の場合

（棟･隅棟の長さ+（出隅加工幅×出隅の数））÷（棟･隅棟包みD１本の長さ－重ね幅）

＝（20,566+（150×4））÷（2,727－150）＝8.21⇒9本必要です。

（ロス分は含まれておりません）

●本体

・切妻

積算の面積Am^2×ロス率※1（10%）＝A×1.1＝Bm^2

Bm^2÷１ケース当たりの面積＝Bm^2÷4.71m^2＝Cケース※2

・寄棟

積算の面積Am^2×ロス率※1（15%）＝A×1.15＝Bm^2

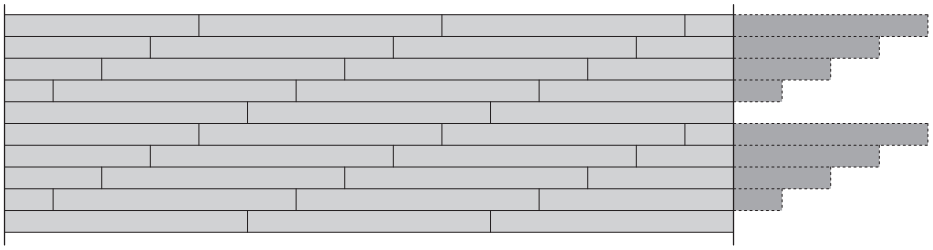
Bm^2÷１ケース当たりの面積＝Bm^2÷4.71m^2＝Cケース※2

※１：ロス率は目安であり、建物の形状や葺き方（回し葺き、一文字葺き）によって異なります。

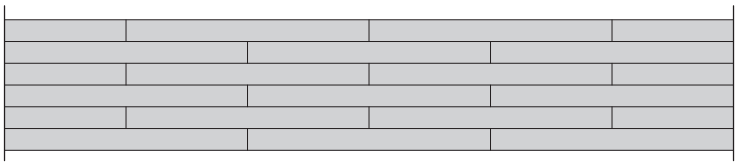
※２：本体は、１ケース単位の出荷ですので、小数点は切り上げてください。（例　C＝5.3ケース→6ケース）

●本体の葺き方

・回し葺き（階段葺き）＜施工ロスが少なくなります＞

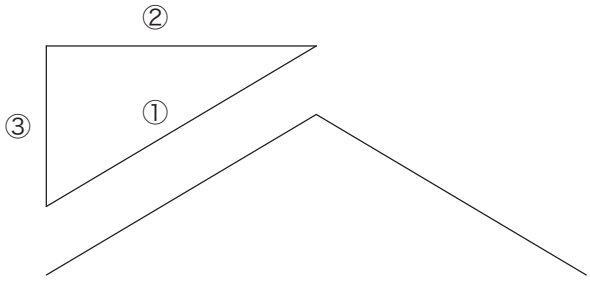


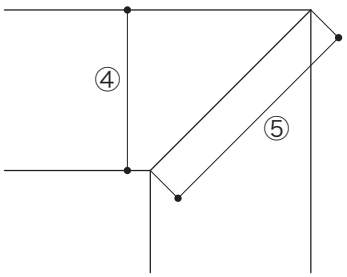
・一文字葺き（千鳥葺き）



参考資料

屋根　実寸法算出用係数表





屋根（流れ）の実寸法①＝図面上の寸法②　×　伏図用係数

屋根（流れ）の実寸法①＝図面上の寸法③　×　立面図用係数

隅（谷）の実寸法⑤＝図面上の寸法④　×　伏図・立面図用係数

勾配	2.5寸	3　寸	3.5寸	4　寸	4.5寸	5　寸	5.5寸	6　寸
伏図用係数	1.031	1.044	1.059	1.077	1.097	1.118	1.141	1.166
立面図用係数	4.123	3.480	3.027	2.693	2.437	2.236	2.075	1.944
伏図・立面図用係数	1.436	1.446	1.457	1.470	1.484	1.500	1.517	1.536

勾配	6.5寸	7　寸	7.5寸	8　寸	8.5寸	9　寸	9.5寸	矩勾配
伏図用係数	1.193	1.221	1.250	1.281	1.312	1.345	1.379	1.414
立面図用係数	1.835	1.744	1.667	1.601	1.544	1.495	1.452	
伏図・立面図用係数	1.566	1.578	1.601	1.625	1.650	1.676	1.704	1.732

10－2. 改修物件調査チェックシート

調査日
年　　月　　日
調査実施者

・物件調査の前に基準風速をチェックし必要な耐風圧性能値を確認してください。
・建物高さによっては施工不可の可能性がありますので注意してください。

		適用項目		基準
建物概要	1	物件名	様邸	
	2	物件住所		・年間平均最深積雪量が概ね30cmを超える地域は施工不可 ・一部解禁地域は要相談
	3	基準風速	(　　)m／ s 地域	
	4	築年数	築 (　　)　年	
	5	建物用途	□戸建て　□集合住宅　□その他 (　　)	
	6	建物高さ	(　　)m	・13m以下(13mを超える場合要相談)
屋根概要	7	屋根形状	□切妻　□寄棟　□片流れ　□その他 (　　)	
	8	特殊部位	□有り (　　)　□無し	
	9	屋根勾配	(　　)寸	・施工可能:2.5寸以上 ・合板下地工法の場合: 3.5寸未満はジョイント下地必須
	10	屋根流れ長さ	□7m以下 (　　)m　□20m以下 (　　)m	・2.5寸～3.5未満:7mを超えると施工不可 ・3.5寸以上は20mを超えると施工不可
	11	既存屋根材	□化粧スレート (　　)　□その他 (　　)	・スレート、シングル材:直張工法可 ・瓦:合板下地工法 (葺き替え)
屋根状態	12	既存下地	□構造用面材　□その他 (　　)	
	13	既存屋根材	□割れ　□浮き　□ズレ　□その他 (　　)	・有りの場合:補修必要
	14	雨漏り	□有り (状況　　)　□無し	・有りの場合:補修必要
	15	既存野地劣化状態	□歩行時たわみ有り　□無し	・有りの場合:補修必要
	16	構造体劣化状態	□有り (状況　　)　□無し	・有りの場合:施工不可
	17	下地強度 (強度試験) ※項目13～16に異常がある、若しくは判断不可の場合実施	□600N ／本以上　□600N ／本未満 (強度試験)	・600N／本未満の場合:合板下地工法
その他	18	付帯品有無	□太陽光パネル　□太陽熱温水装置　□TVアンテナ □エアコン室外機　□無し	・太陽光パネルの再設置は不可
	19	足場設置	□可能　□不可	・勾配により足場必要

判定

□直張工法
判定基準
□既存屋根:化粧スレート、シングルの場合
□既存劣化状態:項目13～16に異常がない場合
　または、引抜き強度試験にて600N ／本以上の場合

□合板下地工法 (カバー)
判定基準
□既存屋根:化粧スレート、シングルの場合
□既存野地劣化状態:たわみ有りの場合
□下地強度:引抜き強度試験にて
　600N／本未満の場合

□合板下地工法 (葺き替え)
判定基準
□既存屋根:化粧スレート、
　シングル以外の場合
□下地強度:引抜き強度試験にて
　600N／本未満の場合

※施工可能な前提条件
□屋根勾配:2.5寸以上
□流れ長さ:2.5寸～ 3.5未満:7mを超えると施工不可
　3.5寸以上は20mを超えると施工不可20m以下
□雨漏り:無い事
□構造体劣化:無い事

・直張工法：既存屋根を剥がさずに、上から屋根本体を重ね張りする工法。
・合板下地工法：新規の野地板（合板）を敷き、屋根本体を施工する工法。

10ー3. 瑕疵担保保険申請時のご注意

リフォーム瑕疵担保保険の申請では、保険法人各社が定める設計施工基準に従った施工が必要です。本施工説明書には基準に沿った方法が記載されていますが、一部「壁との取り合い部」（P53〜57、P75〜76）については異なる場合があります。
保険申請時には以下の対応をお願いいたします。

保険法人	対　　応
株式会社住宅あんしん保証	包括3条確認書（技3通_24-012）を添付してください 確認書は弊社HPよりダウンロードいただけます
住宅保証機構株式会社	設計施工基準を満たしておりますので、保険法人様の申請手順に従って手続きを行ってください
株式会社日本住宅保証検査機構	包括3条確認書（JR24-1-8-0001）を添付してください 確認書は弊社HPよりダウンロードいただけます
株式会社ハウスジーメン	設計施工基準を満たしておりますので、保険法人様の申請手順に従って手続きを行ってください
ハウスプラス住宅保証株式会社	物件ごとの確認となりますので保険法人様へご確認ください

11 免責事項

次のような場合、弊社では責任を負いかねます。ご了承ください。

・施工店様による、施工や取り扱いが原因で不具合が生じた場合。
・所有者・入居者・管理者の維持管理の不注意・装置の取り付け・改修・改築により不具合が生じた場合。
・所有者・入居者・管理者または第三者の故意・過失などにより不具合が生じた場合。
・天変地異・周辺環境・大気汚染・塩害などの特殊環境下で不具合が生じた場合。
・通常の経年変化による変色・汚れなどが生じた場合。
・建物の構造体に起因した変形・変位が原因で不具合が生じた場合。
・シーリング部及び、現場塗装により不具合が生じた場合。
・本体及び部材に付着した切粉・加工屑・落ち葉・動物の排出物・粉塵などが原因で不具合が生じた場合。
・水が滞留する部分の塗膜損傷及び電食作用が原因で不具合が生じた場合。
・くぎ部のさびまたはもらいさび、及びカビよる汚染などが生じた場合。
・建築基準法及び、関係法規に違反した使用により不具合が生じた場合。
・本来の目的以外の用途で使用し、不具合が生じた場合。

IG KOGYO

アイジー工業株式会社

本　　社	〒999-3716	山形県東根市蟹沢上縄目1816-12	TEL. 0237-43-1810	FAX. 0237-41-1810
東京営業所	〒101-0065	東京都千代田区西神田3-1-6　日本弘道会ビル6F	TEL. 03-3556-0341	FAX. 03-3556-0342
札幌営業所	〒003-0026	北海道札幌市白石区本通19丁目南2-7　食糧ビル5F	TEL. 011-863-0303	FAX. 011-860-2084
盛岡営業所	〒020-0022	岩手県盛岡市大通3-3-10　七十七日生盛岡ビル7F	TEL. 019-605-8050	FAX. 019-605-8051
仙台営業所	〒983-0852	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-12-12　L.Biz仙台5F	TEL. 022-292-5405	FAX. 022-292-5406
宇都宮営業所	〒320-0811	栃木県宇都宮市大通り2-1-5 明治安田生命宇都宮大通りビル7F	TEL. 028-611-3483	FAX. 028-637-3005
新潟営業所	〒950-0912	新潟県新潟市中央区南笹口1-1-54　日生南笹口ビル6F	TEL. 025-240-6718	FAX. 025-240-6719
富山営業所	〒930-0004	富山県富山市桜橋通り1-18　北日本桜橋ビル3F	TEL. 076-443-8621	FAX. 076-443-8622
名古屋営業所	〒460-0002	愛知県名古屋市中区丸の内1-8-24　綿常第5ビル4F	TEL. 052-218-7885	FAX. 052-218-7886
大阪営業所	〒564-0051	大阪府吹田市豊津町9-1 EDGE江坂11F	TEL. 06-6310-9076	FAX. 06-6310-9077
福岡営業所	〒812-0011	福岡県福岡市博多区博多駅前3-30-23　博多管絃ビル2F	TEL. 092-474-5564	FAX. 092-474-5574

この施工説明書に掲載の商品は専門施工を必要とします。施工は専門施工店にご依頼ください。
商品改良などにより、予告なく仕様の一部を変更する場合がありますので、ご了承ください。

www.igkogyo.co.jp

No.14　2025.6.1,500